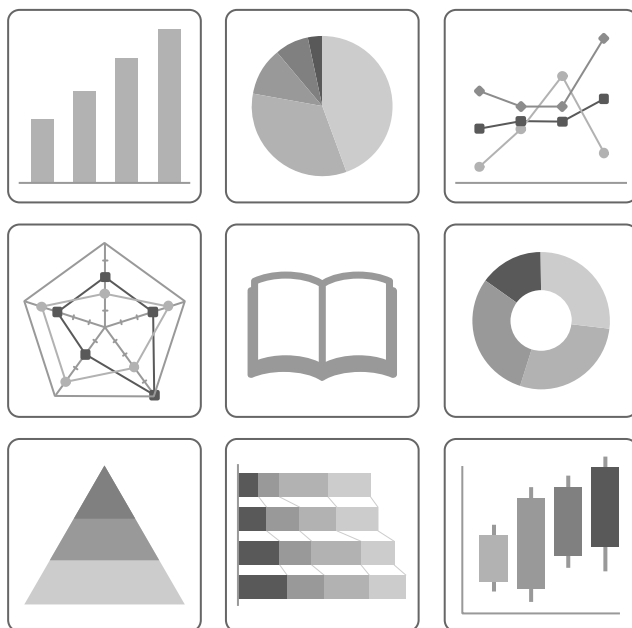


大阪狭山市の教育や生涯学習に関する市民アンケート 及び大阪狭山市教育委員会教職員用アンケート 調査結果報告書



令和元年5月

大阪狭山市教育委員会

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
II	調査のまとめ	3
III	調査結果	6
1	市民調査	6
(1)	回答者属性	6
(2)	大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について	10
(3)	家庭教育・地域教育について	40
(4)	大阪狭山市の*生涯学習・文化・スポーツなどについて	50
(5)	大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて	69
(6)	教育に関する施策全般について	72
2	教職員調査	74
(1)	回答者属性	74
(2)	教育や学習に関する取組みについて	76
(3)	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携について	85
(4)	職場環境について	87
3	共通調査	91
IV	自由意見	94
1	市民	94
2	小・中学校教員	96
3	保育園・幼稚園・認定こども園教員	97
V	調査票	98

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、次期「大阪狭山市教育振興基本計画」（計画期間：2020 年度～2024 年度）を策定するにあたり、市民の教育に関する考えや意見を伺い、計画策定及び今後の教育施策のための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

平成 25 年度にも現計画を策定するうえでの基礎資料として、市民アンケート調査を実施しています。今回の市民アンケート調査では、経年比較による市民意識の変化を把握するために、平成 25 年度に実施した市民アンケートの設問を基本として、時代背景なども考慮しながら、新たに設問・項目を追加して実施しました。

また、今回の調査では、子どもたちの状況と今後の学校教育のあり方について把握することを目的に、現計画の策定時には実施していない、教職員アンケート調査を実施しました。

2 調査対象

市 民：大阪狭山市在住の 16 歳以上の市民から無作為抽出

教職員：市内の保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教職員

3 調査期間

平成 31 年 4 月 3 日～4 月 24 日

4 調査方法

市 民：郵送配布・郵送回収による郵送調査法

教職員：直接配布・直接回収による直接調査法

5 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
市 民	2,000 通	678 通	33.9%
保育所・幼稚園 認定こども園教職員	212 通	192 通	90.6%
小・中学校教職員	321 通	243 通	75.7%

6 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・ 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査のまとめ

○大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について

大阪狭山市の就学前教育・保育、学校教育における現在の取組みについて、平成 25 年度調査と比較すると、『4. 認定こども園における教育・保育が充実している』、『5. 小学校の教育内容や学校運営の取組みが充実している』、『7. 小学校・中学校の施設・設備が充実している』、『11. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教育を通して「豊かな心」が育まれている』で“そう思う”の割合が増加しています。(問 8)

一方で、大阪狭山市の子どもたちの教育について、何が課題と思うかについて、「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が 28.0%となっていることから(問 11)、今までの学校園運営の取組みを継続しつつ、今後、より一層、道徳心やルールを守る大切さに気づき自分の気持ちをコントロールする力などが養われることが期待されていると考えられます。

大阪狭山市の学校教育の中で、力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業について、『6. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する』、『20. 互いに認め合い、高め合える仲間づくりを行う』で「必要である」と「どちらかといえば必要である」をあわせた“必要である”の割合が高く、約 9 割となっています。高校生以下の子どもがいる人のみで見ると、『4. 教職員の資質向上を図る』、『6. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する』で“必要である”の割合が高く、約 9 割となっています。(問 13)

英語教育支援事業や ICT を活用する能力を身につけられるような情報教育など、現代的な課題に対応した教育の推進や、それらの課題に対応できる教職員の資質向上について、より一層取り組む必要があると考えられます。

○家庭教育・地域教育について

子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思うかについて、『1. 家庭における生活力(お手伝いや身の回りのことをすること)』、『2. 地域社会での人間関係』、『3. 子どもと高齢者がふれ合う機会』で「減少・希薄・低下」の割合が高く、5 割を超えています。(問 15)

このような環境の変化の中で、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思うかについて、「学校・家庭・地域の間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が 57.4%と最も高く、次いで「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」の割合が 32.4%となっています。(問 19)

また、学校・家庭・地域が相互の連携・協力することによる効果について、「地域で子どもを育てる機運が高まる」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「地域がより活発になる」の割合が 46.9%、「学校の課題の解決に役に立つ」の割合が 33.9%となっています。(問 19)

これより、学校と地域とが一緒になって子どもたちにできることを考えることで、地域住民の学校教育への参画の促進や子どもたちが安心して活動できる居場所づくり、地域社会での人間関係の活性化などにつながると考えられます。

○大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについて

この1年くらいの間に、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしたことが、「ある」の割合が33.8%、「ない」の割合が65.5%となっています。(問24)

また、今後、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動を、「してみたい」と「どちらかといえば、してみたい」をあわせた“してみたい”の割合が69.0%となっていることや(問25)、リカレント教育(社会人になっても生涯にわたって学んでいくこと)や社会人の学び直しが注目されているなか、今後、教育機関等(大学・公民館等)での学習について、「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が42.9%と最も高く、次いで「今後学習してみたい」の割合が24.3%、となっています。(問30)

“学習してみたい”と思う理由は、「今後の人生を有意義にするため」の割合が56.2%と最も高く、次いで「他の人と親睦を深めたり、友人をつくったりするため」の割合が13.5%、「健康の保持増進のため」の割合が10.1%となっています。(問30-1)

市民の生涯学習活動への参画への機運や文化芸術に対する関心は高まっており、年齢や性別にかかわらず、生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、より一層、学習機会の充実を図る必要があるとともに、市民が、生涯にわたって、いつでも、どこでも主体的に幅広い生涯学習の機会を享受できるよう、本市の学習拠点施設における活動や学習環境の整備について、引き続き取り組むことが求められていると想定されます。

○大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて

大阪狭山市に愛着を、「感じる」と「どちらかといえば、感じる」をあわせた“愛着を感じる”の割合が82.9%となっています。(問31)

大阪狭山市の特長や誇りとして、あなたが大事にしていきたいと思うことは、「安全・安心な暮らしやすい生活環境」の割合が64.7%と最も高く、次いで「日本最古である狭山池」の割合が53.1%、「豊かな自然環境」の割合が42.0%となっています。(問32)

大阪狭山市の文化・芸術活動をより充実させていくために、必要な取り組みは、「コンサートや演劇など、市民が文化・芸術にふれられる機会の充実」と回答した方の割合が55.5%と最も高く、次いで「狭山池など歴史資産の活用」の割合が26.8%、「文化・芸術に関する情報の提供」の割合が25.2%となっています。平成25年度調査と比較すると、「狭山池など歴史資産の活用」の割合が増加しています。(問27)

ふるさとを大切に思う心を育み歴史文化や郷土を愛する心を育むために、引き続き講演会や講座等を実施していくことが有効であると考えられます。

○教育に関する施策全般について

今後、生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために、市が力を入れるべきと思う取り組みについて、「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」の割合が42.9%と最も高く、次いで「施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化」の割合が34.8%、「講座や教室数の増加」の割合が30.1%となっています。(問34)

また、大阪狭山市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市が力を入れるべきと思う取り組みについて、「子育て家庭への支援」の割合が32.4%と最も高く、次いで「子どもが様々な体験ができる機会づくり」の割合が27.9%、「放課後などに子どもが遊べる場所づくり」の割合

が 26.4%となっています。(問 3 3)

生涯学習の面では、多様化が進む市民のニーズに応じた学習支援に努めるとともに、市民の成果が地域へ還元され、地域における学びの循環が図られる環境を整備していくことが引き続き求められていると考えられます。そして、大阪狭山市全体で子どもを支えていくため、地域と学校がお互いの教育力を最大限に発揮し、相互補完をしつつ、一体となった取組みを進めることが不可欠です。

子どもたち一人ひとりの学びを保障するために必要だと思う取組みについて、「すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「教職員の専門性の向上」の割合が 37.2%、「人的（人員）配置の充実」の割合が 33.0%となっています。(問 1 7)

また、保育所・幼稚園・認定こども園の教職員が考える大阪狭山市の就学前教育で、重要だと思うことについて、「やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行う」の割合が 44.3%、「生活に必要な活動を自分でできるようにする」の割合が 37.5%となっています。(教職員 問 7－1)

さらに、小学校・中学校の教職員が考える大阪狭山市の学校教育で今後、特に重点をおいて取り組む必要がある事業について、「支援教育事業」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「生徒指導支援事業（SC、SSW 配置）」の割合が 34.2%、「家庭教育支援事業（家庭教育サポーター）」の割合が 28.8%となっています。(問 7－2)

文部科学省策定の第 3 期教育振興基本計画のとおり、個人の面においては、自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成していくこと、社会の面においては、一人ひとりが活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現と社会の持続的な成長・発展を目ざしていくことが求められていると考えられます。

Ⅲ 調査結果

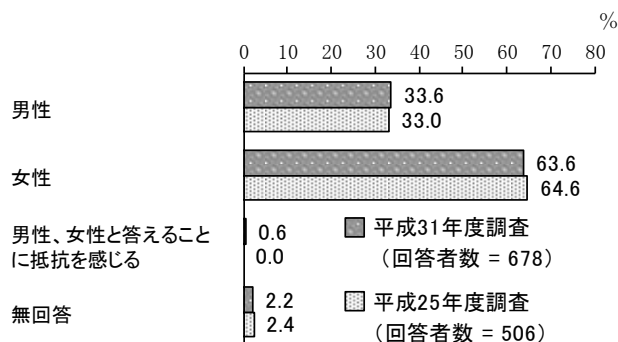
1 市民調査

(1) 回答者属性

問1 あなたが思われる性別をお答えください。(単数回答)

「男性」の割合が33.6%、「女性」の割合が63.6%となっています。

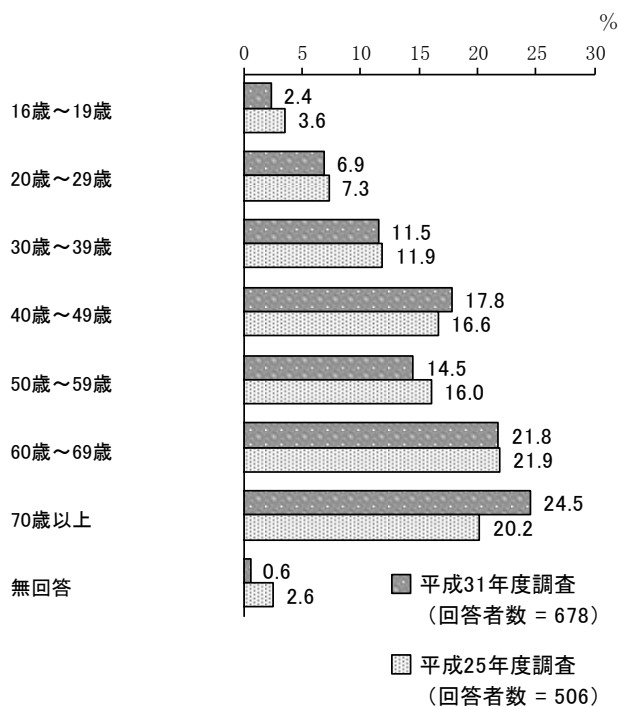
平成25年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問2 あなたの現在の年齢をご記入ください。(単数回答)

「70歳以上」の割合が24.5%と最も高く、次いで「60歳～69歳」の割合が21.8%、「40歳～49歳」の割合が17.8%となっています。

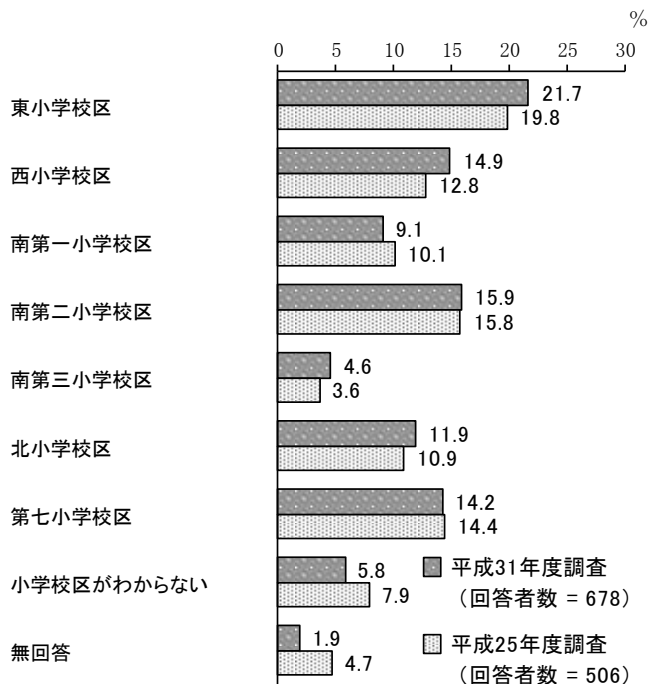
平成25年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問3 あなたが住んでいる小学校区はどこですか。(単数回答)

「東小学校区」の割合が 21.7%と最も高く、次いで「南第二小学校区」の割合が 15.9%、「西小学校区」の割合が 14.9%となっています。

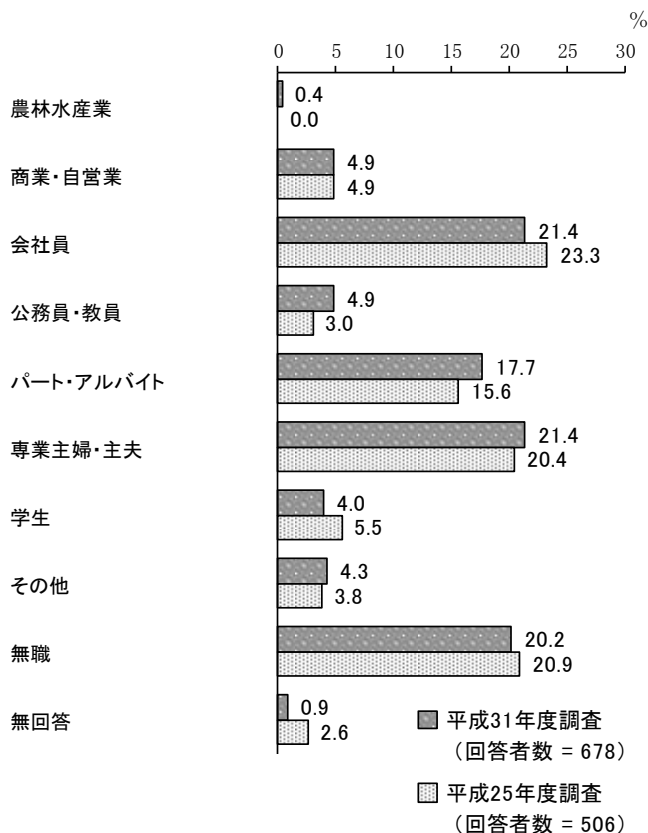
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問4 あなたの職業は次のうちどれですか。(単数回答)

「会社員」の割合が 21.4%、「専業主婦・主夫」の割合が 21.4%と最も高く、次いで「無職」の割合が 20.2%となっています。

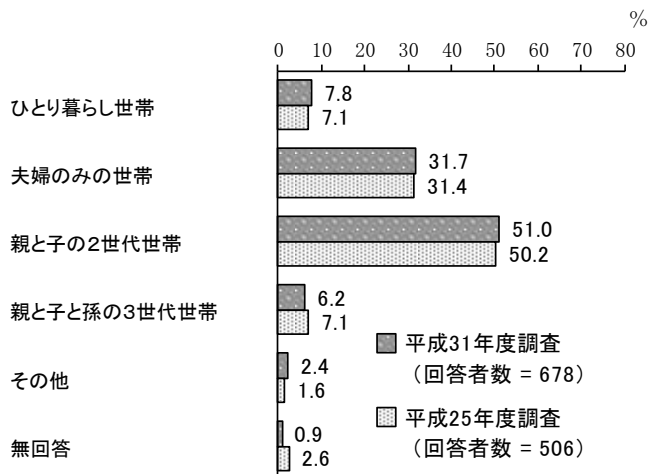
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問5 あなたの世帯構成はどのようになっていますか。(単数回答)

「親と子の2世代世帯」の割合が 51.0%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」の割合が 31.7%となっています。

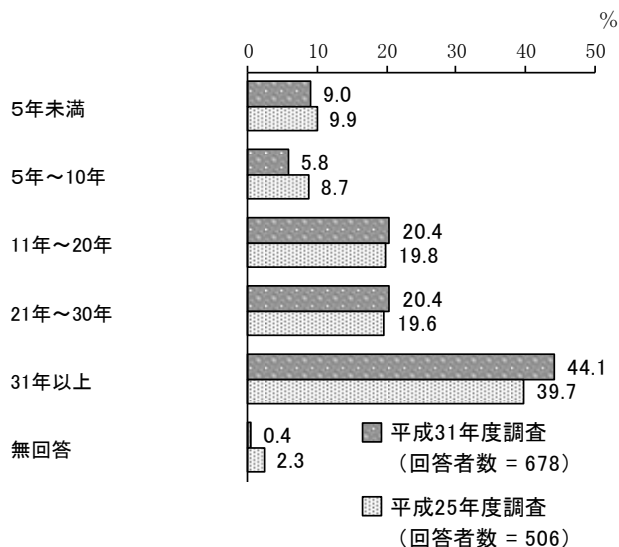
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問6 あなたは、大阪狭山市に住んで何年になりますか。(単数回答)

「31年以上」の割合が 44.1%と最も高く、次いで「11年～20年」の割合が 20.4%、「21年～30年」の割合が 20.4%となっています。

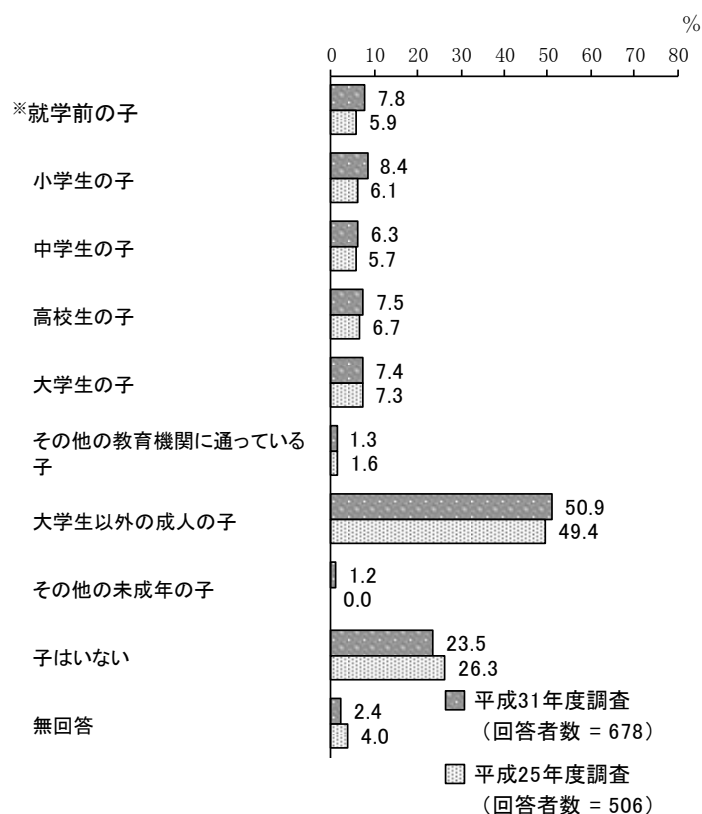
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問7 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(複数回答)

「大学生以外の成人の子」の割合が50.9%と最も高く、次いで「子はいない」の割合が23.5%となっています。

平成25年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※就学前：小学校への就学以前の期間のことをいいます。

(2) 大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について

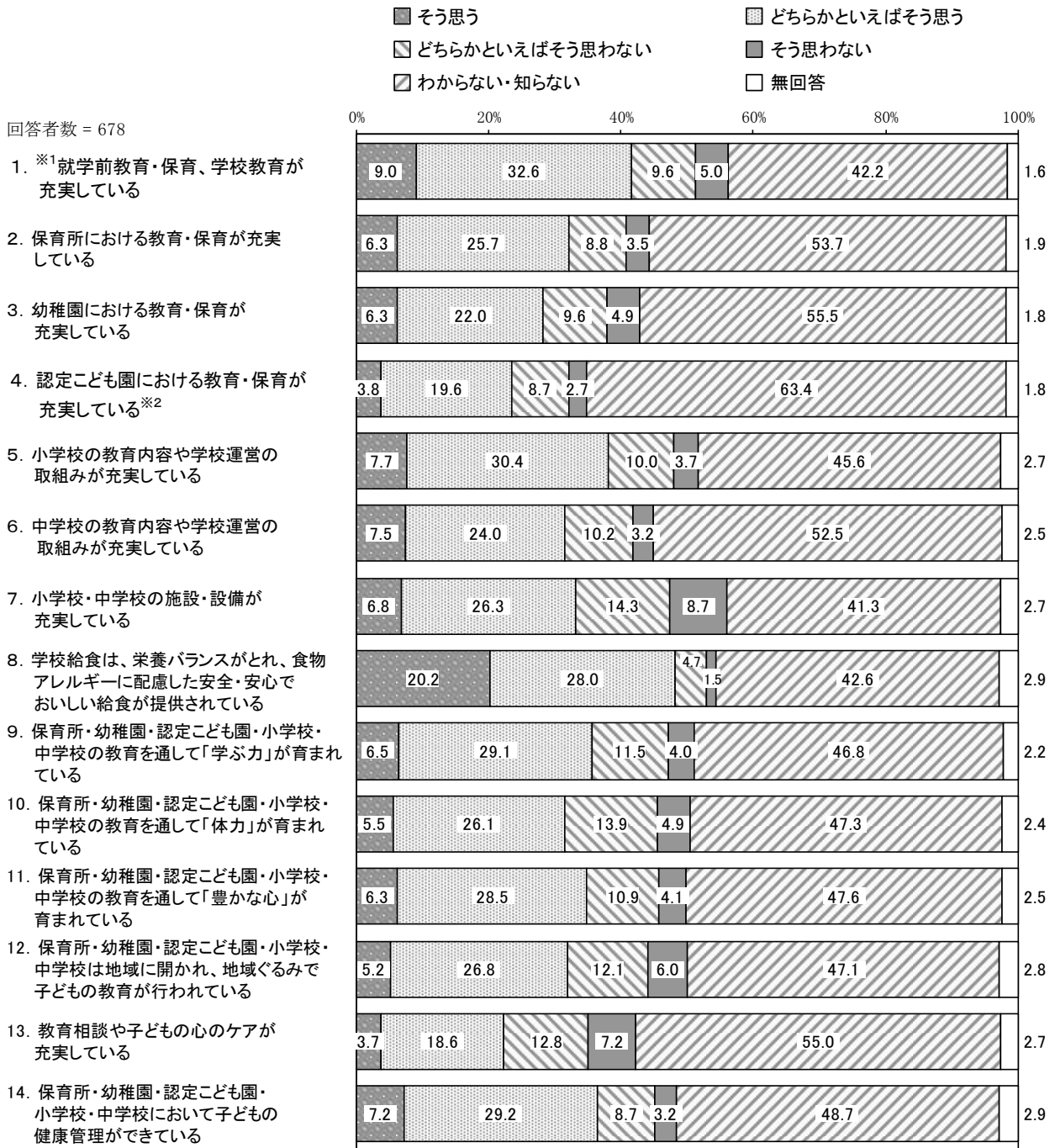
問8 あなたは、大阪狭山市の就学前教育・保育、学校教育における現在の取組みについて、どのように思いますか。(単数回答)

『8. 学校給食は、栄養バランスがとれ、食物アレルギーに配慮した安全・安心でおいしい給食が提供されている』で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、約5割となっています。また、『7. 小学校・中学校の施設・設備が充実している』、『13. 教育相談や子どもの心のケアが充実している』で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています。

平成25年度調査と比較すると、『4. 認定こども園における教育・保育が充実している』、『5. 小学校の教育内容や学校運営の取組みが充実している』、『7. 小学校・中学校の施設・設備が充実している』、『11. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教育を通して「豊かな心」が育まれている』で“そう思う”の割合が増加しています。

【平成 31 年度調査】

回答者数 = 678

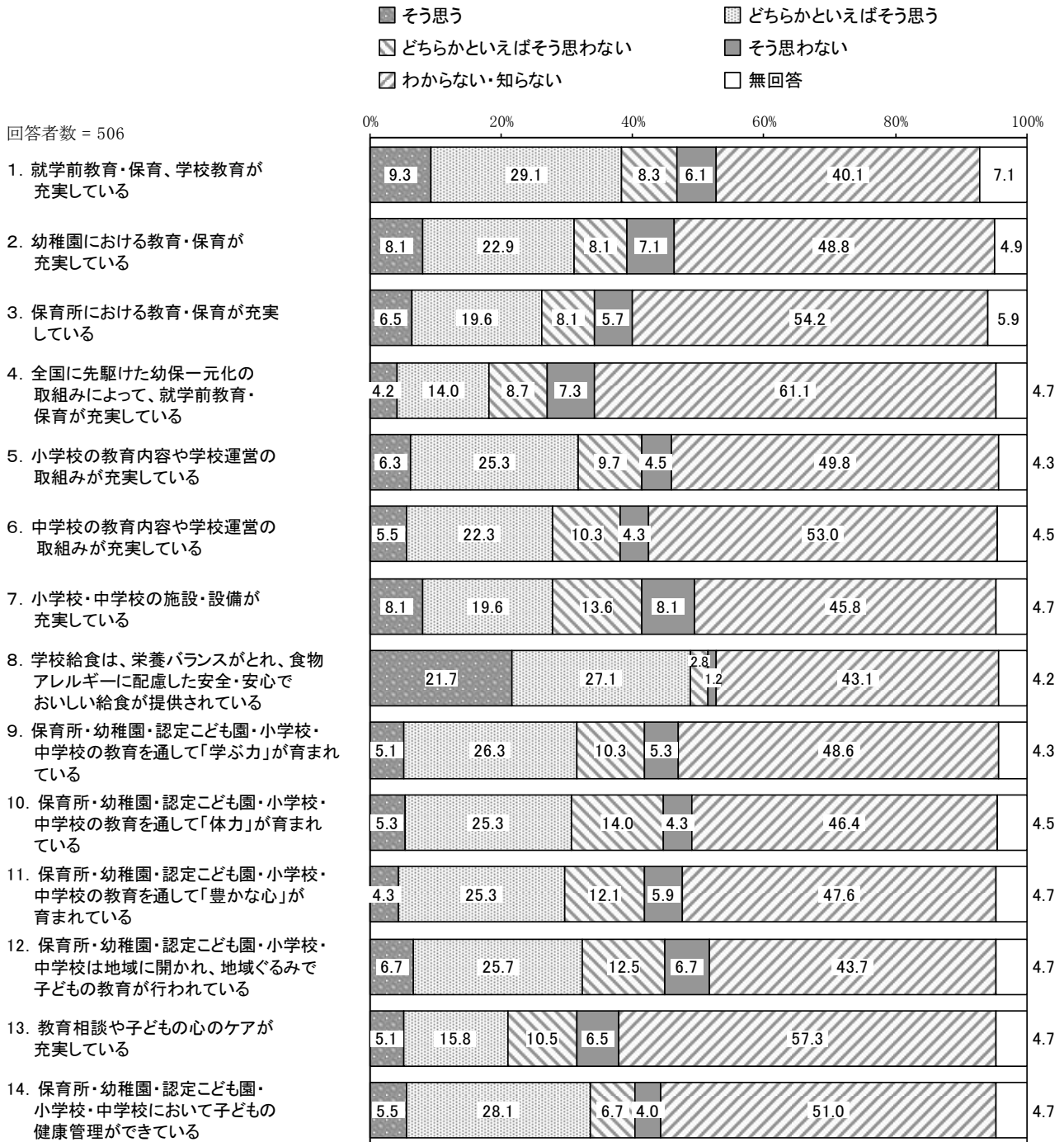


※1 就学前教育・保育：保育所、幼稚園、認定こども園等において提供される小学校への就学以前の教育・保育をいいます。

※2 『4. 認定こども園における教育・保育が充実している』の項目は、平成 25 年度調査では、『4. 全国に先駆けた幼保一元化の取組みによって、就学前教育・保育が充実している』としていました。

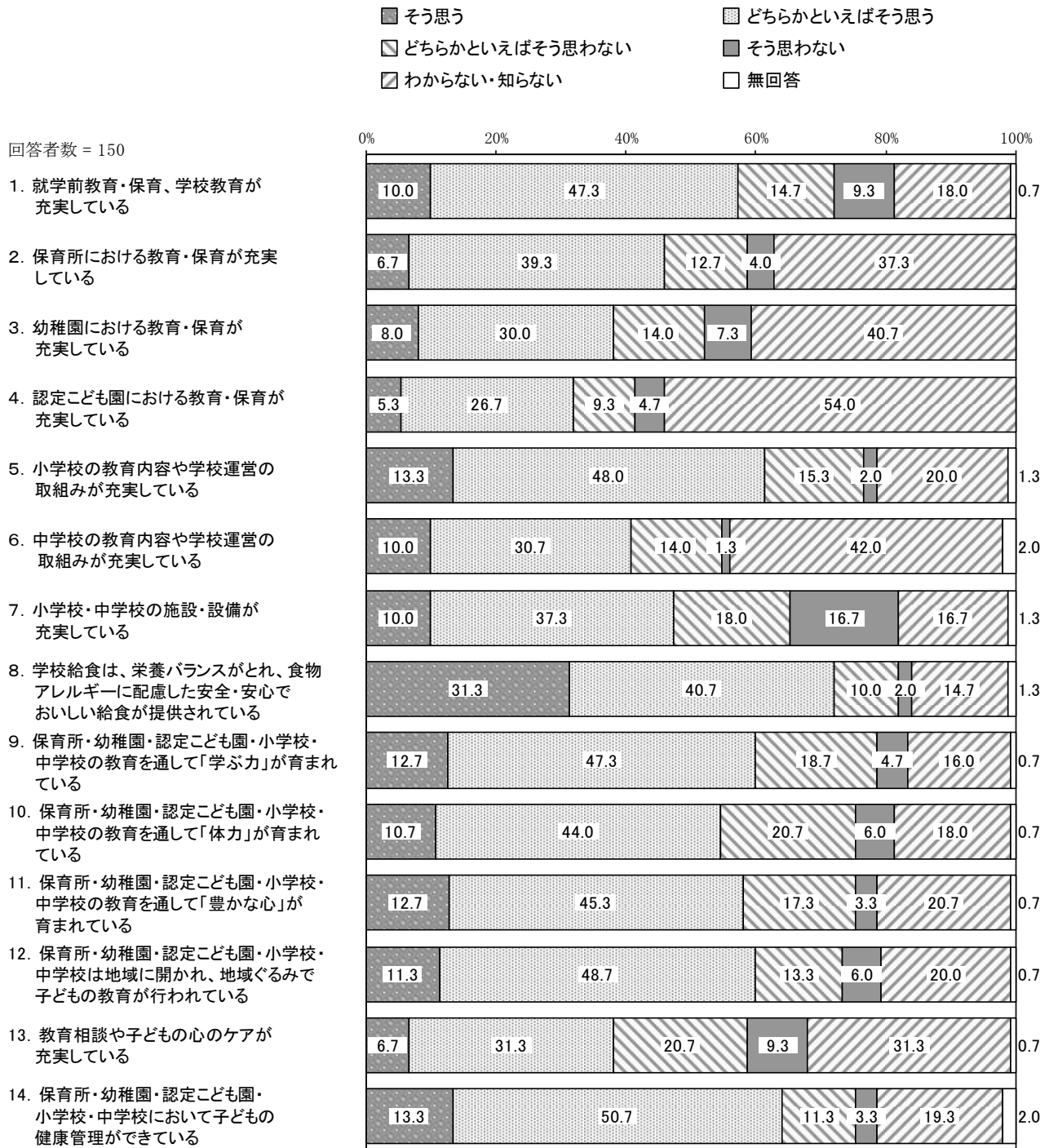
【平成 25 年度調査】

回答者数 = 506



【高校生以下の子どもがいる人のみ】

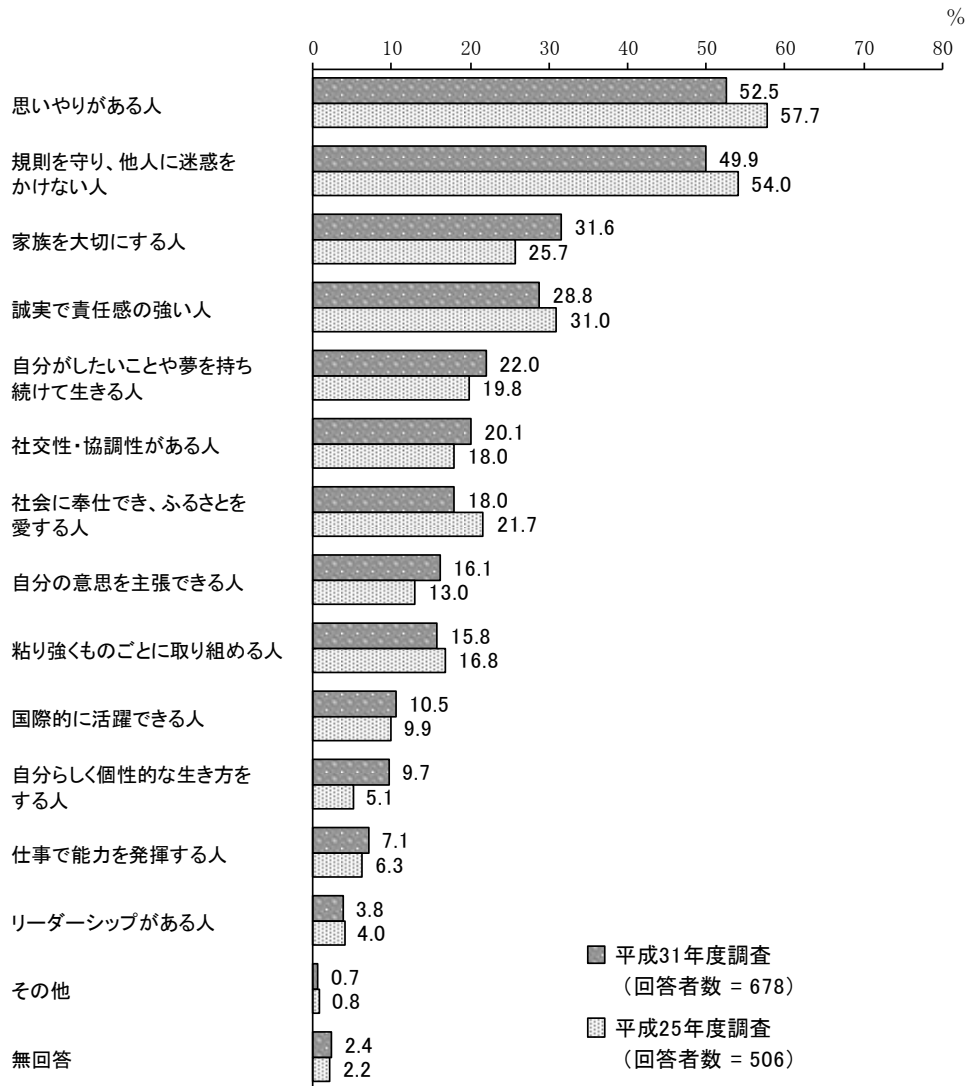
『8. 学校給食は、栄養バランスがとれ、食物アレルギーに配慮した安全・安心でおいしい給食が提供されている』で“そう思う”の割合が高く、約7割となっています。一方、『7. 小学校・中学校の施設・設備が充実している』で“そう思わない”の割合が高く、3割台半ばとなっています。



問9 あなたは、大阪狭山市の子どもたちに、将来どのような人になってもらいたいと思いますか。（複数回答）

「思いやりがある人」の割合が52.5%と最も高く、次いで「規則を守り、他人に迷惑をかけない人」の割合が49.9%、「家族を大切に作る人」の割合が31.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「家族を大切に作る人」の割合が増加し、「思いやりがある人」の割合が減少しています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、子どもの年代が低くなるにつれ「粘り強くものごとに取り組める人」「家族を大切にする人」の割合が高くなっています。また、子どもの年代が高くなるにつれ「規則を守り、他人に迷惑をかけない人」の割合が高くなっています。

単位：％

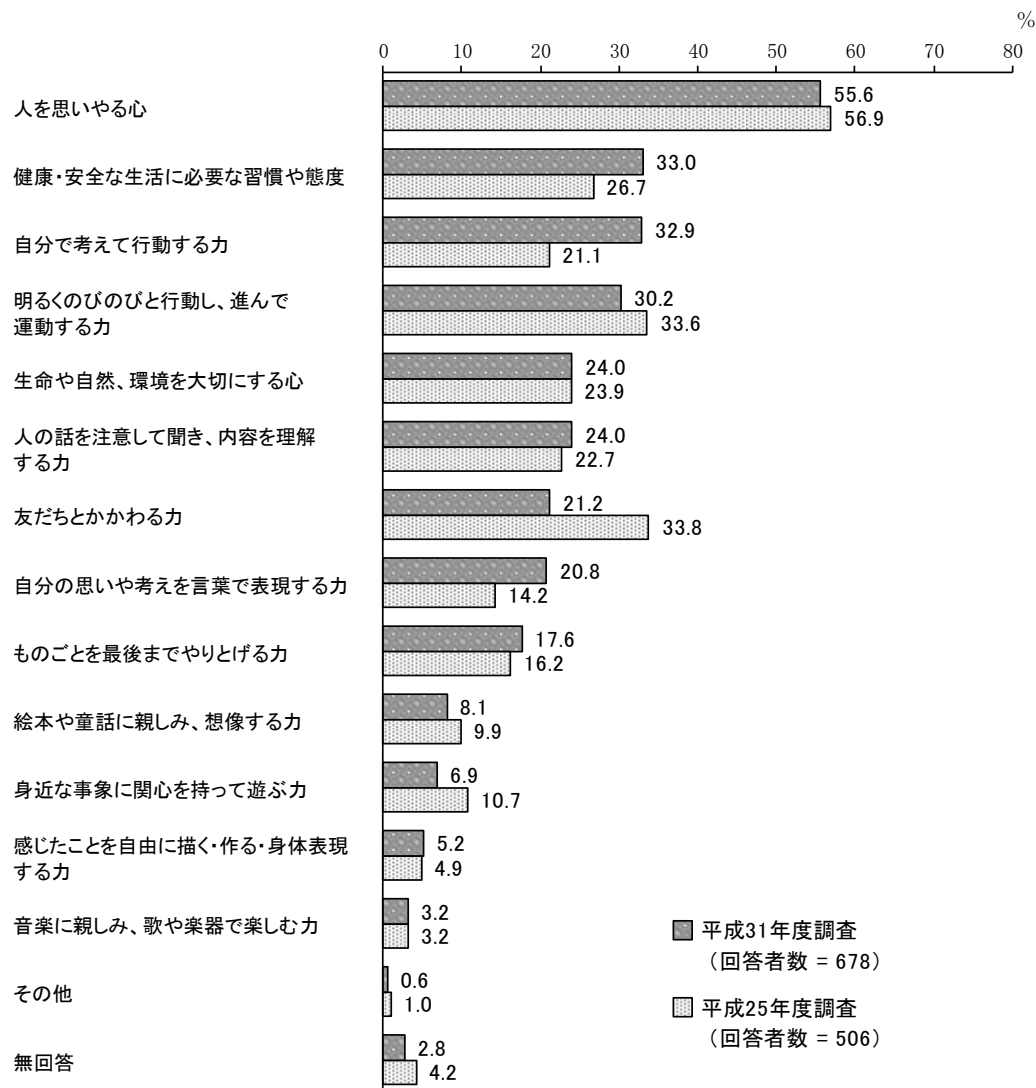
区分	有効回答数 (件)	規則を守り、他人に 迷惑をかけない人	自分の意思を 主張できる人	社交性・協調性が ある人	思いやりがある人	粘り強くものごと に取り組める人	自分らしく個性 な生き方をする人	誠実で責任感の強い人
就学前の子	53	39.6	18.9	34.0	58.5	26.4	11.3	22.6
小学生の子	57	43.9	12.3	26.3	63.2	26.3	10.5	24.6
中学生の子	43	44.2	18.6	16.3	60.5	16.3	14.0	18.6
高校生の子	51	52.9	15.7	33.3	56.9	17.6	5.9	27.5

区分	自分がしたいことや 夢を持ち続けて生きる 人	リーダー シップが ある人	仕事で能力 を発揮する人	社会に奉仕でき、 ふるさとを愛する人	国際的に活躍できる人	家族を大切に する人	その他	無回答
就学前の子	13.2	—	15.1	11.3	7.5	37.7	—	—
小学生の子	21.1	3.5	12.3	15.8	3.5	31.6	—	—
中学生の子	25.6	2.3	18.6	25.6	7.0	25.6	—	—
高校生の子	17.6	2.0	15.7	15.7	5.9	25.5	—	—

問 10 あなたは、大阪狭山市の就学前教育・保育の中で、子どもたちにどのような能力や態度を身につけることが重要だと思いますか。（複数回答）

「人を思いやる心」の割合が55.6%と最も高く、次いで「健康・安全な生活に必要な習慣や態度」の割合が33.0%、「自分で考えて行動する力」の割合が32.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「健康・安全な生活に必要な習慣や態度」「自分で考えて行動する力」「自分の思いや考えを言葉で表現する力」の割合が増加し、「友だちとかかわる力」の割合が減少しています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「明るくのびのびと行動し、進んで運動する力」の割合が高くなっています。また、小学生の子、中学生の子で「人を思いやる心」「自分の思いや考えを言葉で表現する力」の割合が高くなっています。

単位：％

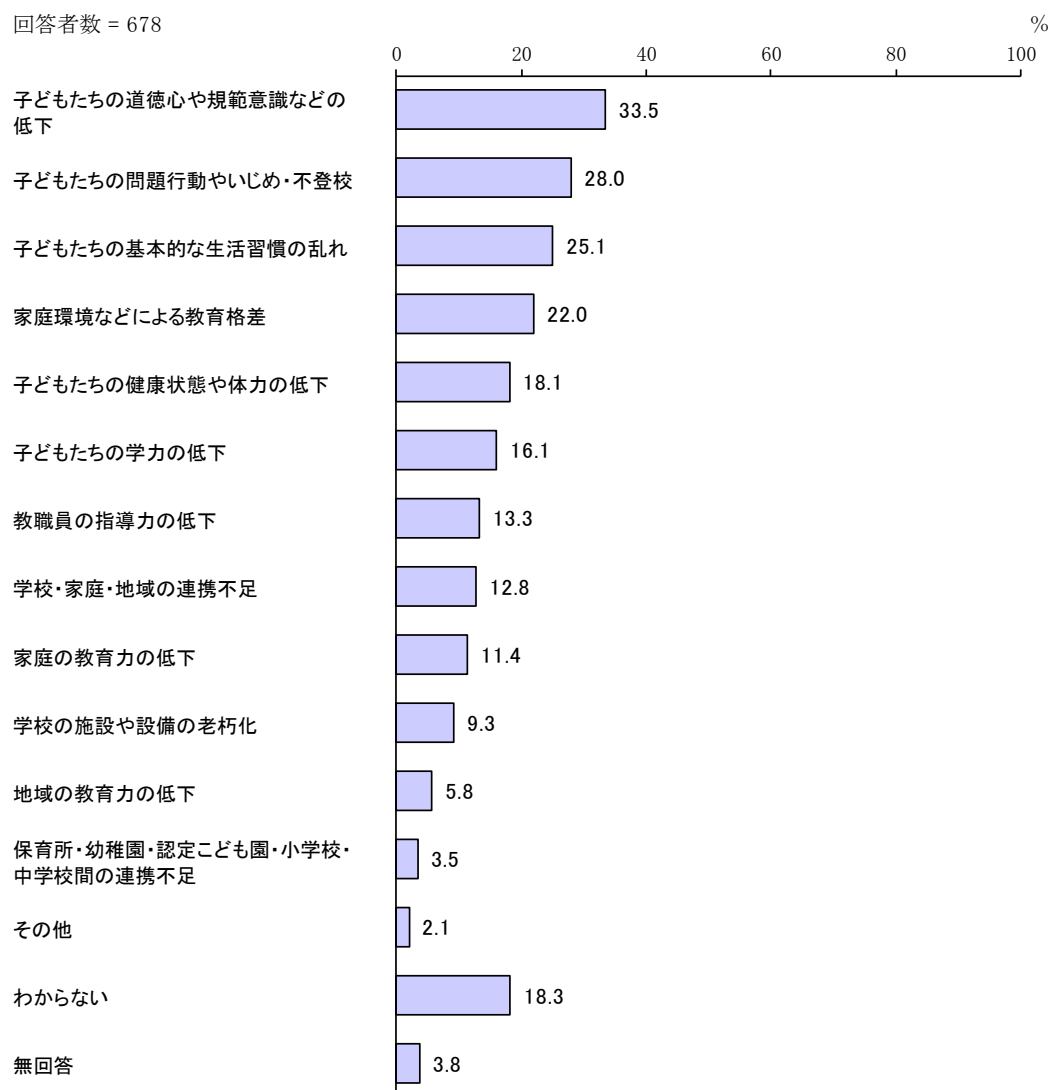
区分	有効回答数 (件)	明るくのびのびと行動し、 進んで運動する力	健康・安全な生活に 必要な習慣や態度	自分で考えて行動する 力	友だちとかかわる力	人を思いやる心	ものごとを最後まで やりとげる力	生命や自然、環境を 大切にする心
就学前の子	53	43.4	39.6	39.6	30.2	41.5	17.0	17.0
小学生の子	57	21.1	42.1	36.8	35.1	59.6	24.6	8.8
中学生の子	43	18.6	25.6	41.9	32.6	62.8	18.6	27.9
高校生の子	51	31.4	35.3	39.2	15.7	54.9	19.6	17.6

区分	身近な事象に関心を 持つて遊ぶ力	自分の思いや考えを 言葉で表現する力	人の話を注意して 聞き、内容を理解する 力	音楽に親しみ、歌や 楽器で楽しむ力	感じたことを自由に 描く・作る・身体表現 する力	絵本や童話に親しみ、 想像する力	その他	無回答
就学前の子	11.3	24.5	20.8	—	7.5	5.7	—	—
小学生の子	5.3	28.1	15.8	1.8	5.3	8.8	—	—
中学生の子	11.6	27.9	14.0	4.7	4.7	7.0	—	—
高校生の子	5.9	19.6	31.4	5.9	3.9	5.9	—	—

問 11 **新規** あなたは、大阪狭山市の子どもたちの教育について、何が課題と思いますか。（複数回答）

「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が 28.0%、「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が 25.1%となっています。

回答者数 = 678



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、小学生の子で「子どもたちの健康状態や体力の低下」「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が高くなっています。また、中学生の子で「地域の教育力の低下」の割合が、高校生の子で「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」「家庭環境などによる教育格差」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	子どもたちの学力の低下	子どもたちの道徳心や 規範意識などの低下	子どもたちの健康状態や 体力の低下	子どもたちの基本的な 生活習慣の乱れ	子どもたちの問題行動や いじめ・不登校	家庭環境などによる 教育格差	家庭の教育力の低下
就学前の子	53	20.8	26.4	22.6	15.1	30.2	15.1	5.7
小学生の子	57	17.5	36.8	29.8	26.3	43.9	24.6	5.3
中学生の子	43	25.6	34.9	16.3	30.2	27.9	20.9	7.0
高校生の子	51	27.5	51.0	23.5	23.5	29.4	27.5	9.8

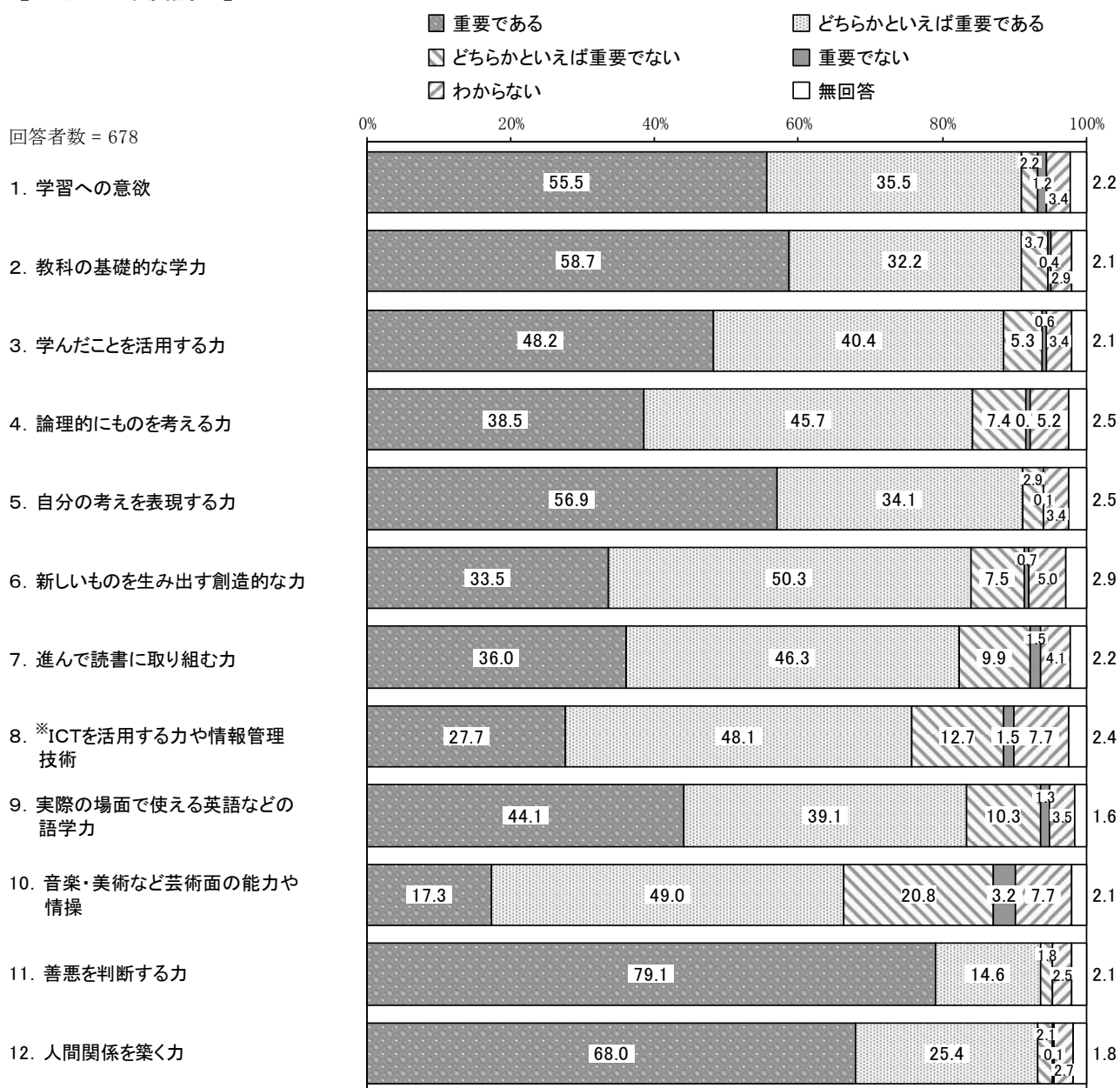
区分	地域の教育力の低下	学校・家庭・地域の 連携不足	保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校間の 連携不足	学校の施設や設備の 老朽化	教職員の指導力の低下	その他	わからない	無回答
就学前の子	7.5	11.3	7.5	17.0	15.1	5.7	18.9	—
小学生の子	5.3	7.0	5.3	15.8	17.5	5.3	5.3	—
中学生の子	14.0	14.0	4.7	14.0	18.6	4.7	4.7	—
高校生の子	3.9	13.7	2.0	7.8	15.7	2.0	5.9	2.0

問 12 あなたは、大阪狭山市の学校教育の中で、どのような能力や態度を身につけることが重要だと思いますか。一番近い考えのところに○をつけてください。
(単数回答)

『18. 他者に対する理解と思いやりや優しさ』、『20. 言葉づかい、礼節、マナー』で「重要である」「どちらかといえば重要である」をあわせた“重要である”の割合が高く、9割台半ばとなっています。一方、『10. 音楽・美術など芸術面の能力や情操』で“重要である”の割合が低く、6割台半ばとなっています。

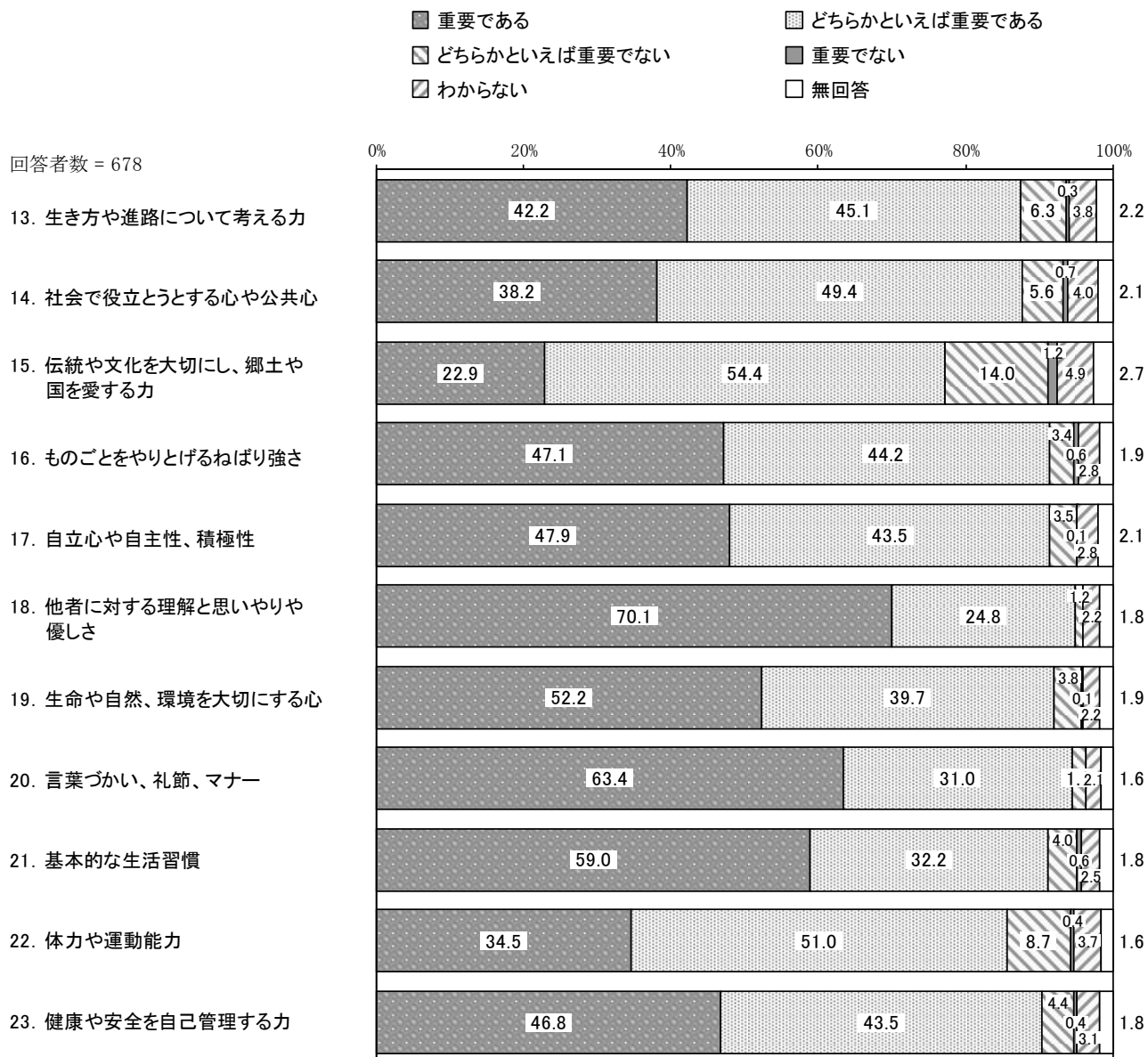
平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

【平成 31 年度調査】



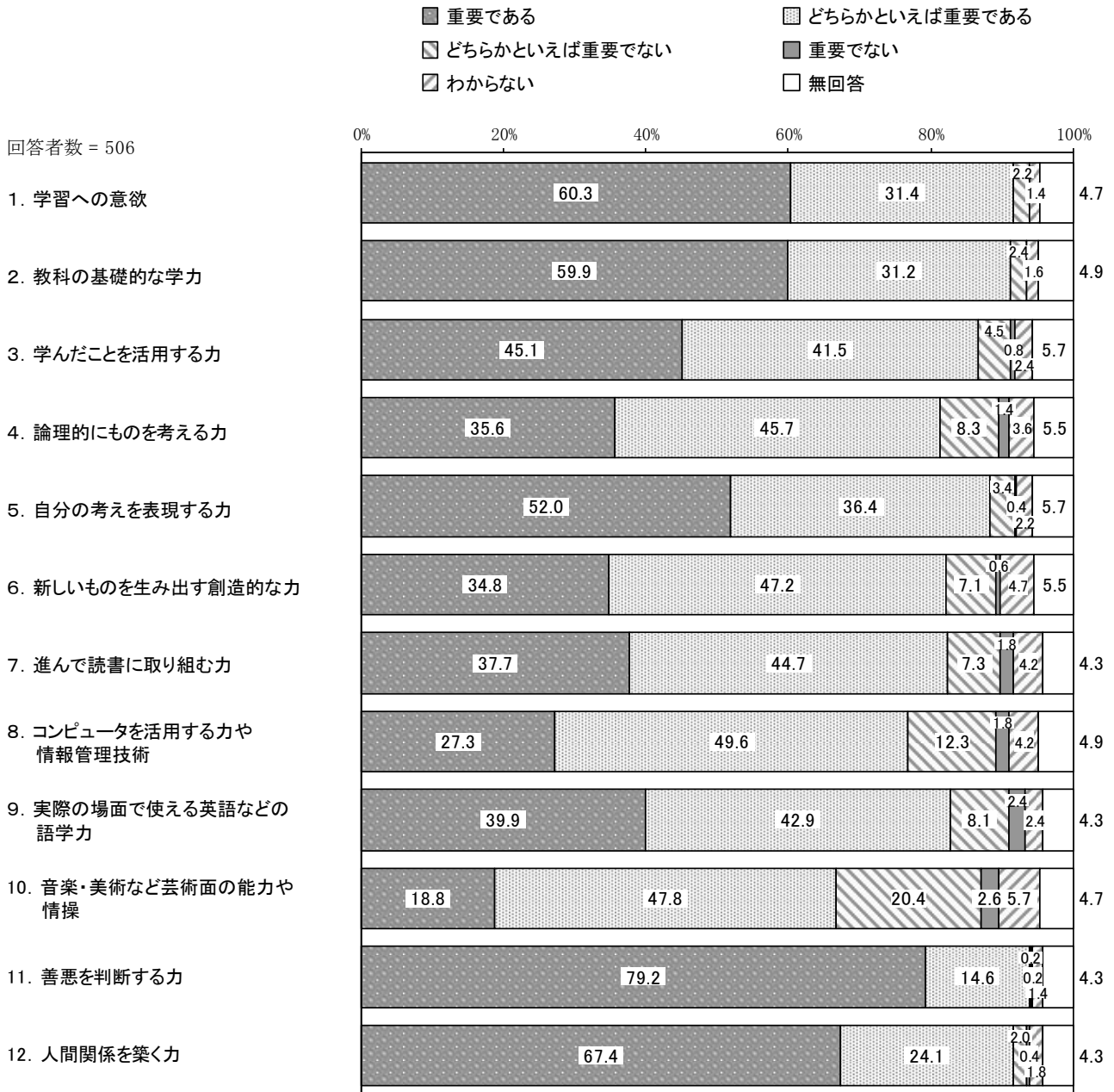
※ I C T : Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のことです。

回答者数 = 678

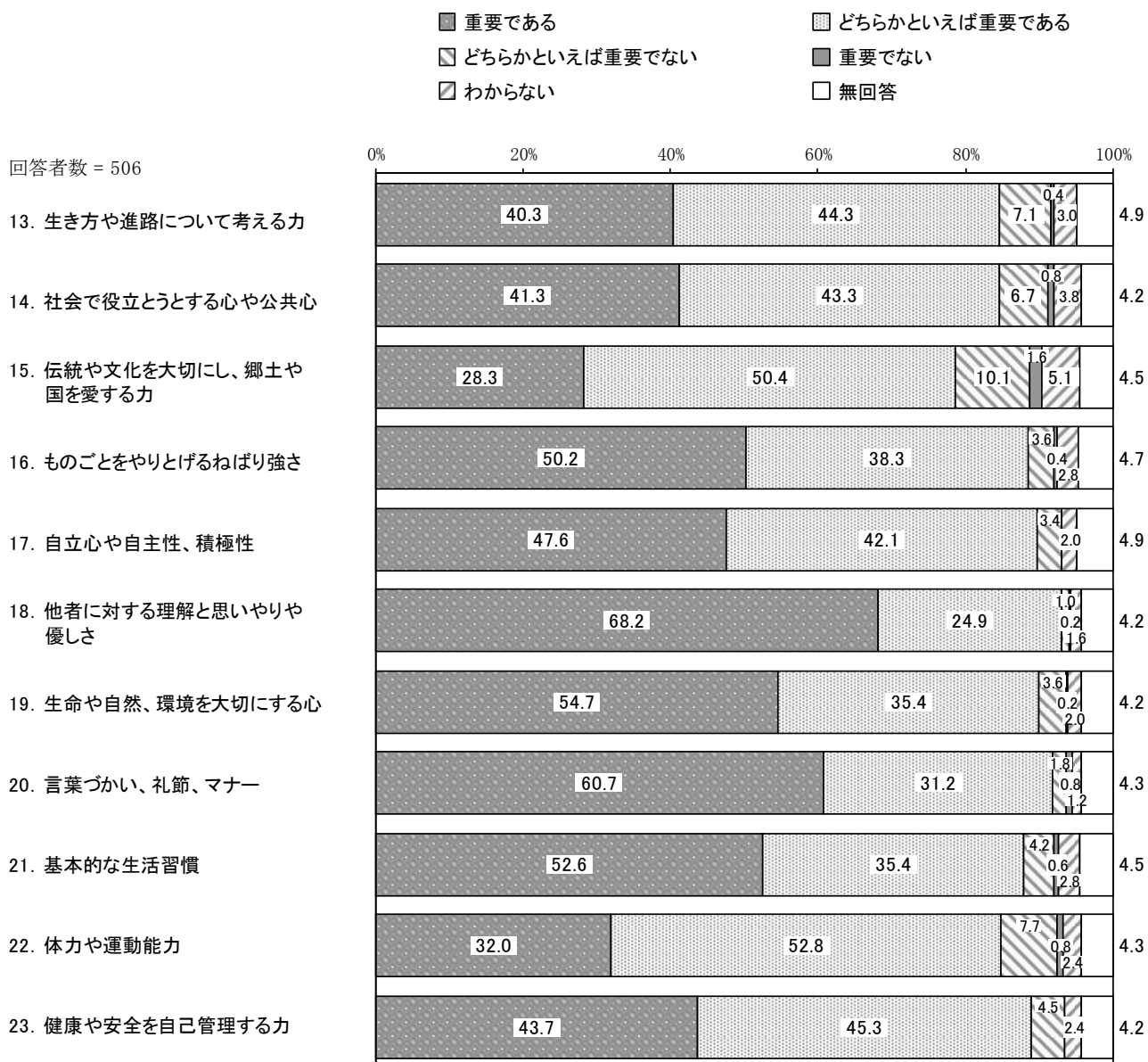


【平成 25 年度調査】

回答者数 = 506

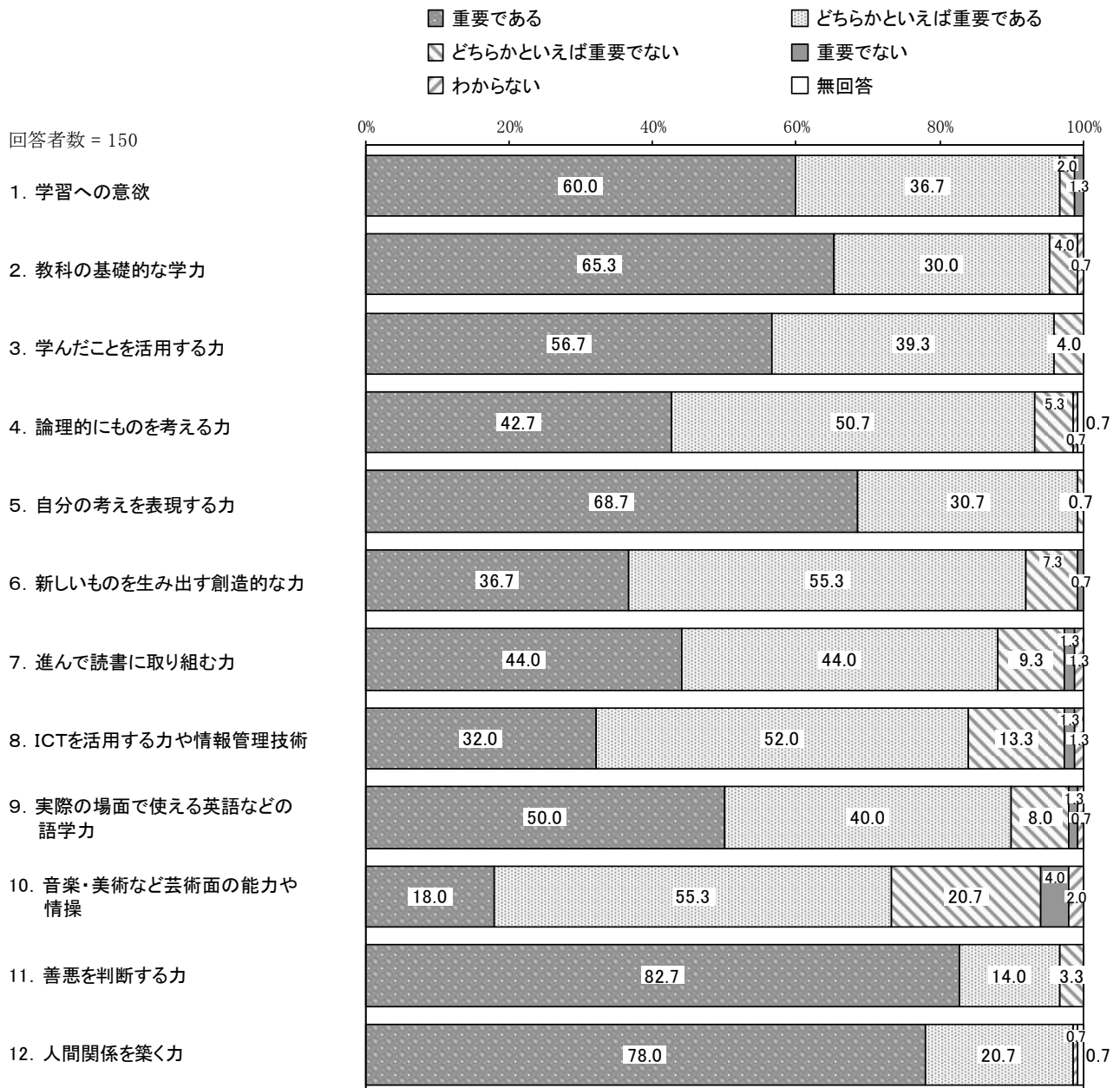


回答者数 = 506

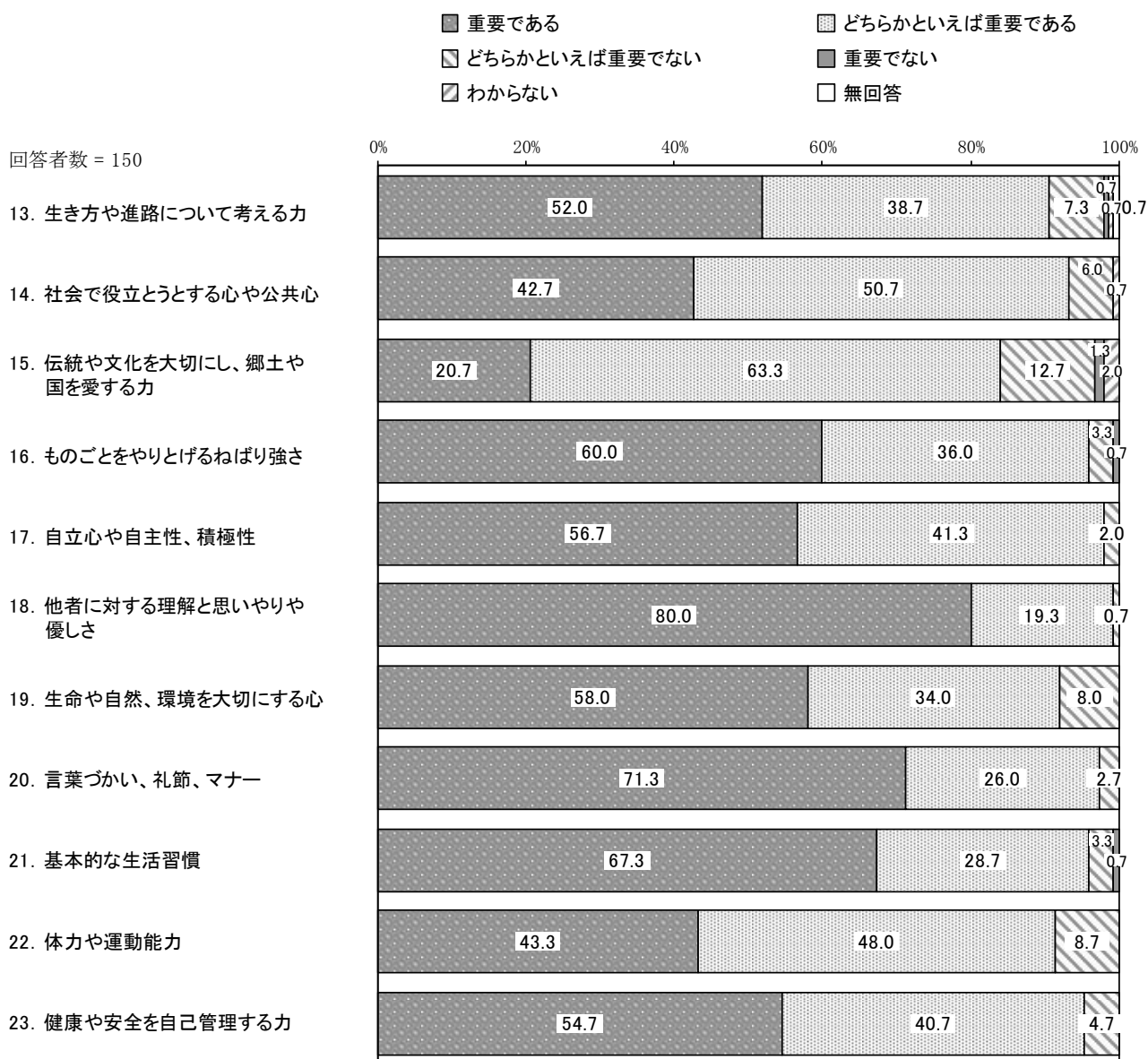


【高校生以下の子どもがいる人のみ】

『5. 自分の考えを表現する力』、『18. 他者に対する理解と思いやりや優しさ』で“重要である”の割合が高く、ほぼ100%となっています。また、『10. 音楽・美術など芸術面の能力や情操』で“重要でない”の割合が高く、2割台半ばとなっています。



回答者数 = 150



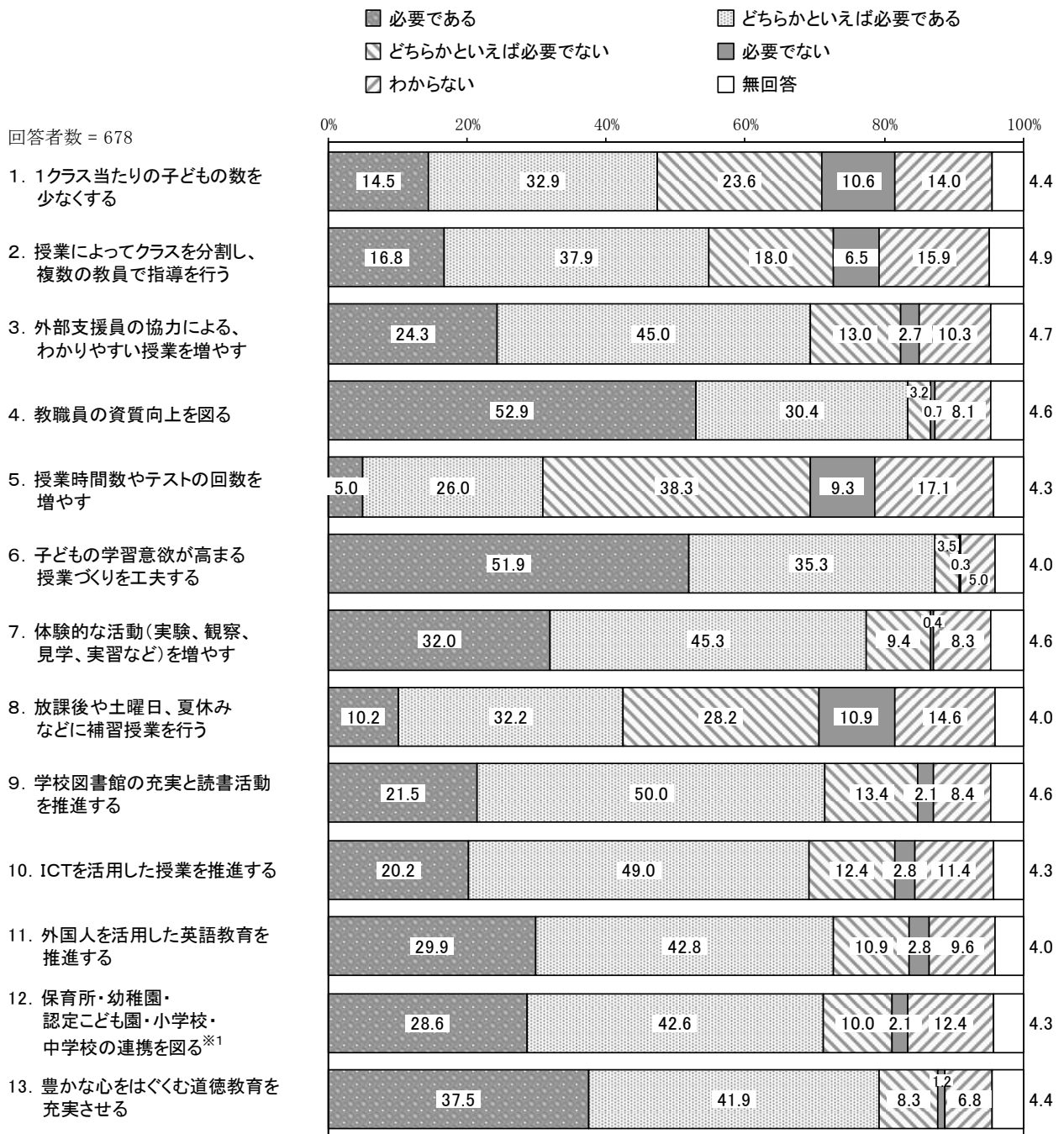
問 13 あなたは、大阪狭山市の学校教育の中で、どのような教育施策や教育事業について、力を入れて行う必要があると思いますか。一番近い考えのところに○をつけてください。(単数回答)

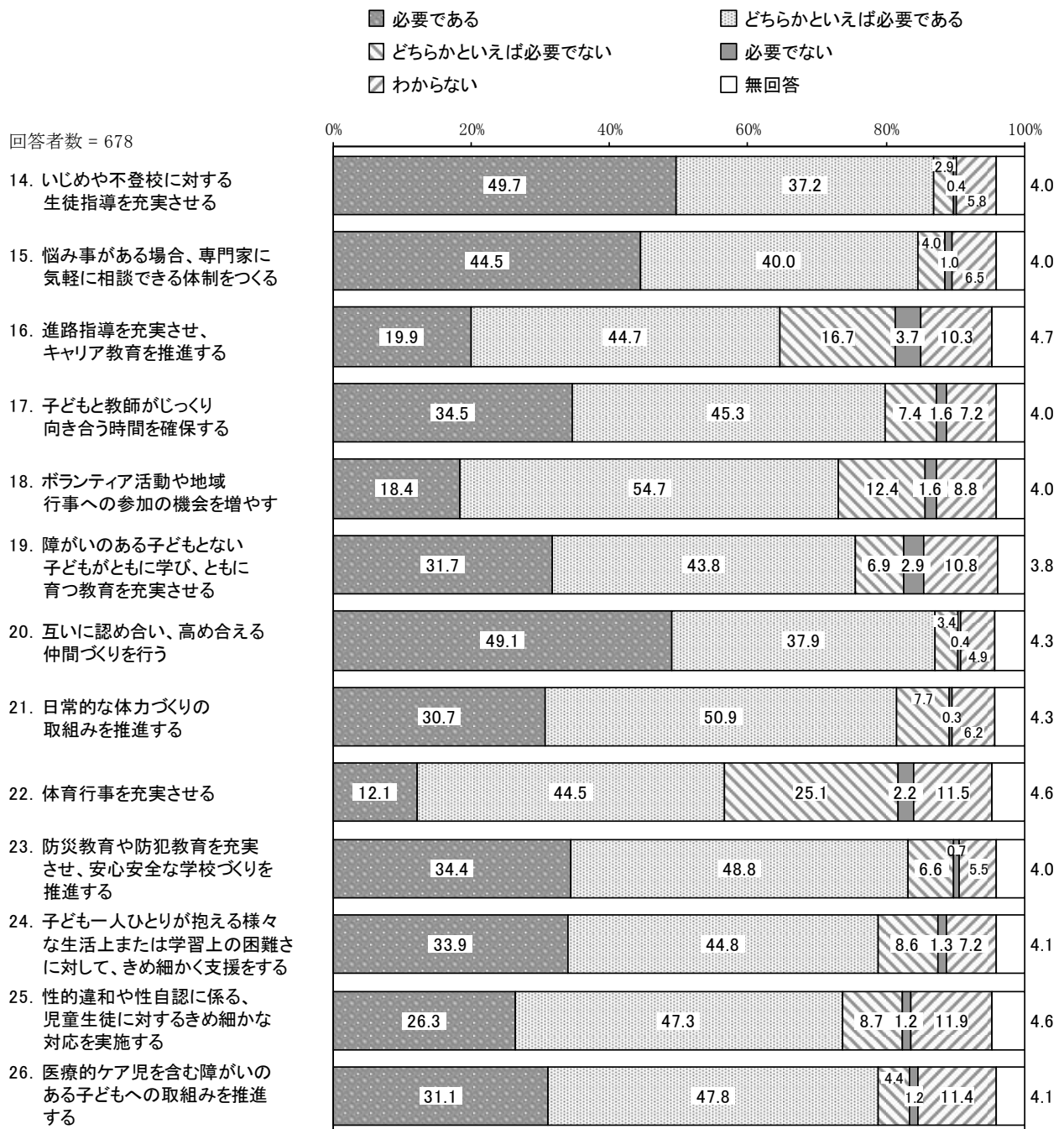
『6. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する』、『20. 互いに認め合い、高め合える仲間づくりを行う』で「必要である」と「どちらかといえば必要である」をあわせた“必要である”の割合が高く、約9割となっています。一方、『5. 授業時間数やテストの回数を増やす』で「どちらかといえば必要でない」と「必要でない」をあわせた“必要でない”の割合が高く、約5割となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、『3. 外部支援員の協力による、わかりやすい授業を増やす』で“必要である”の割合が増加しています。また、『5. 授業時間数やテストの回数を増やす』、『8. 放課後や土曜日、夏休みなどに補習授業を行う』、『22. 体育行事を充実させる』で“必要でない”の割合が増加しています。

【平成 31 年度調査】

回答者数 = 678





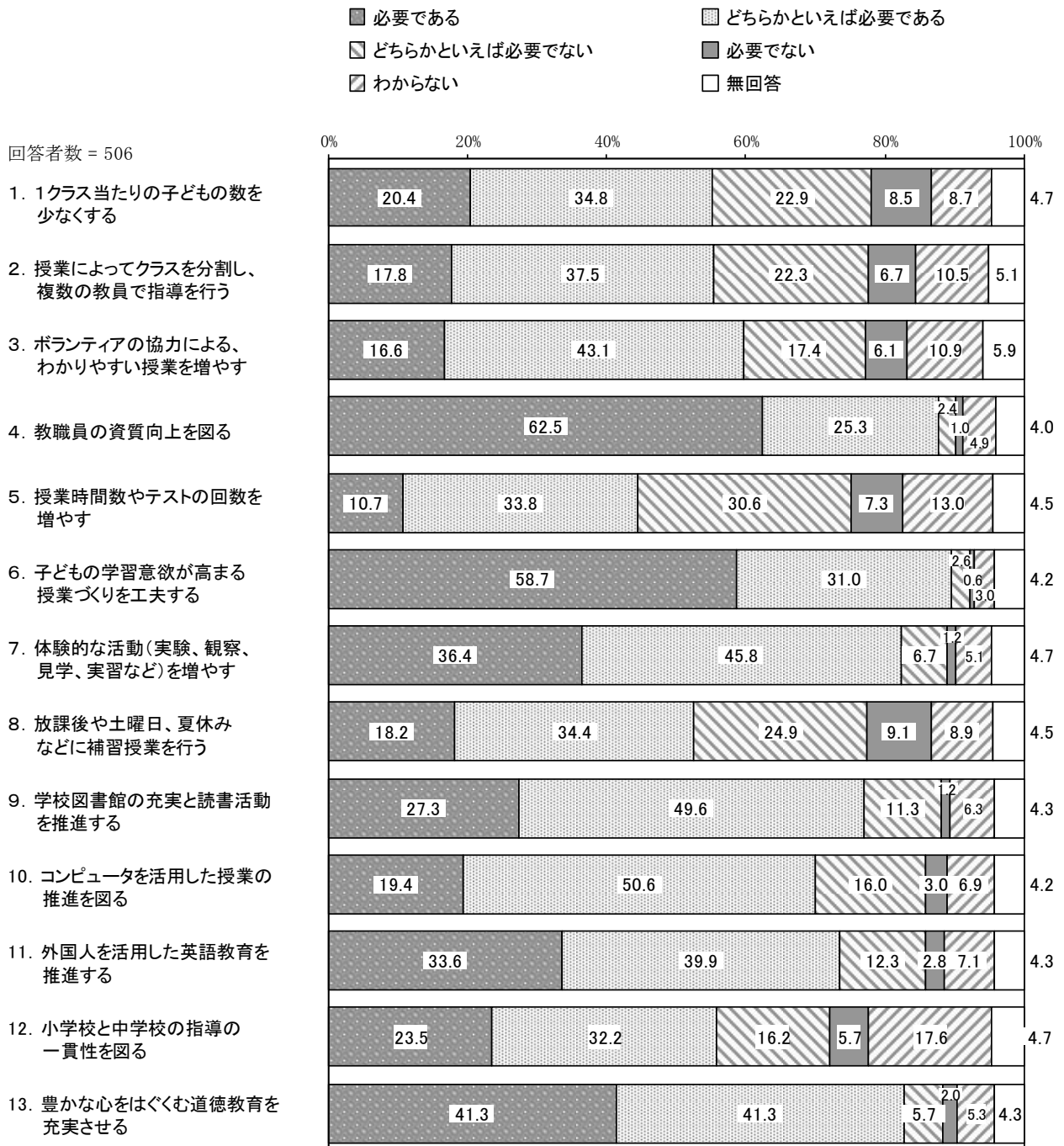
※1 『12. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携を図る』の項目は、平成25年度調査では『12. 小学校と中学校の指導の一貫性を図る』でしたが、保育教育指針の改定に伴い変更しました。

また、『24. 子ども一人ひとりが抱える様々な生活上または学習上の困難さに対して、きめ細かく支援をする』『25. 性的違和や性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応を実施する』『26. 医療的ケア児を含む障がいのある子どもへの取組みを推進する』の項目は、平成25年度調査では調査していません。

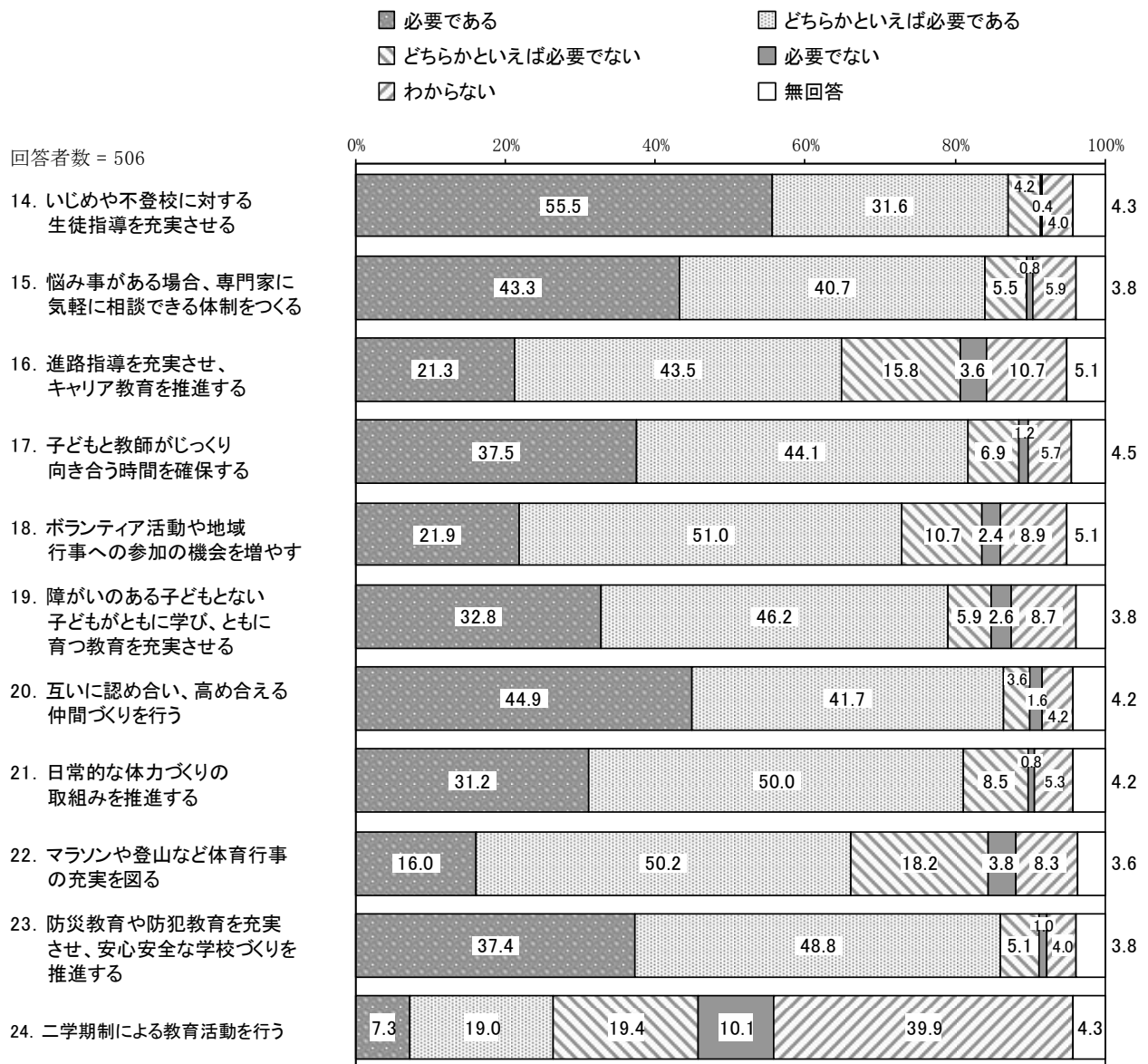
※2 キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通して、自分らしい生き方を実現できるように促す教育です。

【平成 25 年度調査】

回答者数 = 506

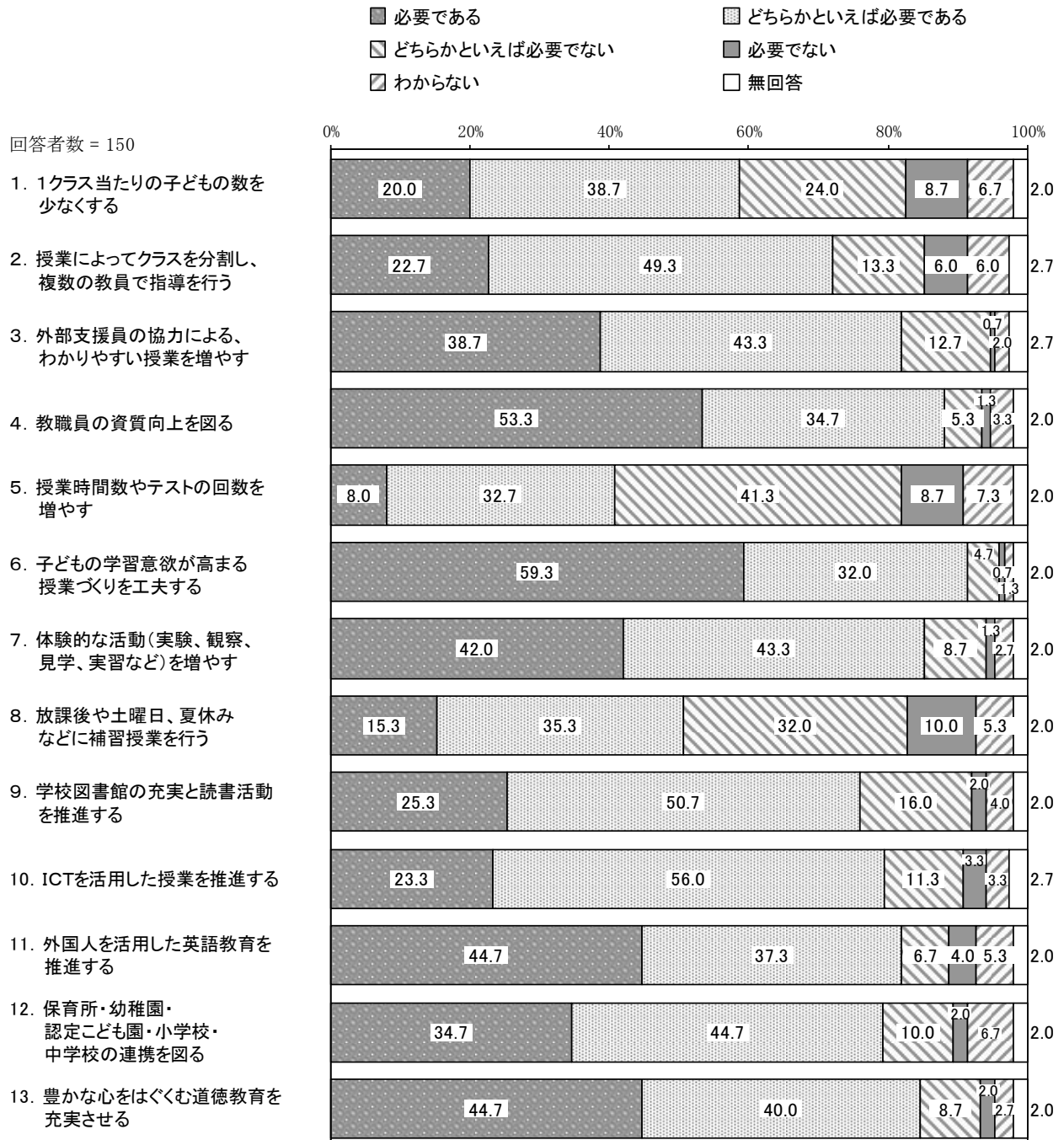


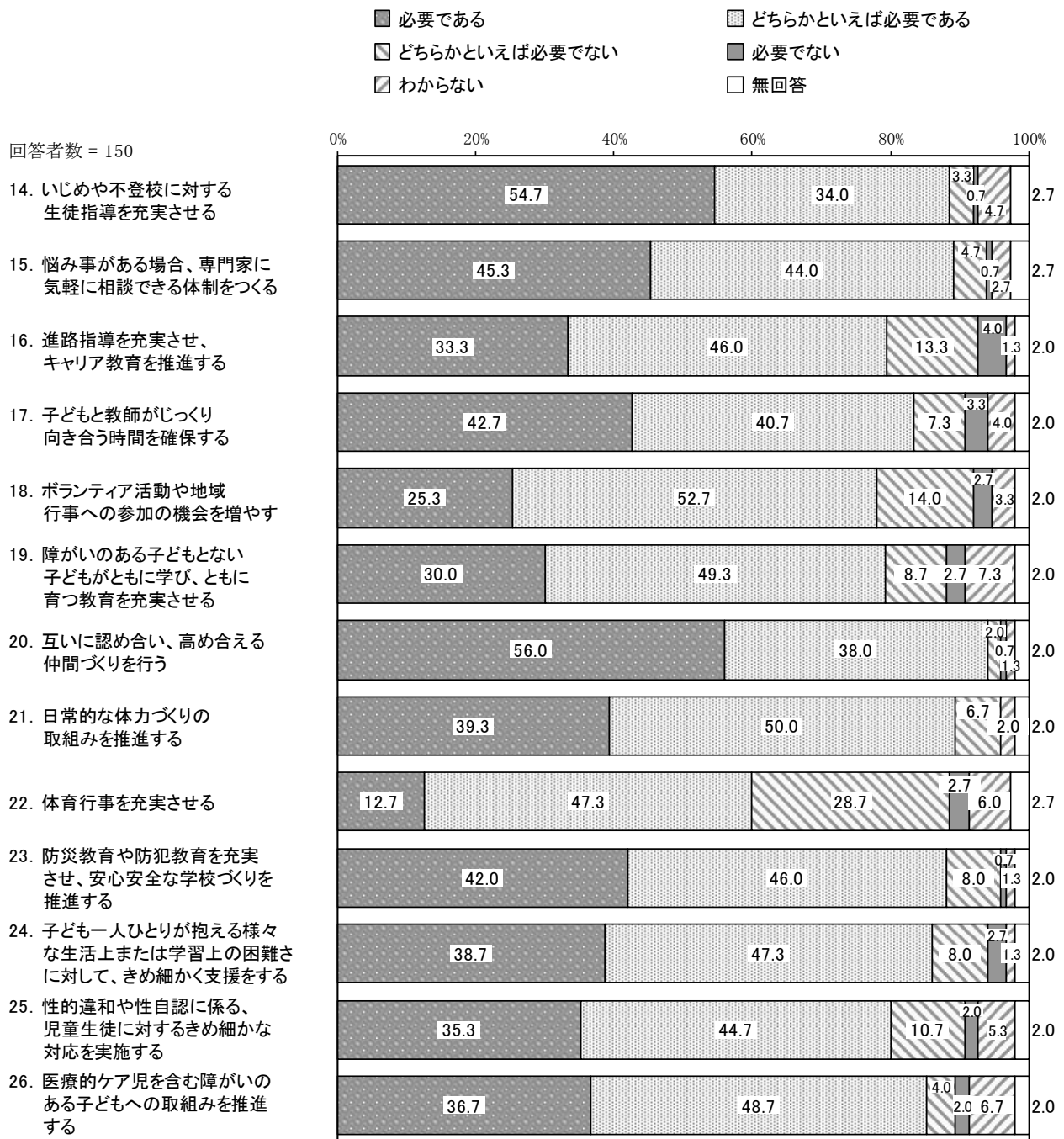
回答者数 = 506



【高校生以下の子どもがいる人のみ】

『4. 教職員の資質向上を図る』、『6. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する』で“必要である”の割合が高く、約9割となっています。一方、『5. 授業時間数やテストの回数を増やす』で“必要でない”の割合が高く、5割となっています。

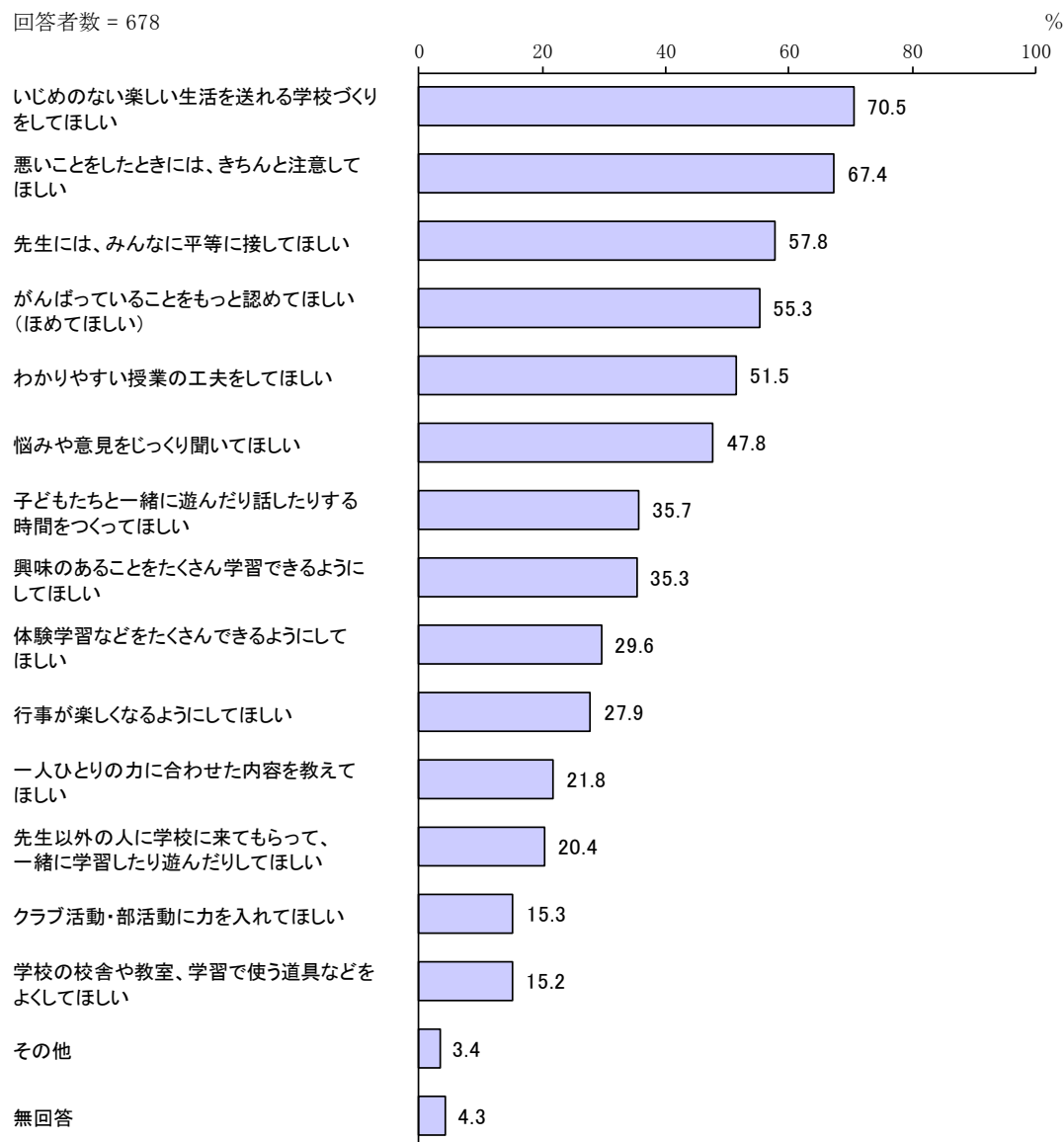




問 14 **新規** 子どもたちが学校や先生に対して望むことは何だと思いますか。
(複数回答)

「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」の割合が70.5%と最も高く、次いで「悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい」の割合が67.4%、「先生には、みんなに平等に接してほしい」の割合が57.8%となっています。

回答者数 = 678



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子、小学生の子で「いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい」の割合が高く、約7割となっています。また、高校生の子で「わかりやすい授業の工夫をしてほしい」の割合が高く、約6割となっています。

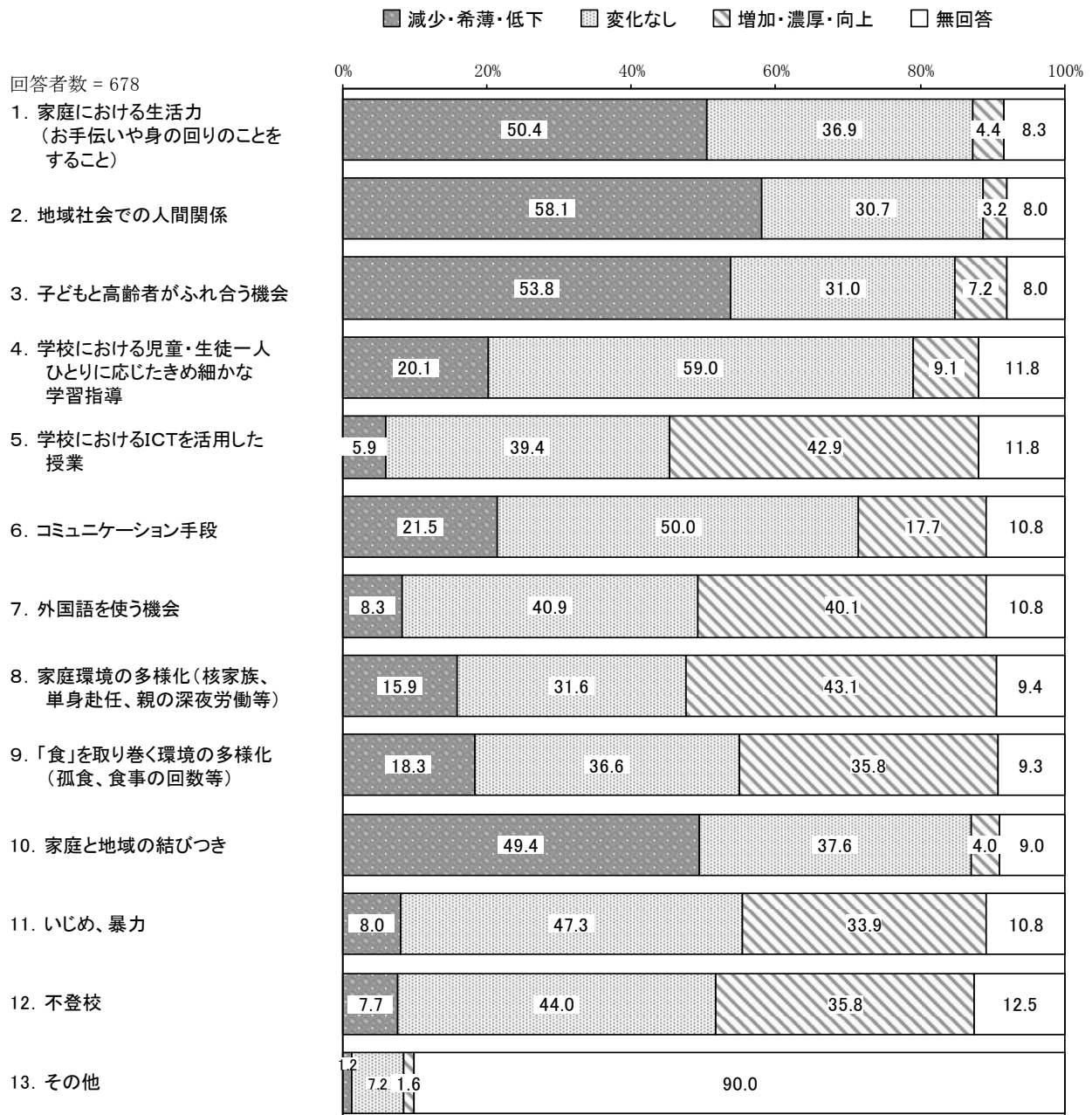
単位：％

区分	有効回答数 (件)	子どもたちと一緒に遊んだり話したりする時間を つくってほしい	体験学習などをたくさん できるようにしてほしい	興味のあることをたくさ ん学習できるようにして ほしい	いじめのない楽しい生活 を送れる学校づくりをし てほしい	悪いことをしたときには、 きちんと注意してほしい	がんばっていることをも っと認めてほしい ほめて ほしい	先生には、みんなに平等に 接してほしい	一人ひとりの力に合わせ た内容を教えてほしい
就学前の子	53	41.5	30.2	45.3	71.7	66.0	60.4	43.4	26.4
小学生の子	57	50.9	26.3	36.8	70.2	64.9	56.1	52.6	21.1
中学生の子	43	46.5	27.9	37.2	58.1	58.1	60.5	53.5	16.3
高校生の子	51	45.1	29.4	35.3	66.7	66.7	56.9	56.9	19.6

区分	わかりやすい授業の工夫 をしてほしい	学校の校舎や教室、学習で 使う道具などをよくして ほしい	悩みや意見をじっくり聞 いてほしい	クラブ活動・部活動に力を 入れてほしい	行事が楽しくなるように してほしい	先生以外の人に学校に來 てもらって、「一緒に学習し たり遊んだりしてほしい	その他	無回答
就学前の子	49.1	15.1	35.8	11.3	26.4	17.0	7.5	—
小学生の子	52.6	15.8	49.1	12.3	22.8	21.1	3.5	5.3
中学生の子	48.8	11.6	41.9	9.3	16.3	16.3	7.0	4.7
高校生の子	58.8	15.7	47.1	21.6	33.3	23.5	9.8	2.0

問 15 新規 あなたは、子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。（単数回答）

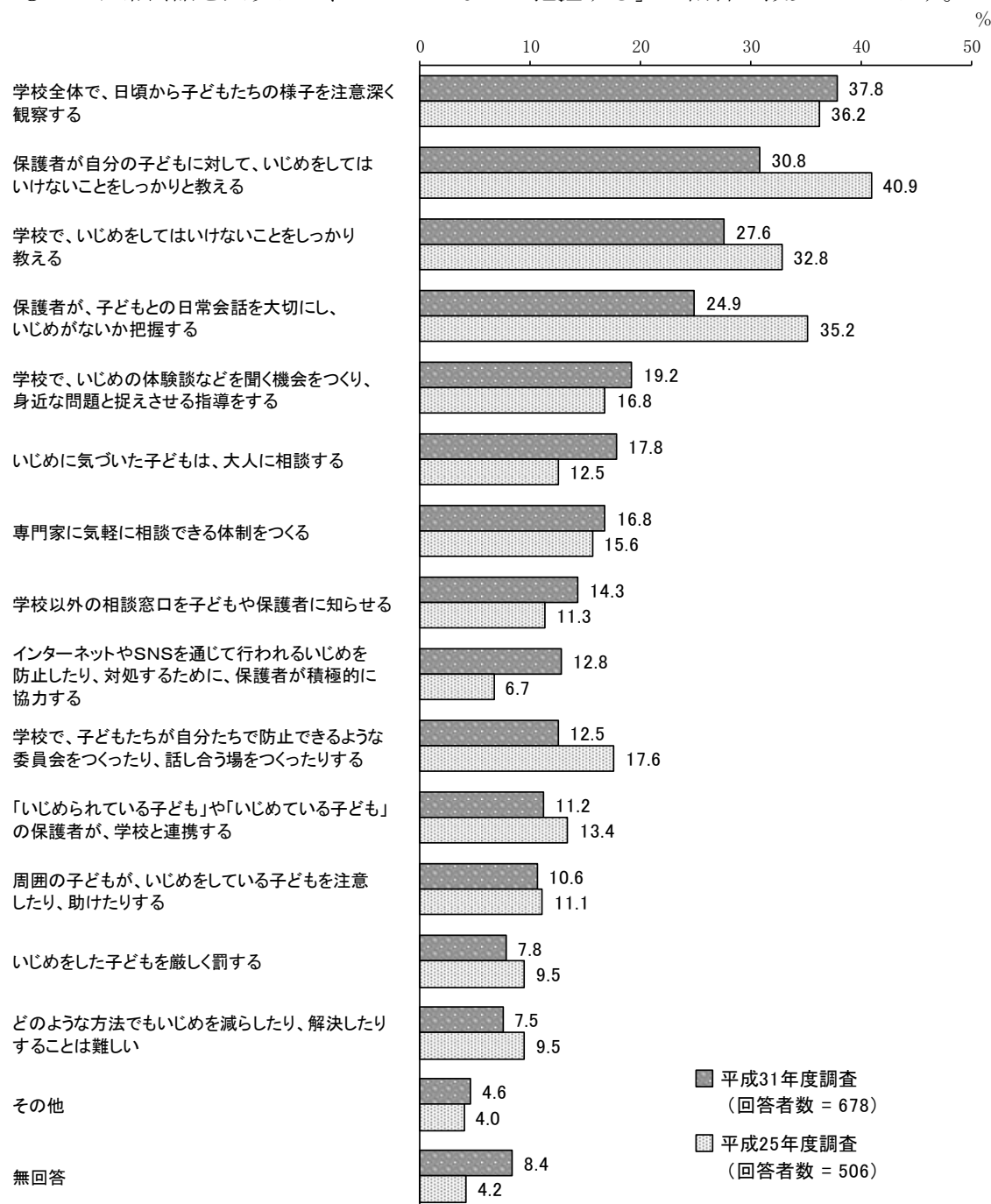
『1. 家庭における生活力（お手伝いや身の回りのことをすること）』、『2. 地域社会での人間関係』、『3. 子どもと高齢者がふれ合う機会』で「減少・希薄・低下」の割合が高く、5割を超えています。一方、『5. 学校におけるICTを活用した授業』、『7. 外国語を使う機会』、『8. 家庭環境の多様化（核家族、単身赴任、親の深夜労働等）』で「増加・濃厚・向上」の割合が高く、4割を超えています。



問 16 いじめが社会問題になっています。あなたは、いじめについて、どのようなことが特に大切だと思いますか。（複数回答）

「学校全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「保護者が自分の子どもに対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が 30.8%、「学校で、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が 27.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「インターネットや SNS を通じて行われるいじめを防止したり、対処するために、保護者が積極的に協力する」「いじめに気づいた子どもは、大人に相談する」の割合が増加し、「学校で、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」「学校で、子どもたちが自分たちで防止できるような委員会をつくったり、話し合う場をつくったりする」「保護者が自分の子どもに対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」「保護者が、子どもとの日常会話を大切にし、いじめがないか把握する」の割合が減少しています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「専門家に気軽に相談できる体制をつくる」「学校以外の相談窓口を子どもや保護者に知らせる」「周囲の子どもが、いじめをしている子どもを注意したり、助けたりする」の割合が高くなっています。また、高校生の子で「学校で、いじめをしてはいけないことをしっかり教える」の割合が高く、2割台半ばとなっています。

単位：％

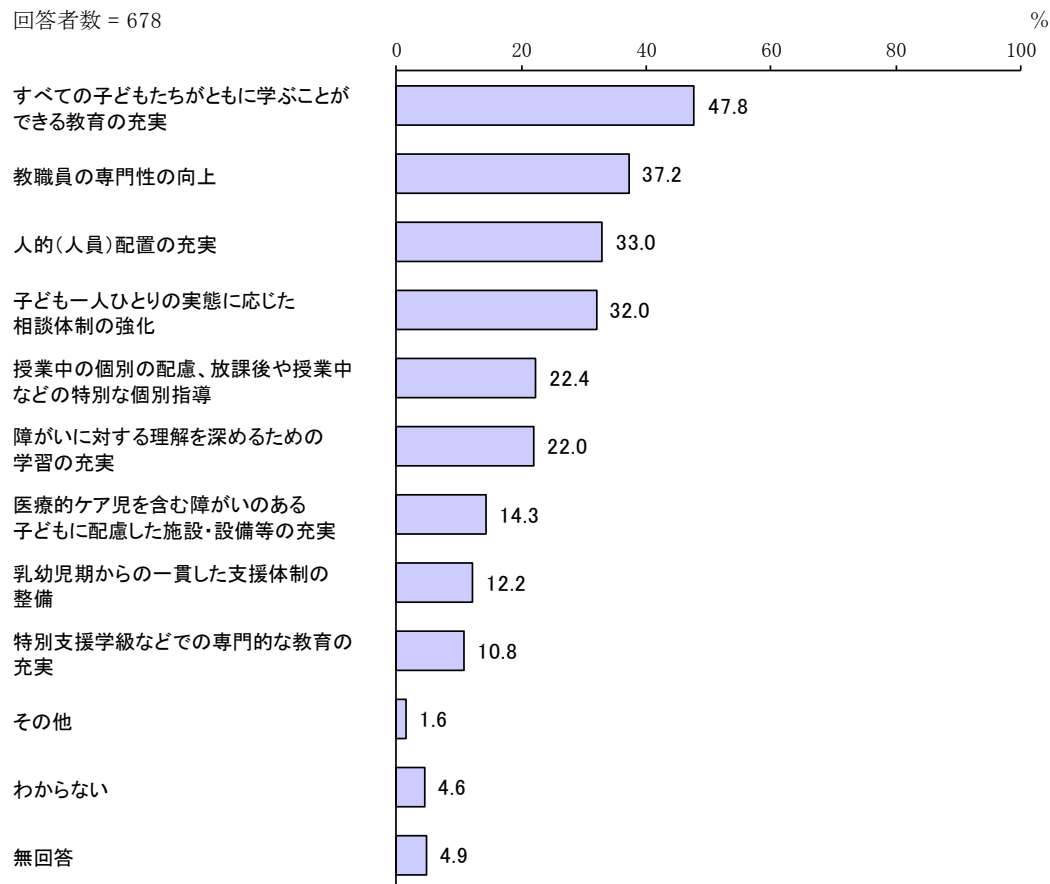
区分	有効回答数 (件)	学校で、いじめをしてはいけないことをしっかり教える	学校全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する	学校で、子どもたちが自分たちで防 止できるような委員会をつくった り、話し合う場をつくったりする	学校で、いじめの体験談などを聞 く機会をつくり、身近な問題と捉 えさせる指導をする	専門家に気軽に相談できる体制を つくる	学校以外の相談窓口を子どもや保 護者に知らせる	保護者が自分の子どもに対して、 いじめをしてはいけないことをし っかりと教える	「いじめられている子ども」や「い じめている子ども」の保護者が、 学校と連携する
就学前の子	53	17.0	34.0	9.4	26.4	20.8	18.9	26.4	15.1
小学生の子	57	17.5	38.6	14.0	22.8	14.0	14.0	26.3	19.3
中学生の子	43	16.3	32.6	11.6	18.6	16.3	7.0	27.9	11.6
高校生の子	51	25.5	37.3	9.8	25.5	11.8	7.8	25.5	13.7

区分	保護者が、子どもとの日常会話を 大切に、いじめがないか把握す る	インターネットやSNSを通じて行 われるいじめを防止したり対処す るために、保護者が積極的に協力する	周囲の子どもが、いじめをしてい る子どもを注意したり、助けたり する	いじめに気づいた子どもは、大人 に相談する	いじめをした子どもを厳しく罰す る	どのような方法でもいじめを減ら したり、解決したりすることは難 しい	その他	無回答
就学前の子	26.4	17.0	17.0	13.2	9.4	11.3	7.5	5.7
小学生の子	22.8	19.3	8.8	21.1	7.0	12.3	10.5	7.0
中学生の子	25.6	16.3	9.3	20.9	9.3	16.3	11.6	7.0
高校生の子	19.6	9.8	9.8	13.7	9.8	15.7	3.9	11.8

問 17 **新規** あなたは、子どもたち一人ひとりの学びを保障するためには、どのような
取組みが必要だと思いますか。(複数回答)

「すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「教職員の専門性の向上」の割合が 37.2%、「人的（人員）配置の充実」の割合が 33.0%となっています。

回答者数 = 678



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実」「乳幼児期からの一貫した支援体制の整備」「教職員の専門性の向上」の割合が高くなっています。また、小学生の子で「子ども一人ひとりの実態に応じた相談体制の強化」「人的（人員）配置の充実」の割合が、中学生の子で「障がいに対する理解を深めるための学習の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	すべての子どもたちが ともに学ぶことができる教 育の充実	乳幼児期からの一貫した 支援体制の整備	子ども一人ひとりの実態 に応じた相談体制の強化	特別支援学級などでの専 門的な教育の充実	授業中の個別の配慮、放課 後や授業中などの特別な 個別指導	教職員の専門性の向上
就学前の子	53	52.8	28.3	20.8	9.4	24.5	39.6
小学生の子	57	42.1	7.0	35.1	14.0	31.6	28.1
中学生の子	43	39.5	14.0	30.2	11.6	34.9	30.2
高校生の子	51	39.2	11.8	31.4	9.8	33.3	33.3

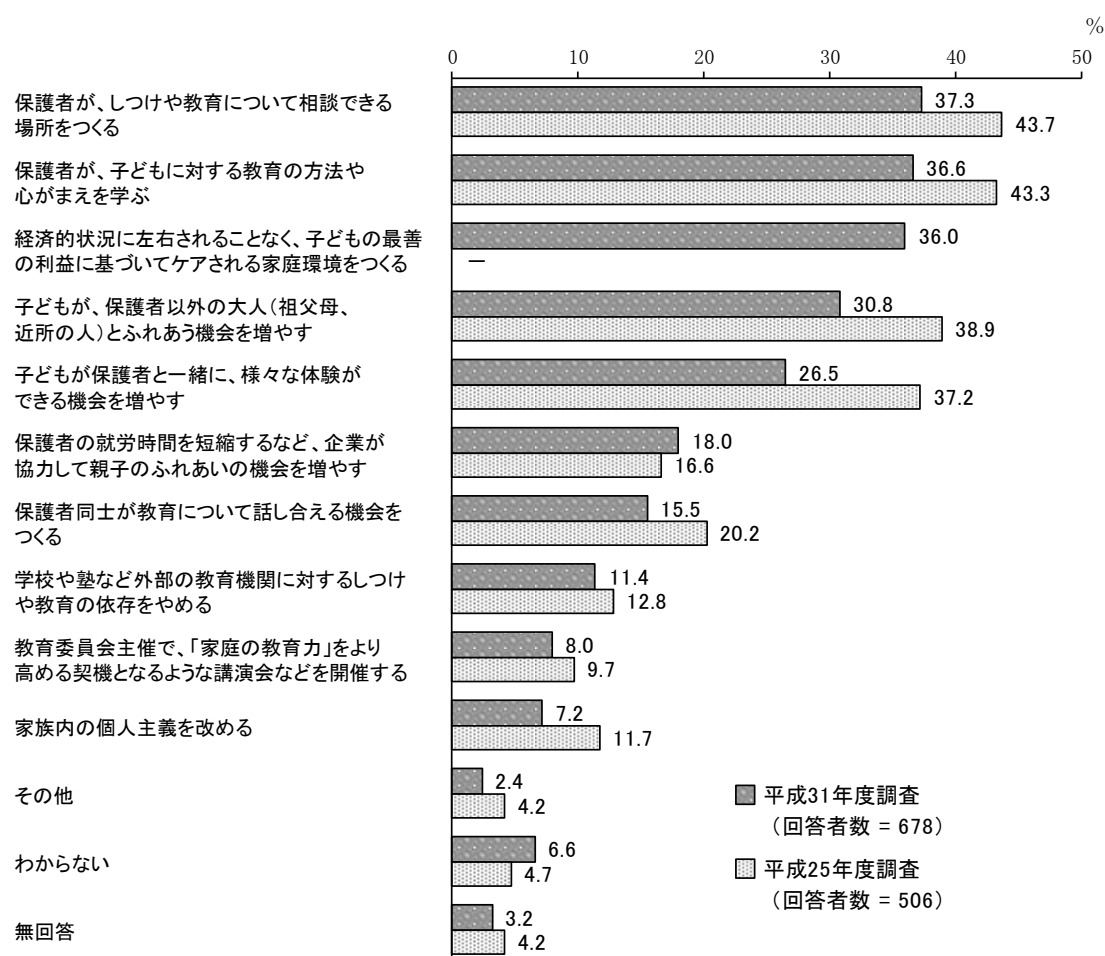
区分	医療的ケア児を含む障が いのある子どもに配慮し た施設・設備等の充実	障がいに対する理解を深 めるための学習の充実	人的（人員）配置の充実	その他	わからない	無回答	
就学前の子	11.3	7.5	54.7	3.8	1.9	1.9	
小学生の子	10.5	12.3	57.9	1.8	—	3.5	
中学生の子	7.0	25.6	41.9	—	—	4.7	
高校生の子	9.8	19.6	41.2	—	—	9.8	

(3) 家庭教育・地域教育について

問 18 あなたは、「家庭の教育力」をより高めていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

「保護者が、しつけや教育について相談できる場所をつくる」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」の割合が 36.6%、「経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる」の割合が 36.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」「保護者が、しつけや教育について相談できる場所をつくる」「子どもが、保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす」「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合が減少しています。



※平成 25 年度調査には「経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる」の選択肢はありませんでした。

【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、子どもの年代が低くなるにつれ「保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」「保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす」の割合が、子どもの年代が高くなるにつれ「経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる」の割合が高くなっています。また、他に比べ、就学前の子で「保護者同士が教育について話し合える機会をつくる」「子どもが、保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす」の割合が高くなっています。

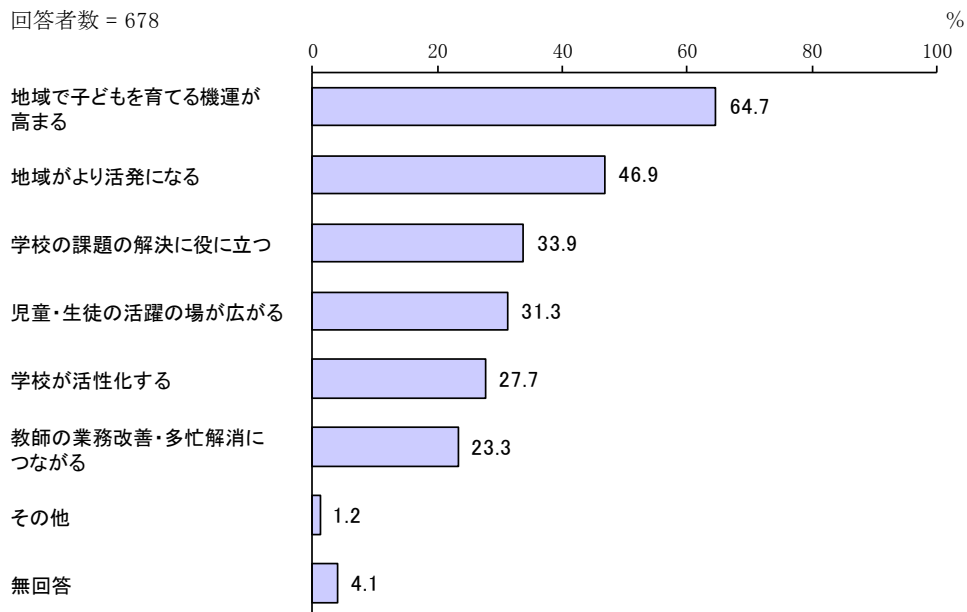
単位：％

区分	有効回答数 (件)	教育委員会主催で、 「家庭教育力」をより高める契 機となるような講演会な どを開催する	保護者が、子どもに対する 教育の方法や心がまえを 学ぶ	保護者同士が教育につい て話し合える機会をつく る	保護者が、しつけや教育に ついて相談できる場所を つくる	子どもが、保護者以外の大 人（祖父母、近所の人）と ふれあう機会を増やす	子どもが保護者と一緒に、 様々な体験ができる機会 を増やす
就学前の子	53	1.9	37.7	18.9	35.8	41.5	37.7
小学生の子	57	7.0	33.3	10.5	40.4	29.8	33.3
中学生の子	43	4.7	32.6	9.3	32.6	27.9	27.9
高校生の子	51	11.8	29.4	9.8	31.4	31.4	27.5

区分	保護者の就労時間を短縮 するなど、企業が協力して 親子のふれあいの機会を 増やす	学校や塾など外部の教育 機関に対するしつけや教 育の依存をやめる	家族内の個人主義を改め る	経済的状況に左右される ことなく、子どもの最善の 利益に基づいてケアされ る家庭環境をつくる	その他	わからない	無回答
就学前の子	34.0	13.2	3.8	24.5	1.9	1.9	—
小学生の子	28.1	7.0	7.0	29.8	1.8	1.8	—
中学生の子	20.9	9.3	4.7	34.9	2.3	7.0	2.3
高校生の子	15.7	11.8	11.8	45.1	—	7.8	3.9

問 19 **新規** あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力することにより、どのような効果があると思いますか。（複数回答）

「地域で子どもを育てる機運が高まる」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「地域がより活発になる」の割合が 46.9%、「学校の課題の解決に役に立つ」の割合が 33.9%となっています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「地域がより活発になる」「児童・生徒の活躍の場が広がる」の割合が高くなっています。また、小学生の子で「学校が活性化する」の割合が高くなっています。

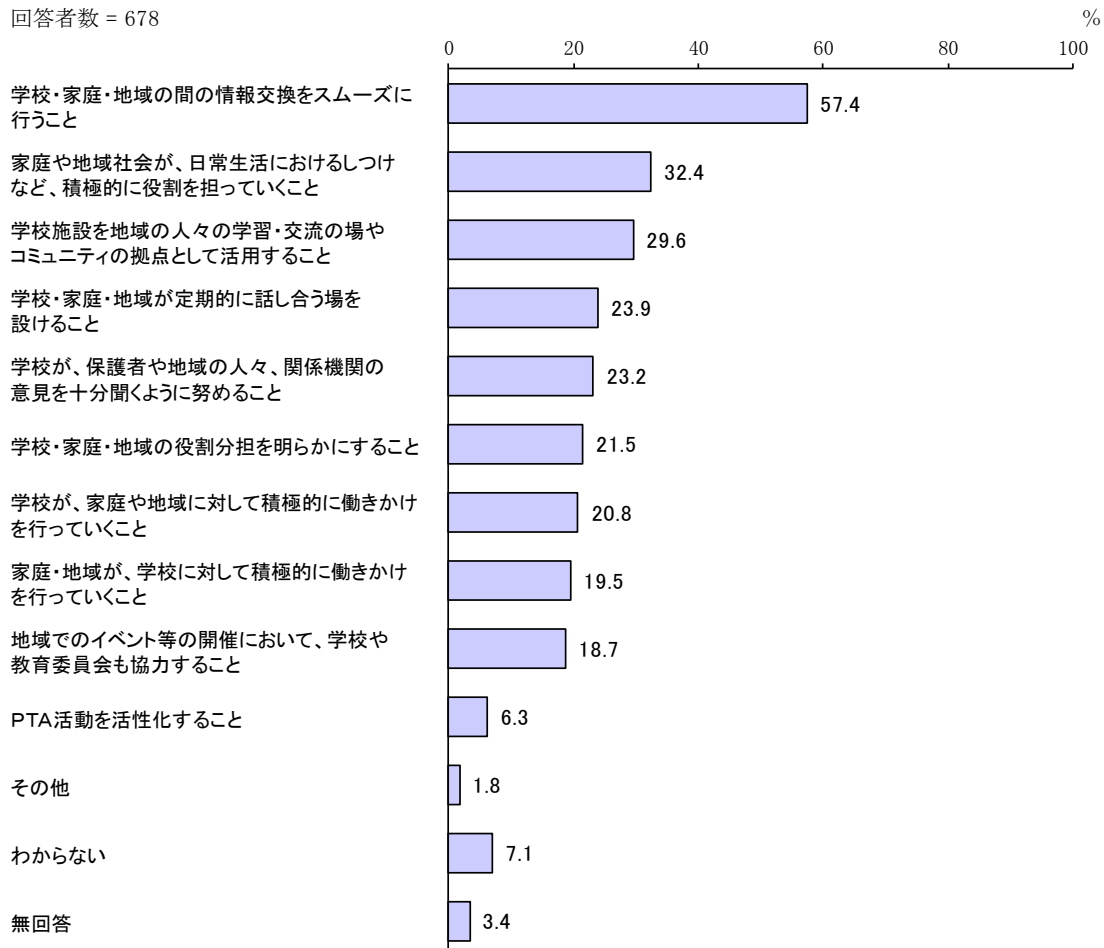
単位：％

区分	有効回答数 (件)	学校の課題の解決に役に立つ	学校が活性化する	地域がより活発になる	地域で子どもを育てる機運が高まる	児童・生徒の活躍の場が広がる	教師の業務改善・多忙解消につながる	その他	無回答
就学前の子	53	32.1	24.5	60.4	67.9	41.5	24.5	—	—
小学生の子	57	38.6	33.3	52.6	50.9	26.3	22.8	—	—
中学生の子	43	37.2	27.9	55.8	67.4	23.3	32.6	—	2.3
高校生の子	51	37.3	27.5	47.1	68.6	31.4	31.4	—	3.9

問 20 **新規** あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（複数回答）

「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が57.4%と最も高く、次いで「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」の割合が32.4%、「学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること」の割合が29.6%となっています。

回答者数 = 678



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること」「家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと」の割合が高くなっています。また、中学生の子で「学校・家庭・地域の間の情報交換をスムーズに行うこと」「学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること」「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」の割合が高くなっています。

単位：％

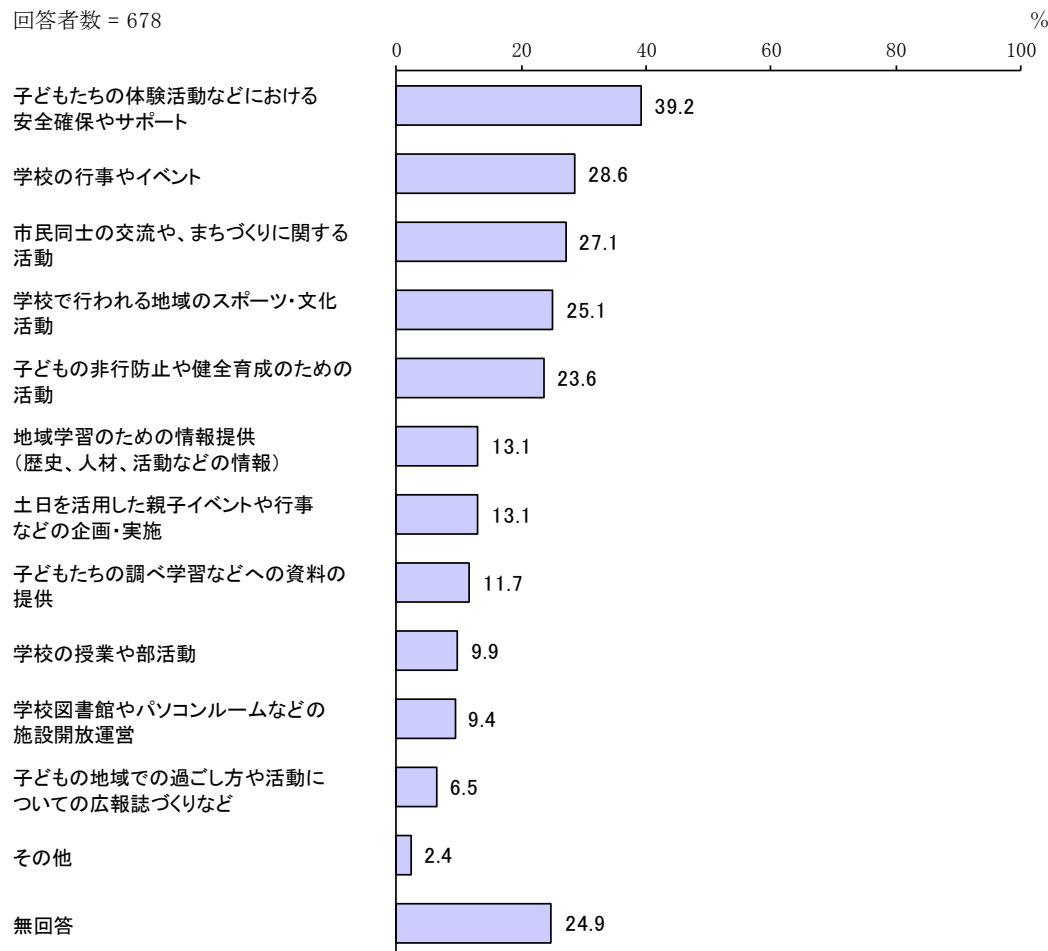
区分	有効回答数 (件)	学校・家庭・地域の役割分 担を明らかにすること	学校・家庭・地域の間の情 報交換をスムーズに行う こと	学校・家庭・地域が定期的 に話し合う場を設けるこ と	学校が、家庭や地域に対し て積極的に働きかけを行 っていくこと	学校が、保護者や地域の 人々、関係機関の意見を十 分聞くように努めること	家庭・地域が、学校に対し て積極的に働きかけを行 っていくこと
就学前の子	53	18.9	56.6	26.4	11.3	26.4	20.8
小学生の子	57	10.5	54.4	12.3	19.3	22.8	15.8
中学生の子	43	16.3	67.4	14.0	14.0	32.6	11.6
高校生の子	51	15.7	54.9	17.6	15.7	25.5	15.7

区分	学校施設を地域の人々の 学習・交流の場やコミュニ ティの拠点として活用す ること	家庭や地域社会が、日常生 活におけるしつけなど、積 極的に役割を担っていく こと	P T A 活動を活性的化する こと	地域でのイベント等の開 催において、学校や教育委 員会も協力すること	その他	わからない	無回答
就学前の子	30.2	32.1	1.9	9.4	3.8	7.5	—
小学生の子	24.6	26.3	1.8	12.3	1.8	8.8	—
中学生の子	30.2	37.2	—	11.6	—	7.0	2.3
高校生の子	35.3	31.4	—	17.6	2.0	3.9	3.9

問 21 **新規** あなたは、今後、地域の学校に対してどのような活動でご協力いただけますか。（複数回答）

「子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「学校の行事やイベント」の割合が 28.6%、「市民同士の交流や、まちづくりに関する活動」の割合が 27.1%となっています。

回答者数 = 678



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で「子どもたちの調べ学習などへの資料の提供」「土日を活用した親子イベントや行事などの企画・実施」「市民同士の交流や、まちづくりに関する活動」の割合が高くなっています。また、中学生の子で「学校の行事やイベント」の割合が高くなっています。

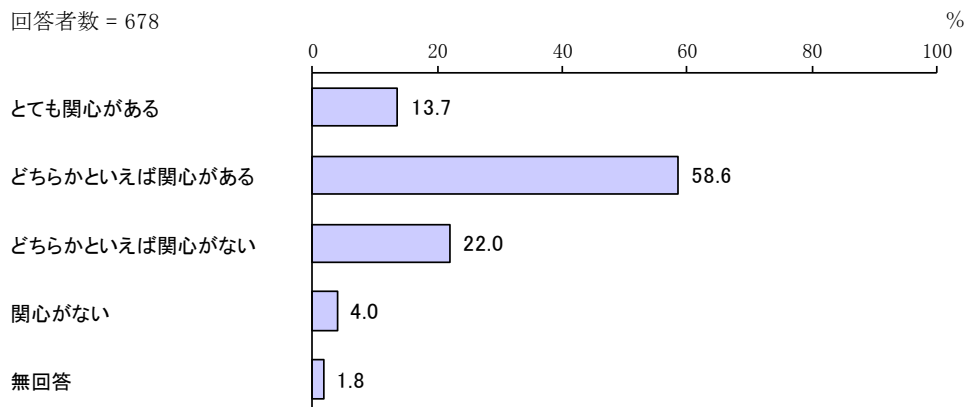
単位：％

区分	有効回答数 (件)	子どもたちの調べ学習などへの資料の提供	地域学習のための情報提供 (歴史、人材、活動などの情報)	子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート	学校の授業や部活動	学校の行事やイベント	学校図書館やパソコンルームなどの施設開放運営
就学前の子	53	24.5	18.9	52.8	20.8	47.2	11.3
小学生の子	57	19.3	19.3	45.6	21.1	50.9	14.0
中学生の子	43	14.0	16.3	51.2	16.3	55.8	11.6
高校生の子	51	13.7	17.6	52.9	15.7	41.2	15.7

区分	学校で行われる地域のスポーツ・文化活動	土日を活用した親子イベントや行事などの企画・実施	子どもの非行防止や健全育成のための活動	子どもが地域での過ごし方や活動についての広報誌づくりなど	市民同士の交流や、まちづくりに関する活動	その他	無回答
就学前の子	37.7	28.3	22.6	11.3	30.2	—	9.4
小学生の子	42.1	19.3	28.1	5.3	12.3	—	12.3
中学生の子	51.2	18.6	32.6	2.3	23.3	2.3	9.3
高校生の子	37.3	21.6	31.4	11.8	25.5	3.9	5.9

問 22 **新規** あなたは、地域に関心がありますか。(単数回答)

「とても関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた“関心がある”の割合が72.3%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」をあわせた“関心がない”の割合が26.0%となっています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、他に比べ、就学前の子で“関心がある”の割合が高く、8割を超えています。

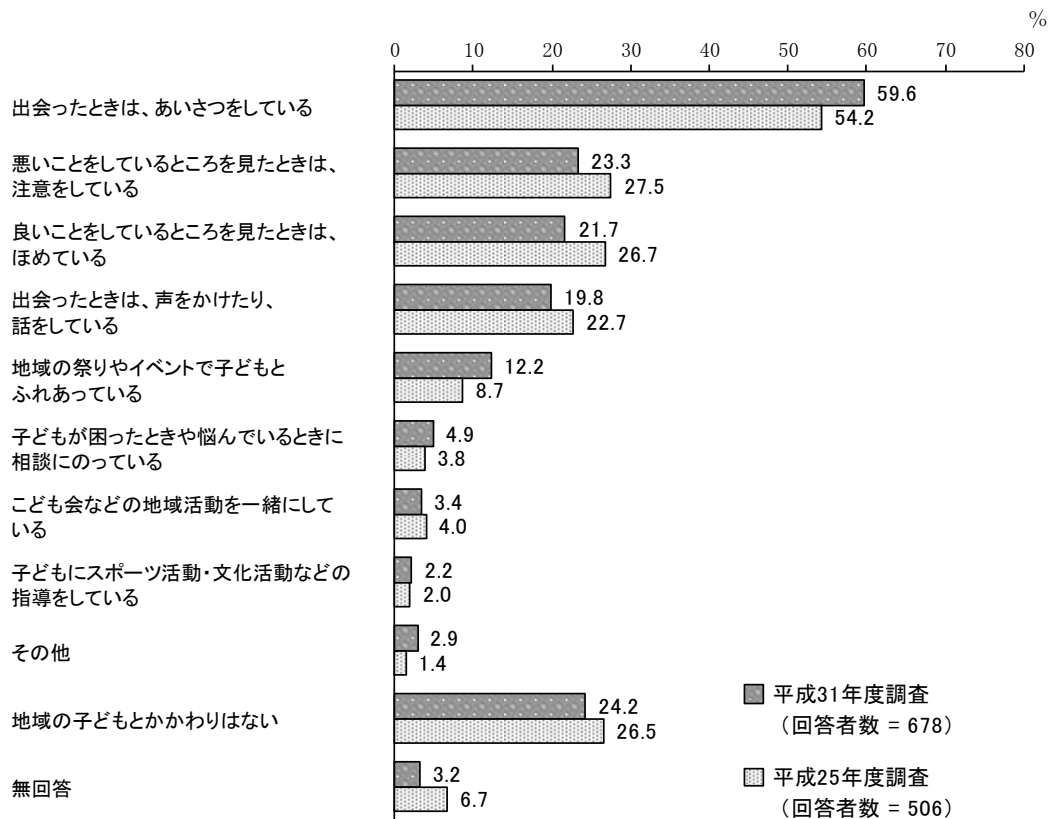
単位：%

区分	有効回答数 (件)	とても関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	関心がない	無回答
就学前の子	53	18.9	64.2	15.1	1.9	—
小学生の子	57	12.3	63.2	22.8	1.8	—
中学生の子	43	16.3	60.5	18.6	4.7	—
高校生の子	51	7.8	70.6	15.7	5.9	—

問 23 ふだん、あなたは、地域の子どもとどのように接していますか。
(複数回答)

「出会ったときは、あいさつをしている」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「地域の子どもとかかわりはない」の割合が 24.2%、「悪いことをしているところを見たときは、注意をしている」の割合が 23.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「出会ったときは、あいさつをしている」の割合が増加し、「良いことをしているところを見たときは、ほめている」の割合が減少しています。



【高校生以下の子どもの年代別】

高校生以下の子どもの年代別でみると、子どもの年代が高くなるにつれ「悪いことをしているところを見たときは、注意をしている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、就学前の子で「地域の子ともとかかわりはない」の割合が、小学生の子で「出会ったときは、声をかけたり、話をしている」の割合が高くなっています。

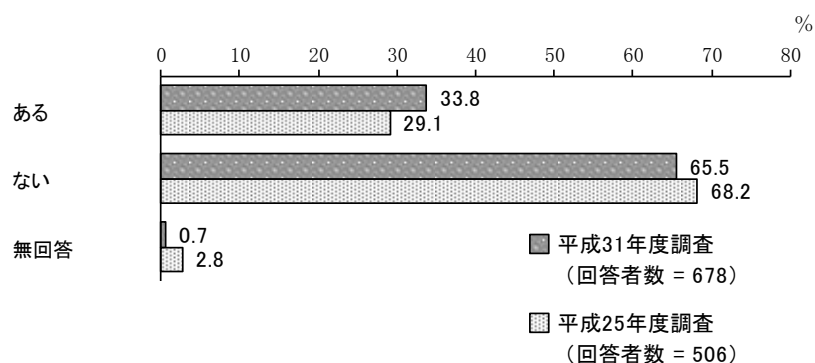
単位：％

区分	有効回答数 (件)	出会ったときは、あいさつを している	出会ったときは、声を かけたり、話をしている	悪いことをしているとこ ろを見たときは、注意を している	良いことをしているとこ ろを見たときは、ほめて いる	子どもが困ったときや悩 んでいるときに相談にの っている	子ども会などの地域活 動と一緒にしている	子どもにスポーツ活動・文 化活動などの指導をして いる	地域の祭りやイベントで 子どもとふれあっている	その他	地域の子ともとかかわり はない	無回答
就学前の子	53	67.9	18.9	9.4	13.2	3.8	3.8	1.9	17.0	—	22.6	—
小学生の子	57	84.2	28.1	24.6	24.6	12.3	8.8	3.5	19.3	1.8	7.0	—
中学生の子	43	81.4	18.6	27.9	20.9	11.6	14.0	9.3	20.9	—	7.0	—
高校生の子	51	82.4	19.6	31.4	27.5	17.6	7.8	5.9	9.8	5.9	9.8	—

(4) 大阪狭山市の※生涯学習・文化・スポーツなどについて

問 24 あなたは、この1年くらいの間に、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしたことがありますか。(単数回答)

「ある」の割合が33.8%、「ない」の割合が65.5%となっています。
平成25年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、すべての年代で「ない」の割合が高くなっているものの、他に比べ、50歳～59歳で「ある」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

区分	有効回答数 (件)	ある	ない	無回答
16歳～19歳	16	31.3	68.8	—
20歳～29歳	47	36.2	63.8	—
30歳～39歳	78	33.3	66.7	—
40歳～49歳	121	28.9	71.1	—
50歳～59歳	98	39.8	60.2	—
60歳～69歳	148	30.4	68.9	0.7
70歳以上	166	36.1	61.4	2.4

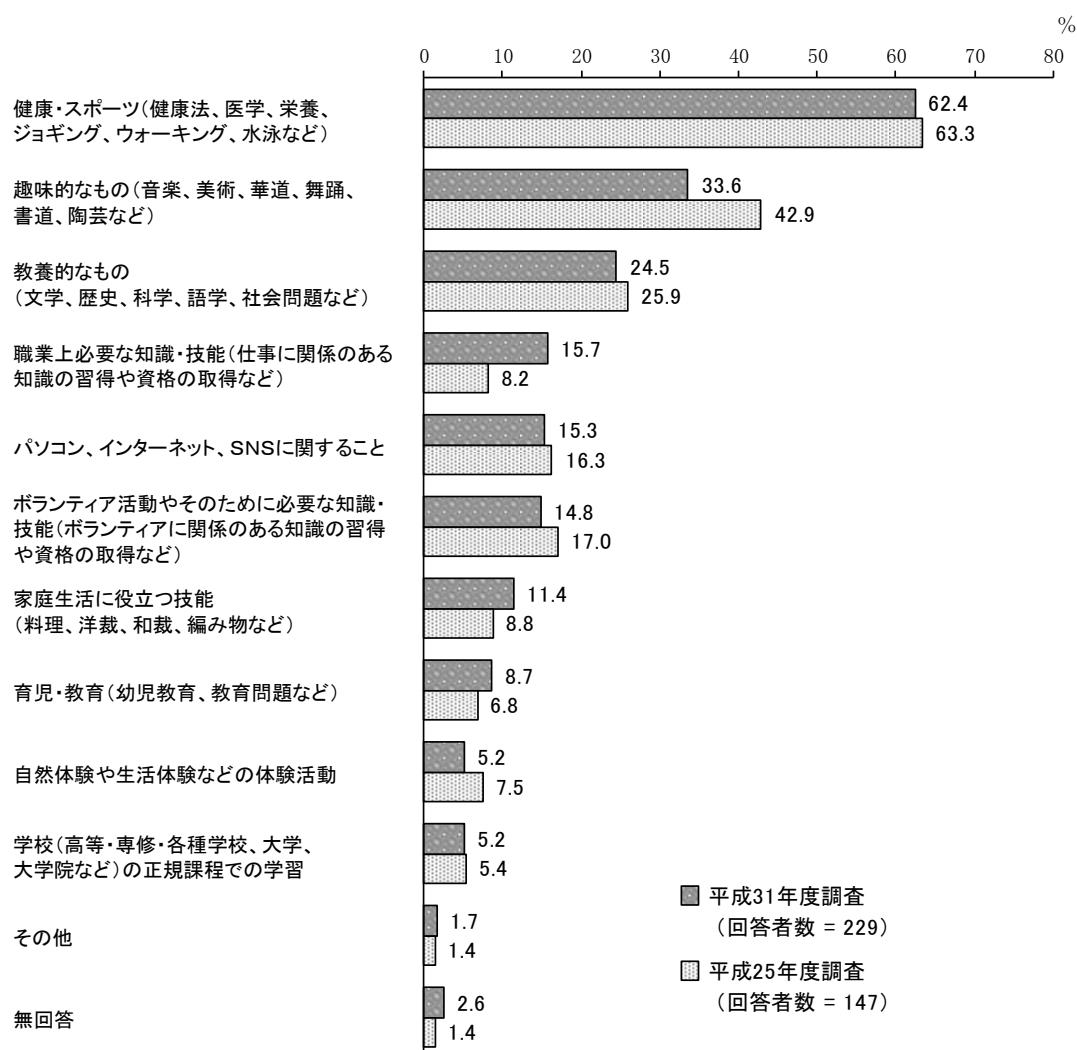
※生涯学習：人々が生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座などの社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習や趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

問 24 で「1. ある」と回答した方だけにお聞きます。

問 24－（１） あなたは、どのような生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしましたか。（複数回答）

「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など）」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」の割合が 33.6%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など）」の割合が 24.5%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が増加し、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳～29歳で「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」の割合が、30歳～39歳で「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が高くなっています。また、60歳～69歳で「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など）」の割合が高く、約7割となっています。

単位：％

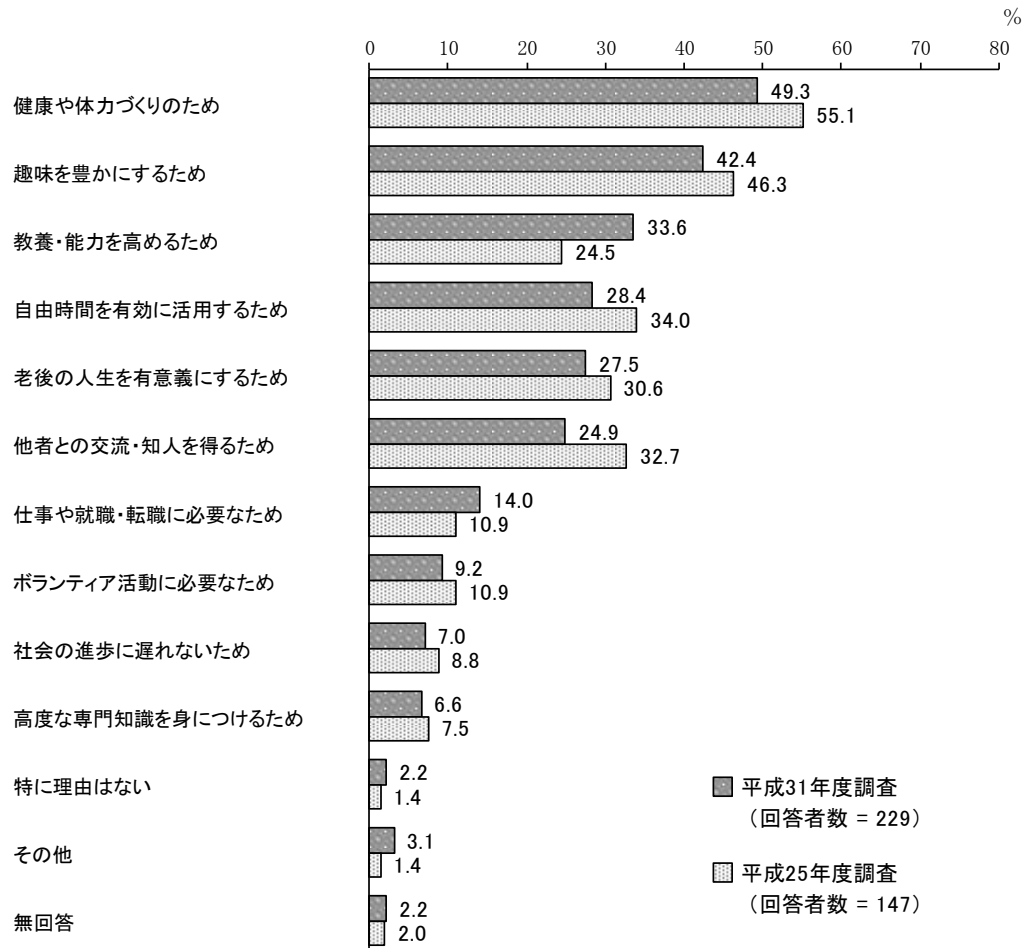
区分	有効回答数 (件)	趣味的なもの 音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など	職業上必要な知識・技能 文学、歴史、科学、語学、社会問題など	健康・スポーツ 健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など	家庭生活に役立つ技能 料理、洋裁、和裁、編み物など	育児・教育 幼児教育、教育問題など	職業上必要な知識・技能 仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など
16歳～19歳	5	—	—	60.0	—	20.0	—
20歳～29歳	17	47.1	35.3	58.8	23.5	11.8	29.4
30歳～39歳	26	38.5	23.1	57.7	3.8	23.1	38.5
40歳～49歳	35	34.3	25.7	65.7	8.6	8.6	28.6
50歳～59歳	39	23.1	15.4	59.0	5.1	10.3	25.6
60歳～69歳	45	28.9	28.9	71.1	8.9	6.7	—
70歳以上	60	41.7	26.7	60.0	20.0	1.7	1.7

区分	パソコン、インターネット、SNSに関すること	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能 ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など	自然体験や生活体験などの体験活動	学校・高等・専修・各種学校、大学、大学院などでの学習 の正規課程	その他	無回答
16歳～19歳	—	20.0	20.0	60.0	—	—
20歳～29歳	23.5	11.8	11.8	23.5	—	—
30歳～39歳	7.7	—	7.7	3.8	—	—
40歳～49歳	14.3	17.1	8.6	5.7	—	—
50歳～59歳	20.5	20.5	2.6	2.6	—	5.1
60歳～69歳	20.0	20.0	4.4	—	4.4	2.2
70歳以上	11.7	11.7	1.7	1.7	3.3	5.0

問 24－（２） あなたが、生涯学習・文化・スポーツなどの活動をはじめたきっかけは何ですか。（複数回答）

「健康や体力づくりのため」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「趣味を豊かにするため」の割合が 42.4%、「教養・能力を高めるため」の割合が 33.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「教養・能力を高めるため」の割合が増加し、「自由時間を有効に活用するため」「他者との交流・知人を得るため」「健康や体力づくりのため」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30歳～39歳で「教養・能力を高めるため」の割合が、60歳以上で「自由時間を有効に活用するため」の割合が高くなっています。また、60歳～69歳で「健康や体力づくりのため」の割合が高くなっています。

単位：％

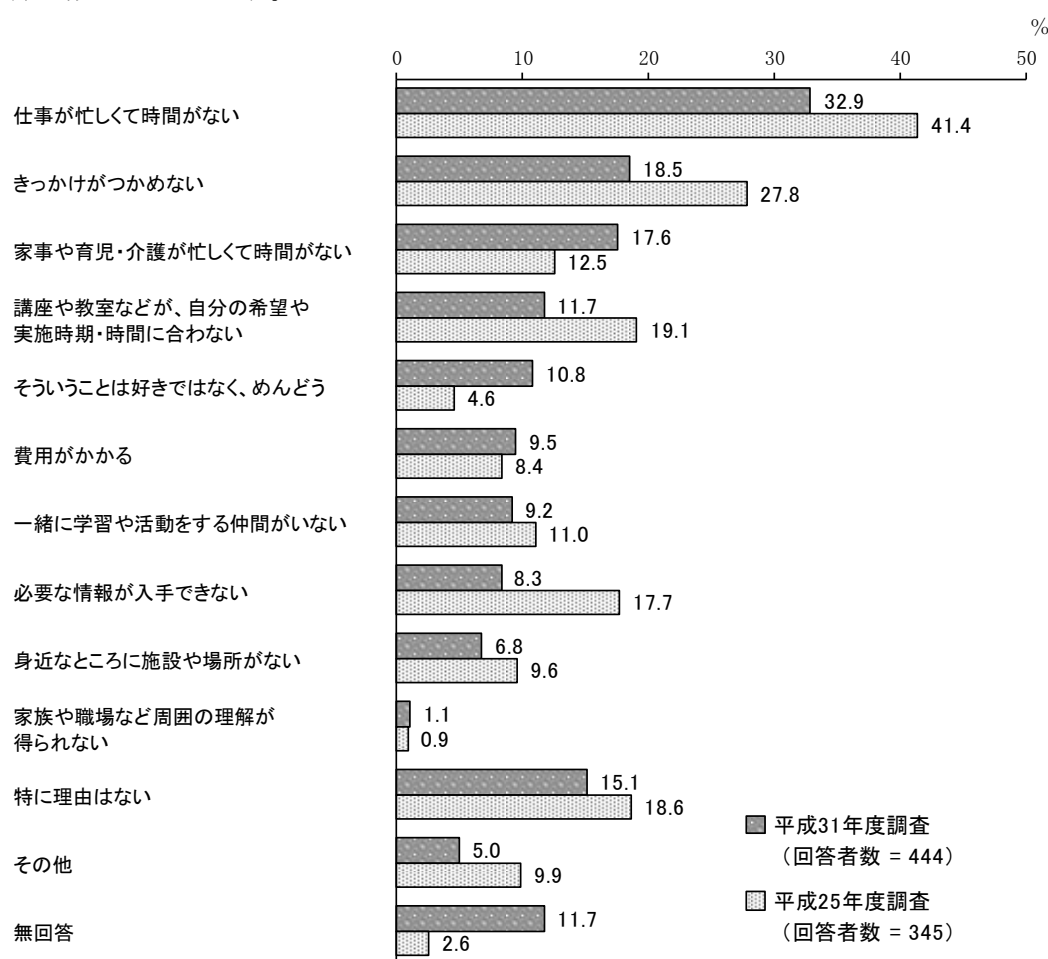
区分	有効回答数 (件)	趣味を豊かにするため	教養・能力を高めるため	仕事や就職・転職に必要なため	ボランティア活動に必要なため	高度な専門知識を身につけるため	自由時間を有効に活用するため	他者との交流・知人を得るため	老後の人生を有意義にするため	社会の進歩に遅れないため	健康や体力づくりのため	特に理由はない	その他	無回答
16歳～19歳	5	20.0	40.0	—	20.0	20.0	—	20.0	—	—	20.0	—	—	20.0
20歳～29歳	17	47.1	47.1	41.2	5.9	17.6	17.6	17.6	11.8	17.6	29.4	5.9	5.9	—
30歳～39歳	26	38.5	57.7	30.8	3.8	15.4	15.4	19.2	3.8	—	34.6	—	3.8	—
40歳～49歳	35	37.1	40.0	20.0	14.3	5.7	28.6	20.0	14.3	2.9	45.7	5.7	8.6	2.9
50歳～59歳	39	38.5	28.2	20.5	5.1	7.7	12.8	12.8	10.3	7.7	48.7	—	—	2.6
60歳～69歳	45	42.2	26.7	4.4	6.7	2.2	37.8	28.9	42.2	4.4	64.4	2.2	2.2	2.2
70歳以上	60	51.7	25.0	—	13.3	1.7	43.3	38.3	53.3	11.7	55.0	—	1.7	1.7

問 24 で「2. ない」と回答した方だけにお聞きます。

問 24ー（3） あなたが、生涯学習・文化・スポーツなどの活動を行っていない理由は何ですか。（複数回答）

「仕事が忙しくて時間がない」の割合が 32.9%と最も高く、次いで「きっかけがつかめない」の割合が 18.5%、「家事や育児・介護が忙しくて時間がない」の割合が 17.6%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「家事や育児・介護が忙しくて時間がない」「そういうことは好きではなく、めんどろ」の割合が増加し、「仕事が忙しくて時間がない」「必要な情報が入手できない」「講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない」「きっかけがつかめない」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳～29歳で「きっかけがつかめない」の割合が、30歳～59歳で「家事や育児・介護が忙しくて時間がない」の割合が高くなっています。また、40歳～49歳で「仕事が忙しくて時間がない」の割合が、50歳～59歳で「講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない」の割合が高くなっています。

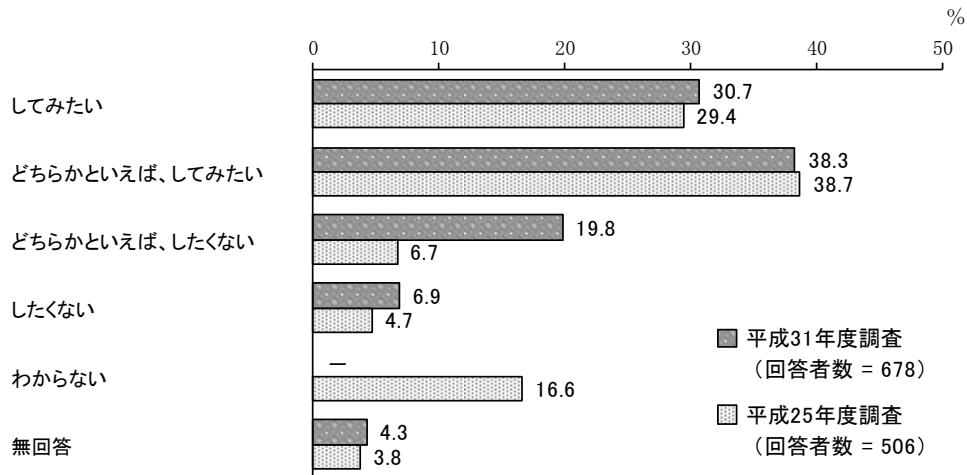
単位：％

区分	有効回答数 (件)	仕事が忙しくて時間がない	家事や育児・介護が忙しくて時間がない	費用がかかる	必要な情報が入手できない	仲間がいない	身近なところに施設や場所がない	講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない	家族や職場など周囲の理解が得られない	きっかけがつかめない	そういうことは好きではなく、めんどろ	特に理由はない	その他	無回答
16歳～19歳	11	9.1	—	—	—	9.1	9.1	9.1	—	—	18.2	27.3	36.4	9.1
20歳～29歳	30	43.3	3.3	20.0	6.7	10.0	3.3	6.7	—	33.3	20.0	20.0	—	3.3
30歳～39歳	52	40.4	26.9	17.3	11.5	9.6	9.6	5.8	—	21.2	11.5	7.7	3.8	9.6
40歳～49歳	86	52.3	27.9	15.1	5.8	11.6	7.0	16.3	4.7	20.9	8.1	8.1	3.5	4.7
50歳～59歳	59	40.7	27.1	8.5	8.5	5.1	5.1	27.1	—	13.6	5.1	22.0	—	6.8
60歳～69歳	102	22.5	18.6	4.9	12.7	8.8	3.9	9.8	1.0	20.6	8.8	16.7	4.9	7.8
70歳以上	102	18.6	2.9	3.9	4.9	8.8	9.8	5.9	—	13.7	14.7	15.7	7.8	28.4

問 25 あなたは、今後、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしてみたいと思いますか。（単数回答）

「してみたい」と「どちらかといえば、してみたい」をあわせた“してみたい”の割合が 69.0%、
「どちらかといえば、したくない」と「したくない」をあわせた“したくない”の割合が 26.7%
となっています。

平成 25 年度調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。



※平成 31 年度調査には「わからない」の選択肢はありません。

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、16 歳～19 歳で“したくない”の割合が高く、約 4 割となっています。また、50 歳～59 歳で“してみたい”の割合が高く、約 8 割となっています。

単位：％

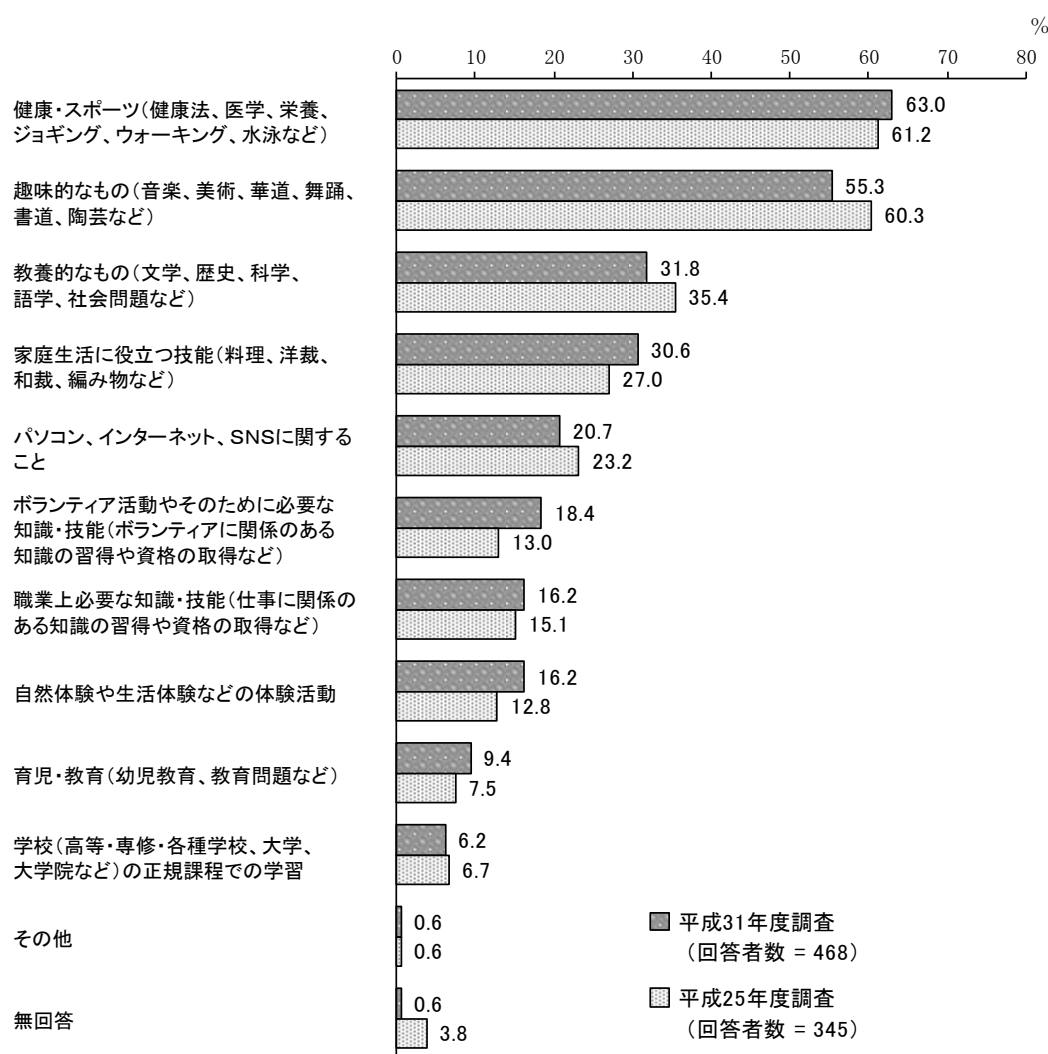
区分	有効回答数 (件)	してみたい	どちらかといえば、 してみたい	どちらかといえば、 したくない	したくない	無回答
16 歳～19 歳	16	25.0	25.0	31.3	12.5	6.3
20 歳～29 歳	47	44.7	29.8	23.4	2.1	—
30 歳～39 歳	78	32.1	41.0	17.9	7.7	1.3
40 歳～49 歳	121	26.4	43.8	19.8	6.6	3.3
50 歳～59 歳	98	34.7	48.0	14.3	2.0	1.0
60 歳～69 歳	148	27.0	37.8	24.3	7.4	3.4
70 歳以上	166	30.7	31.3	18.1	9.6	10.2

問 25 で「1. してみたい」または「2. どちらかといえば、してみたい」と回答した方だけにお聞きします。

問 25－（１） あなたは、どのような生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしてみたいと思いますか。（複数回答）

「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など）」の割合が 63.0%と最も高く、次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」の割合が 55.3%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など）」の割合が 31.8%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能（ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が増加し、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、39歳以下で「自然体験や生活体験などの体験活動」の割合が、20歳～49歳で「職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が、30歳～39歳で「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など）」「家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など）」「育児・教育（幼児教育、教育問題など）」の割合が、40歳～69歳で「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能（ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が高くなっています。また、60歳～69歳で「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など）」の割合が高くなっています。

単位：％

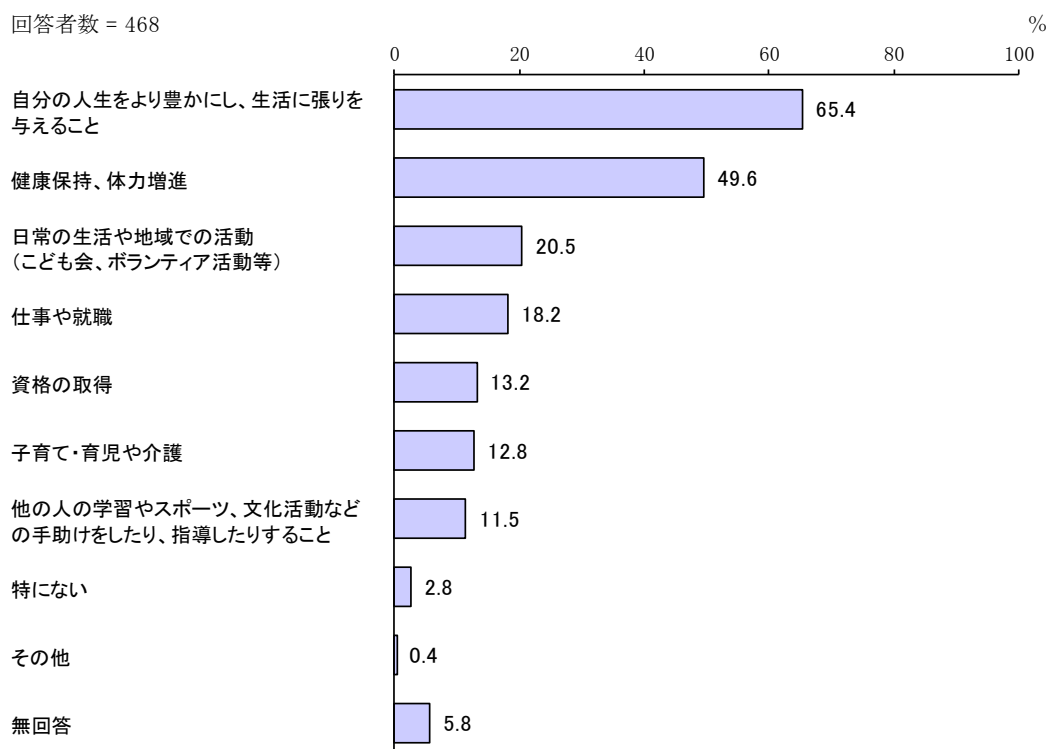
区分	有効回答数 (件)	趣味的なもの 音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など	職業上必要な知識・技能 学、語学、文学、歴史、社会学、社会問題など	健康・スポーツ 健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など	家庭生活に役立つ技能 料理、洋裁、和裁、編み物など	育児・教育 幼児教育、教育問題など	職業上必要な知識・技能 仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など
16歳～19歳	8	37.5	12.5	50.0	12.5	25.0	—
20歳～29歳	35	57.1	20.0	57.1	42.9	17.1	31.4
30歳～39歳	57	68.4	40.4	64.9	47.4	29.8	33.3
40歳～49歳	85	60.0	29.4	65.9	31.8	9.4	27.1
50歳～59歳	81	53.1	21.0	64.2	35.8	4.9	14.8
60歳～69歳	96	46.9	40.6	68.8	19.8	5.2	5.2
70歳以上	103	54.4	35.0	57.3	22.3	1.0	5.8

区分	パソコン、インターネット、SNSに関すること	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能 ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など	自然体験や生活体験などの体験活動	学校・高等・専修・各種学校、大学、大学院などでの学習 の正規課程	その他	無回答
16歳～19歳	—	12.5	25.0	25.0	—	—
20歳～29歳	31.4	17.1	28.6	14.3	2.9	—
30歳～39歳	15.8	10.5	29.8	5.3	—	—
40歳～49歳	17.6	20.0	14.1	5.9	1.2	1.2
50歳～59歳	23.5	23.5	6.2	2.5	1.2	—
60歳～69歳	20.8	25.0	15.6	5.2	—	—
70歳以上	22.3	11.7	13.6	6.8	—	1.9

問 25 で「1. してみたい」または「2. どちらかといえば、してみたい」と回答した方だけにお聞きします。

問 25－（２） **新規** あなたは、生涯学習・文化・スポーツなどの活動を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように生かしたいと思いますか。
（複数回答）

「自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えること」の割合が 65.4%と最も高く、次いで「健康保持、体力増進」の割合が 49.6%、「日常の生活や地域での活動（こども会、ボランティア活動等）」の割合が 20.5%となっています。



【年代別】

年代別でみると、50 歳以上に比べ、16 歳～49 歳で「子育て・育児や介護」の割合が高くなっています。また、他に比べ、20 歳～29 歳で「仕事や就職」の割合が、60 歳以上で「健康保持、体力増進」の割合が高く、約 6 割となっています。

単位：％

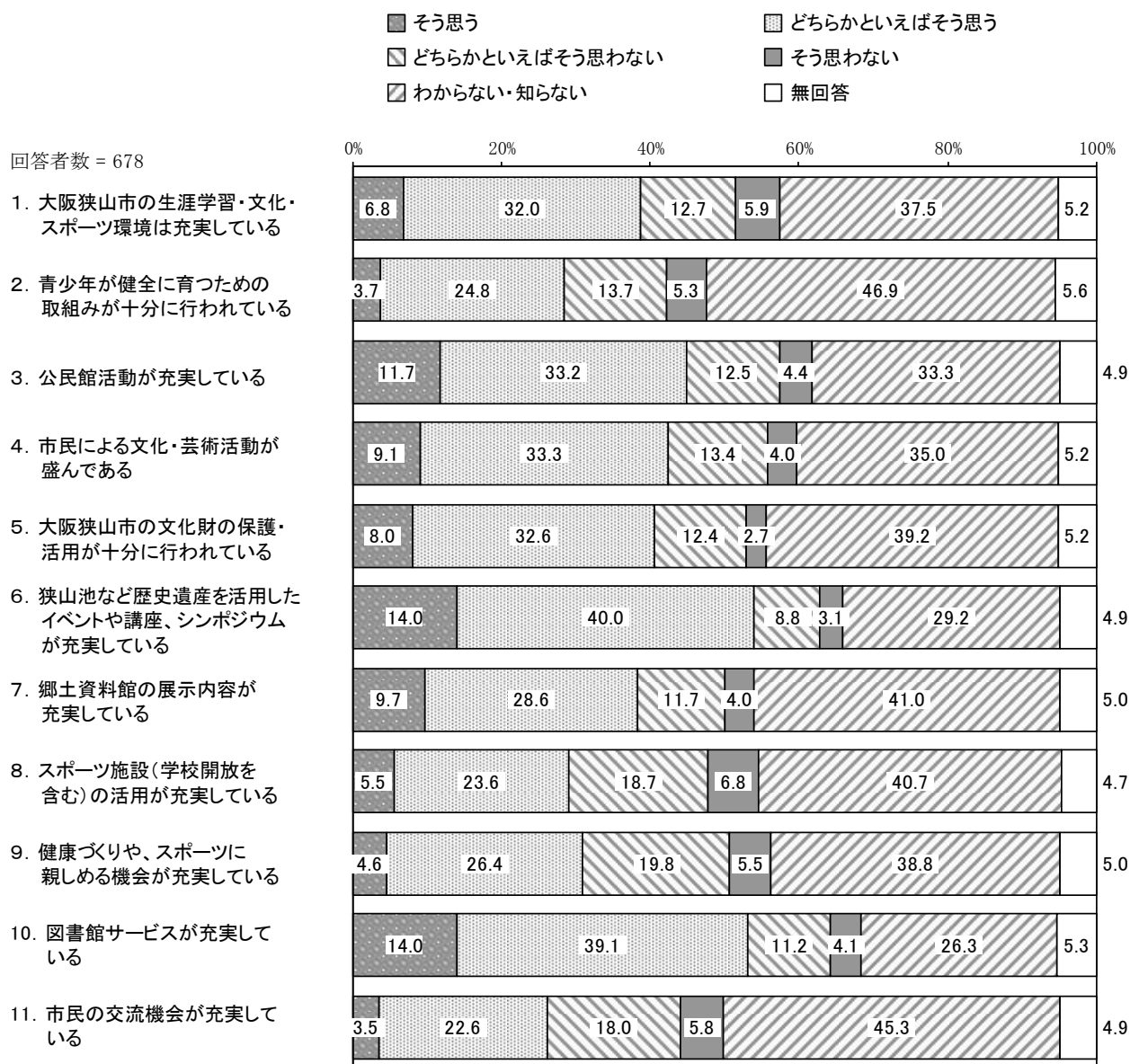
区分	有効回答数 (件)	仕事や就職	資格の取得	日常生活や地域での活動（ ども会、ボランティア活動等）	他の人の学習やスポーツ、文化 活動などの手助けをしたり、指 導したりすること	自分の人生をより豊かにし、生 活に張りを与えること	健康保持、 体力増進	子育て・ 育児や介護	特にな い	その他	無回 答
16 歳～19 歳	8	37.5	—	25.0	12.5	75.0	25.0	12.5	—	—	—
20 歳～29 歳	35	62.9	34.3	20.0	17.1	48.6	31.4	25.7	2.9	—	5.7
30 歳～39 歳	57	42.1	24.6	15.8	8.8	66.7	49.1	33.3	—	3.5	1.8
40 歳～49 歳	85	24.7	20.0	22.4	10.6	69.4	47.1	24.7	2.4	—	4.7
50 歳～59 歳	81	9.9	13.6	16.0	9.9	63.0	42.0	6.2	2.5	—	7.4
60 歳～69 歳	96	2.1	3.1	24.0	15.6	64.6	57.3	2.1	2.1	—	5.2
70 歳以上	103	4.9	4.9	22.3	9.7	68.9	60.2	1.9	4.9	—	8.7

問 26 あなたは、大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどにおける現在の取組みについて、どのように思いますか。（単数回答）

『6. 狭山池など歴史遺産を活用したイベントや講座、シンポジウムが充実している』、『10. 図書館サービスが充実している』で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、5割を超えています。一方、『8. スポーツ施設（学校開放を含む）の活用が充実している』、『9. 健康づくりや、スポーツに親しめる機会が充実している』で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、2割台半ばとなっています。

平成 25 年度調査と比較すると、『1. 大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツ環境は充実している』で“そう思う”の割合、“そう思わない”の割合ともに増加しています。また、『2. 青少年が健全に育つための取組みが十分に行われている』で“そう思わない”の割合が増加しています。

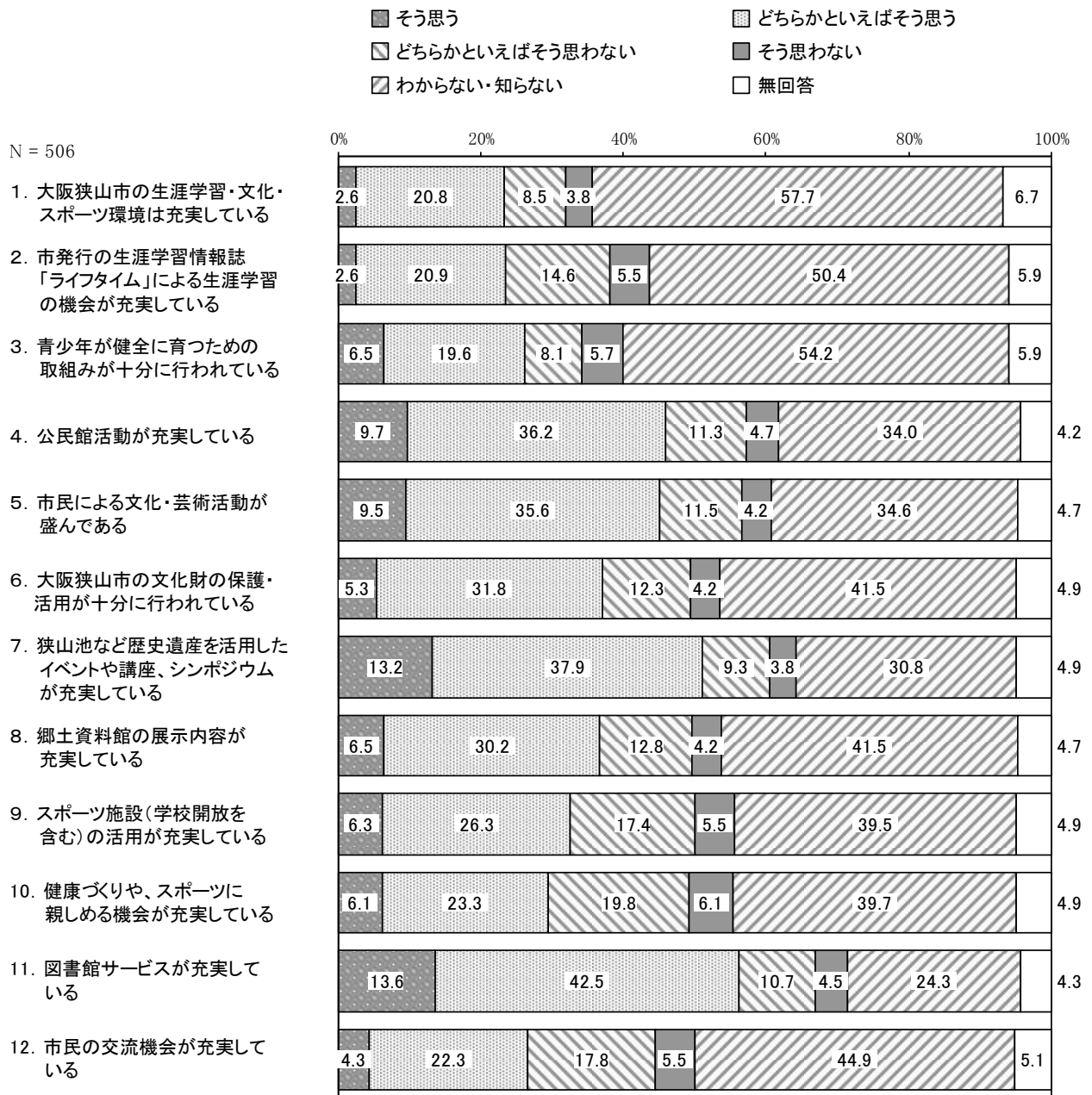
【平成 31 年度調査】



※平成 25 年度調査の『市発行の生涯学習情報誌「ライフタイム」による生涯学習の機会が充実している』の項目は、平成 31 年度では調査していません。

【平成 25 年度調査】

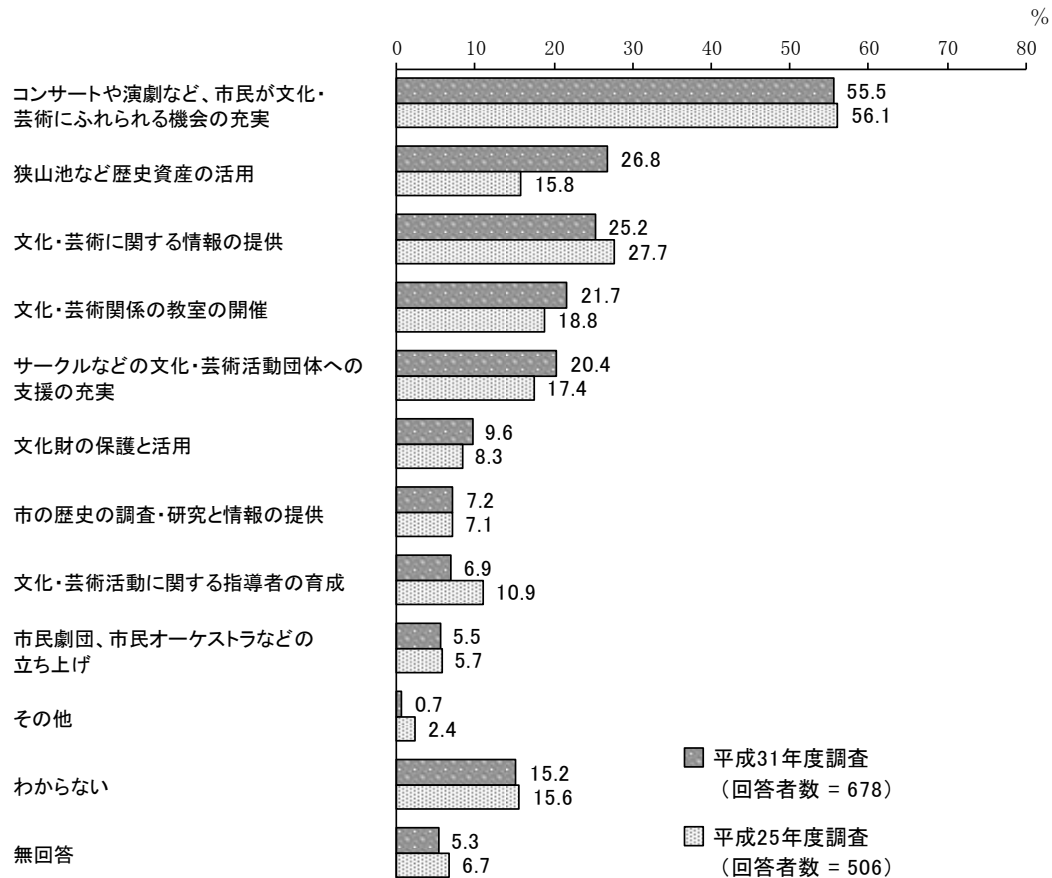
N = 506



問 27 あなたは、大阪狭山市の文化・芸術活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数回答）

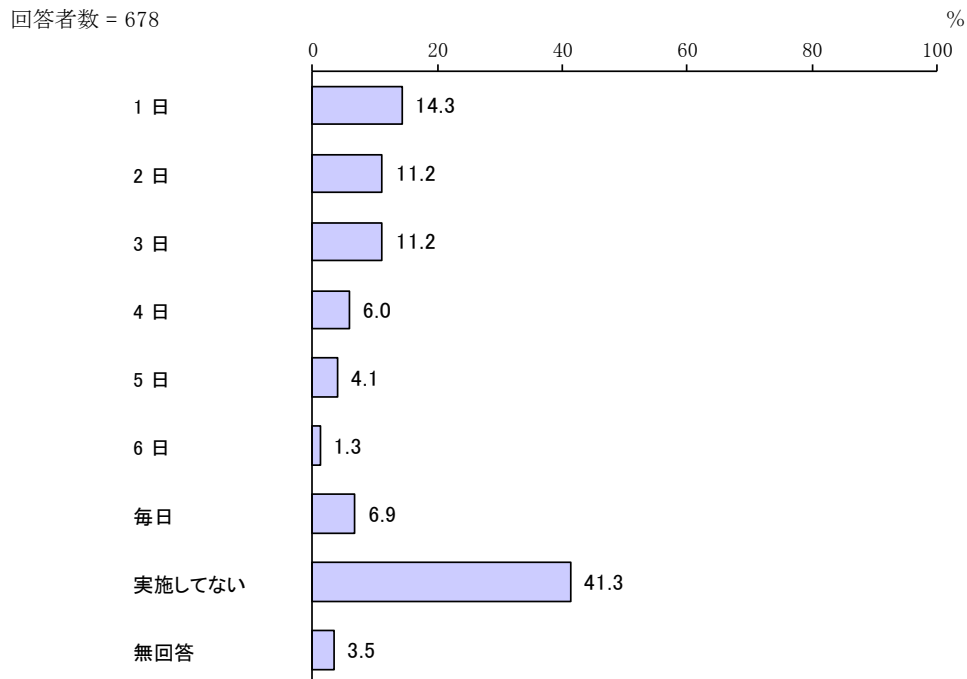
「コンサートや演劇など、市民が文化・芸術にふれられる機会の充実」の割合が55.5%と最も高く、次いで「狭山池など歴史資産の活用」の割合が26.8%、「文化・芸術に関する情報の提供」の割合が25.2%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「狭山池など歴史資産の活用」の割合が増加しています。



問 28 **新規** あなたは、1 週間にどれぐらいスポーツ（ウォーキングから競技スポーツすべてを含みます）を実施されていますか。（単数回答）

「実施してない」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「1 日」の割合が 14.3%、「2 日」「3 日」の割合が 11.2%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30 歳～39 歳で「実施してない」の割合が高く、6 割台半ばとなっています。また、70 歳以上で「3 日」の割合が高く、約 2 割となっています。

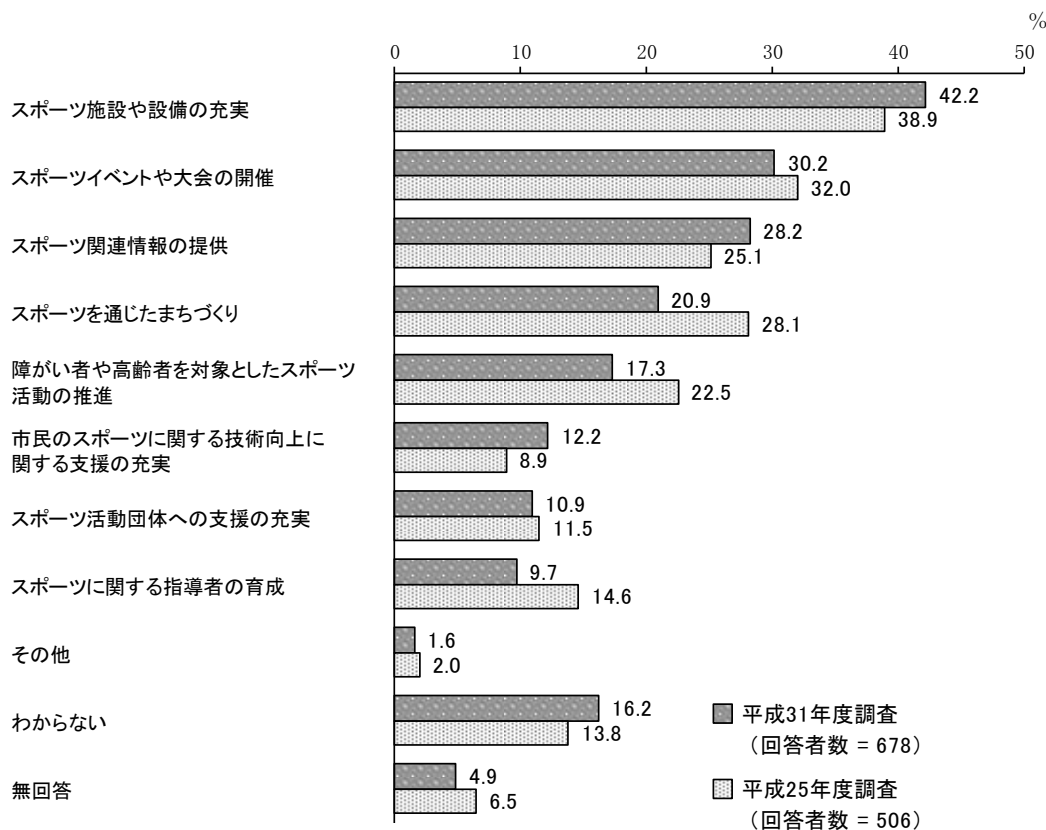
単位：%

区分	有効回答数 (件)	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	毎日	実施してない	無回答
16 歳～19 歳	16	6.3	12.5	12.5	12.5	—	12.5	12.5	31.3	—
20 歳～29 歳	47	23.4	10.6	2.1	2.1	—	—	4.3	57.4	—
30 歳～39 歳	78	7.7	3.8	3.8	5.1	6.4	—	5.1	66.7	1.3
40 歳～49 歳	121	20.7	6.6	5.0	2.5	1.7	—	5.0	57.9	0.8
50 歳～59 歳	98	21.4	12.2	8.2	3.1	5.1	1.0	1.0	43.9	4.1
60 歳～69 歳	148	12.2	16.2	15.5	7.4	4.7	0.7	8.1	32.4	2.7
70 歳以上	166	9.0	13.3	19.3	9.6	5.4	3.0	12.0	19.9	8.4

問 29 あなたは、大阪狭山市のスポーツ活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数回答）

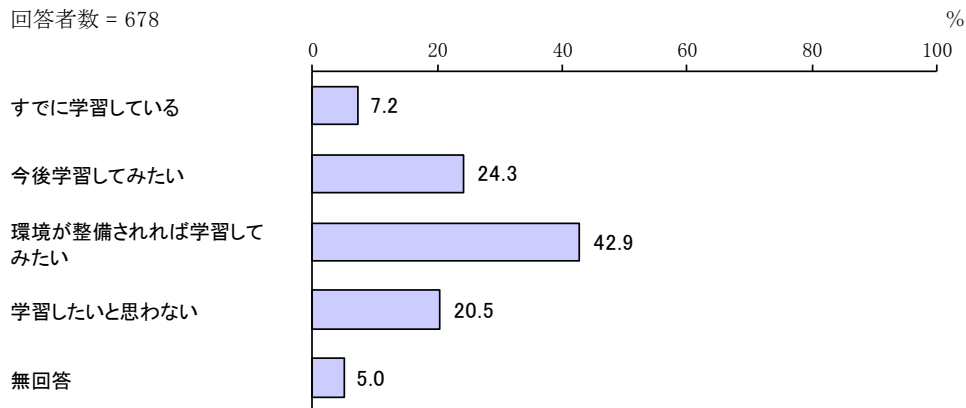
「スポーツ施設や設備の充実」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「スポーツイベントや大会の開催」の割合が 30.2%、「スポーツ関連情報の提供」の割合が 28.2%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「スポーツを通じたまちづくり」「障がい者や高齢者を対象としたスポーツ活動の推進」の割合が減少しています。



問 30 **新規** 近年、「人生 100 年時代」と言われている中で、リカレント教育（社会人になっても生涯にわたって学んでいくこと）や社会人の学び直しが注目されていますが、あなたは今後、教育機関等（大学・公民館等）で学習したいと思いますか。（単数回答）

「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「今後学習してみたい」の割合が 24.3%、「学習したいと思わない」の割合が 20.5%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、16 歳～19 歳で「今後学習してみたい」の割合が高く、約 4 割となっています。また、40 歳～49 歳で「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が高く、5 割台半ばとなっています。

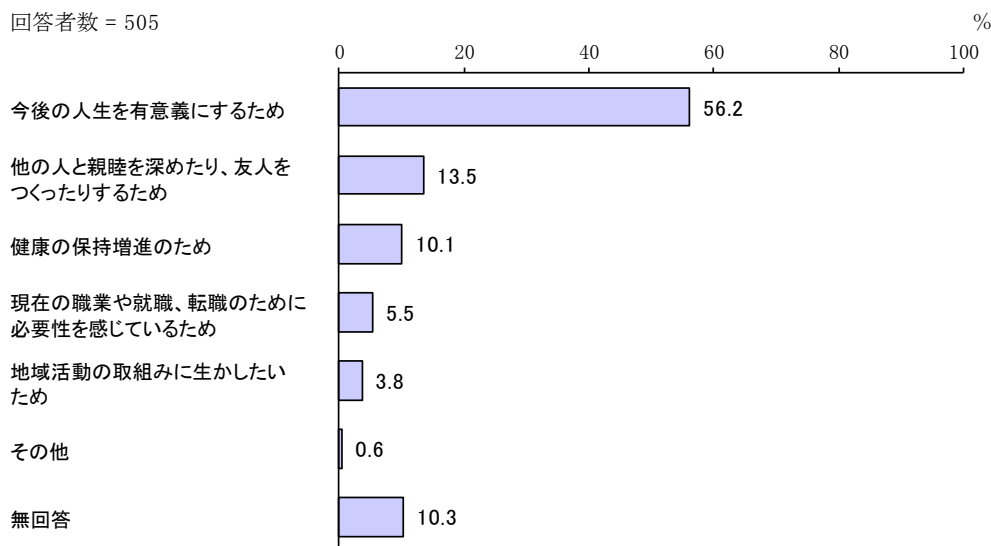
単位：%

区分	有効回答数 (件)	すでに学習している	今後学習してみたい	環境が整備されれば 学習してみたい	学習したいと思わない	無回答
16 歳～19 歳	16	12.5	43.8	18.8	25.0	—
20 歳～29 歳	47	6.4	27.7	51.1	14.9	—
30 歳～39 歳	78	7.7	28.2	43.6	19.2	1.3
40 歳～49 歳	121	2.5	23.1	54.5	19.0	0.8
50 歳～59 歳	98	4.1	30.6	46.9	15.3	3.1
60 歳～69 歳	148	4.7	23.6	43.9	23.0	4.7
70 歳以上	166	14.5	17.5	31.3	23.5	13.3

問 30 で「1. すでに学習している」「2. 今後学習してみたい」「3. 環境が整備されれば学習してみたい」と回答した方だけにお聞きします。

問 30－（１） **新規** そう思う理由をお答えください。（単数回答）

「今後の人生を有意義にするため」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「他の人と親睦を深めたり、友人をつくったりするため」の割合が 13.5%、「健康の保持増進のため」の割合が 10.1%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、16 歳～19 歳で「他の人と親睦を深めたり、友人をつくったりするため」の割合が高く、2 割台半ばとなっています。また、50 歳～59 歳で「今後の人生を有意義にするため」の割合が高く、6 割台半ばとなっています。

単位：％

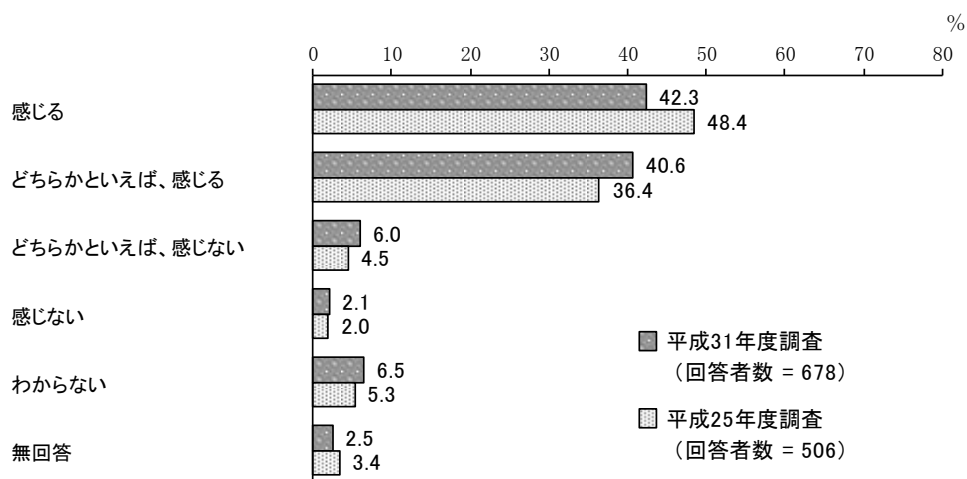
区分	有効回答数 (件)	今後の人生を有意義にするため	現在の職業や就職、転職のために必要性を感じているため	他の人と親睦を深めたり、友人をつくったりするため	地域活動の取組みに生かしたいため	健康の保持増進のため	その他	無回答
16 歳～19 歳	12	41.7	16.7	25.0	—	—	—	16.7
20 歳～29 歳	40	45.0	15.0	12.5	—	10.0	—	17.5
30 歳～39 歳	62	62.9	14.5	6.5	1.6	3.2	—	11.3
40 歳～49 歳	97	57.7	4.1	17.5	5.2	6.2	—	9.3
50 歳～59 歳	80	65.0	6.3	11.3	2.5	6.3	1.3	7.5
60 歳～69 歳	107	58.9	—	11.2	4.7	12.1	0.9	12.1
70 歳以上	105	46.7	1.9	17.1	5.7	20.0	1.0	7.6

（５）大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて

問 31 あなたは、大阪狭山市に愛着を感じておられますか。（単数回答）

「感じる」と「どちらかといえば、感じる」をあわせた“愛着を感じる”の割合が 82.9%、「どちらかといえば、感じない」と「感じない」をあわせた“愛着を感じない”の割合が 8.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「感じる」の割合が減少しています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、年代が高くなるにつれ“愛着を感じる”の割合が高くなる傾向がみられ、60 歳以上で約 9 割となっています。

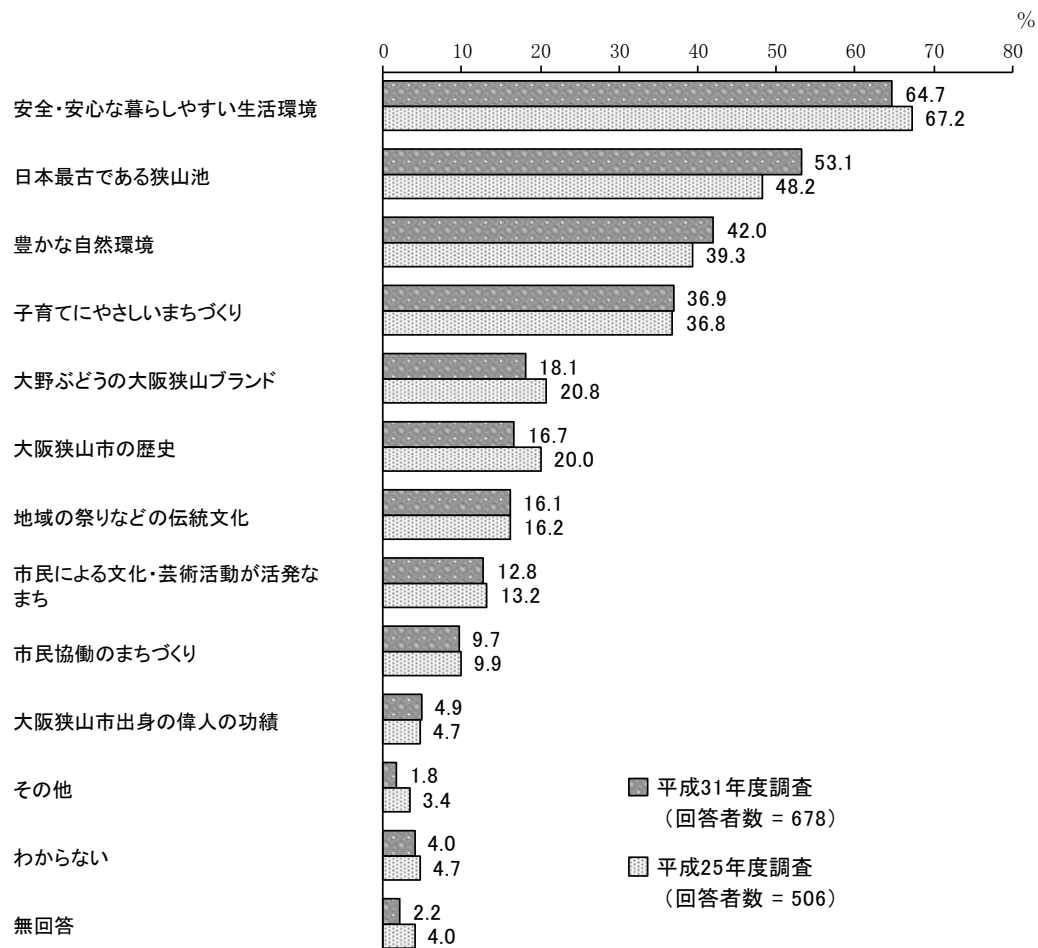
単位：％

区分	有効回答数 (件)	感じる	どちらかといえば、 感じる	どちらかといえば、 感じない	感じない	わからない	無回答
16 歳～19 歳	16	37.5	37.5	12.5	—	12.5	—
20 歳～29 歳	47	34.0	44.7	8.5	2.1	8.5	2.1
30 歳～39 歳	78	37.2	41.0	6.4	2.6	12.8	—
40 歳～49 歳	121	30.6	47.1	8.3	4.1	9.1	0.8
50 歳～59 歳	98	36.7	45.9	10.2	—	4.1	3.1
60 歳～69 歳	148	46.6	40.5	4.1	0.7	5.4	2.7
70 歳以上	166	55.4	31.9	2.4	2.4	3.0	4.8

問 32 大阪狭山市の特長や誇りとして、あなたが大事にしていきたいと思うことはどのようなことですか。（複数回答）

「安全・安心な暮らしやすい生活環境」の割合が 64.7%と最も高く、次いで「日本最古である狭山池」の割合が 53.1%、「豊かな自然環境」の割合が 42.0%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30歳～49歳、60歳～69歳で「安全・安心な暮らしやすい生活環境」の割合が高くなっています。また、30歳～39歳で「子育てにやさしいまちづくり」の割合が、50歳～69歳で「日本最古である狭山池」の割合が高くなっています。

単位：％

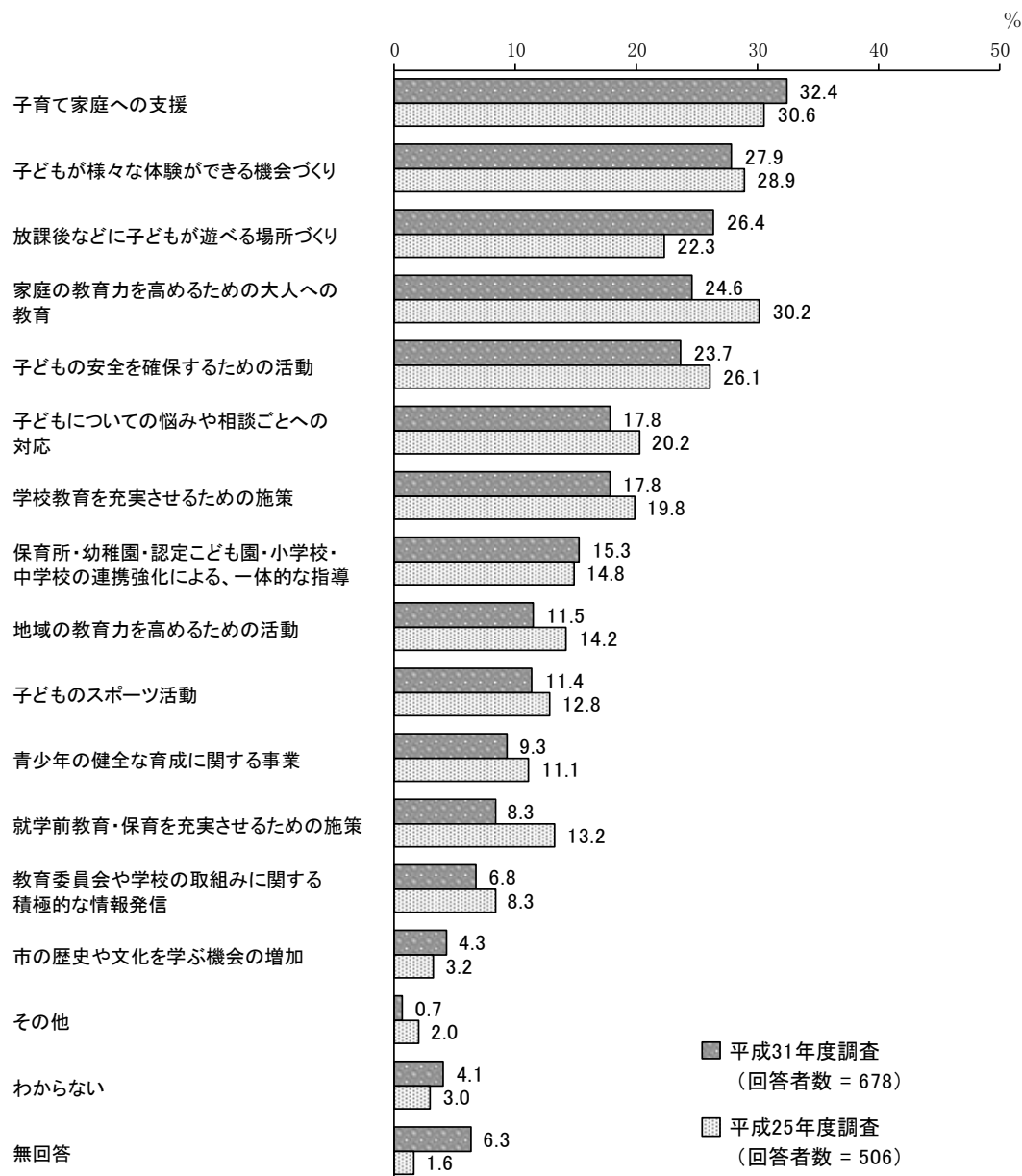
区分	有効回答数 (件)	大阪狭山市の歴史	大阪狭山市出身の 偉人の功績	日本最古である狭 山池	地域の祭りなどの 伝統文化	豊かな自然環境	狭山ブランド 大野ぶどうの大阪	安全・安心な暮らし やすい生活環境	市民による文化・芸 術活動が活発なま	市民協働のまちづ くり	子育てにやさしい まちづくり	その他	わからない	無回答
16歳～19歳	16	12.5	12.5	56.3	25.0	18.8	31.3	37.5	—	—	25.0	—	6.3	—
20歳～29歳	47	6.4	2.1	46.8	17.0	29.8	14.9	55.3	4.3	2.1	34.0	2.1	14.9	—
30歳～39歳	78	9.0	3.8	51.3	15.4	47.4	19.2	70.5	10.3	5.1	51.3	1.3	3.8	1.3
40歳～49歳	121	11.6	5.8	52.1	15.7	26.4	18.2	70.2	9.1	4.1	46.3	2.5	4.1	—
50歳～59歳	98	11.2	3.1	58.2	9.2	43.9	19.4	61.2	6.1	9.2	37.8	3.1	4.1	3.1
60歳～69歳	148	21.6	4.7	58.8	14.2	44.6	17.6	70.9	18.9	12.8	30.4	0.7	2.0	2.0
70歳以上	166	26.5	6.0	48.2	21.1	54.2	17.5	60.2	19.3	16.9	30.7	1.2	2.4	4.8

(6) 教育に関する施策全般について

問 33 あなたは、大阪狭山市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(複数回答)

「子育て家庭への支援」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「子どもが様々な体験ができる機会づくり」の割合が 27.9%、「放課後などに子どもが遊べる場所づくり」の割合が 26.4%となっています。

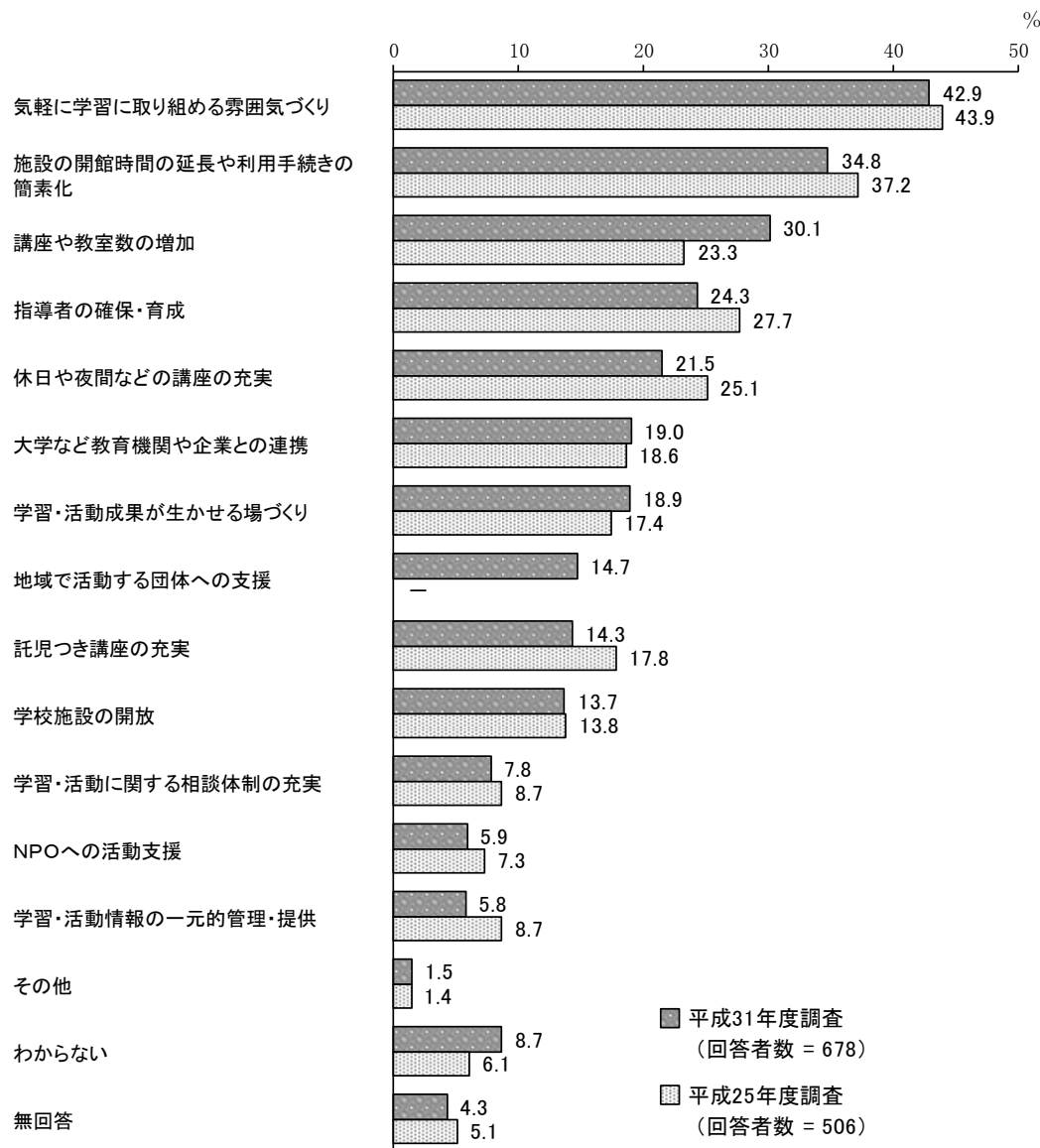
平成 25 年度調査と比較すると、「家庭の教育力を高めるための大人への教育」の割合が減少しています。



問 34 あなたは、今後、生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(複数回答)

「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」の割合が 42.9%と最も高く、次いで「施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化」の割合が 34.8%、「講座や教室数の増加」の割合が 30.1%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「講座や教室数の増加」が増加しています。



※平成 25 年度調査には「地域で活動する団体への支援」の選択肢はありませんでした。

2 教職員調査

(1) 回答者属性

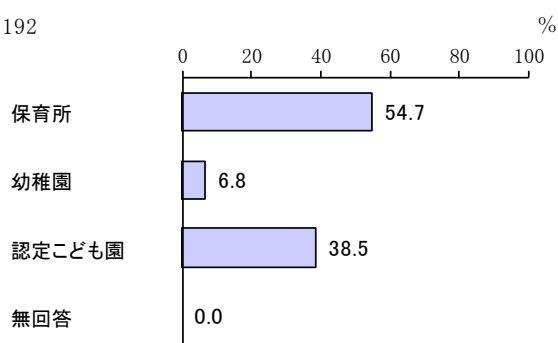
問1 在籍はどちらですか。(単数回答)

保育所・幼稚園・認定こども園では、「保育所」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「認定こども園」の割合が 38.5%、「幼稚園」の割合が 6.8%となっています。

小学校・中学校では、「小学校」の割合が 70.8%、「中学校」の割合が 29.2%となっています。

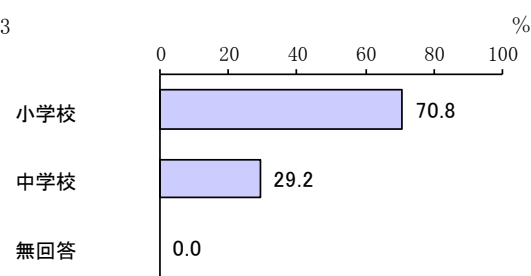
【保育所・幼稚園・認定こども園】

回答者数 = 192



【小学校・中学校】

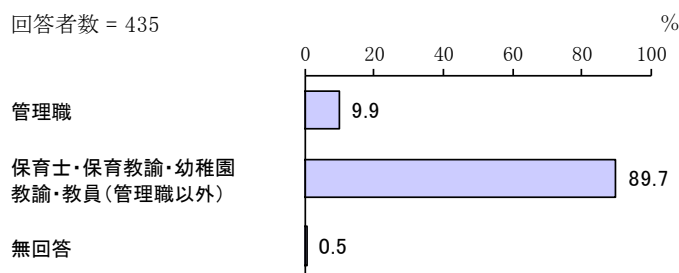
回答者数 = 243



問2 職種を教えてください。(単数回答)

「管理職」の割合が 9.9%、「保育士・保育教諭・幼稚園教諭・教員（管理職以外）」の割合が 89.7%となっています。

回答者数 = 435



【学校種別】

学校種別でみると、大きな差異はみられません。

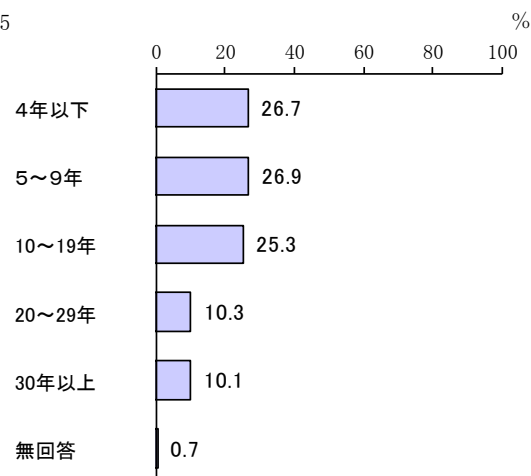
単位：%

区分	有効回答数 (件)	管理職	保育士・保育教諭・幼稚園教諭・教員 (管理職以外)	無回答
保育所・幼稚園・認定こども園	192	12.0	87.0	1.0
小学校	173	8.1	91.9	—
中学校	70	8.6	91.4	—

問3 経験年数を教えてください。(単数回答)

「5～9年」の割合が26.9%と最も高く、次いで「4年以下」の割合が26.7%、「10～19年」の割合が25.3%となっています。

回答者数 = 435



【学校種別】

学校種別でみると、他に比べ、保育所・幼稚園・認定こども園で「4年以下」の割合が、小・中学校で「10～19年」の割合が高く、約3割となっています。また、中学校で「30年以上」の割合が高く、約2割となっています。

単位：%

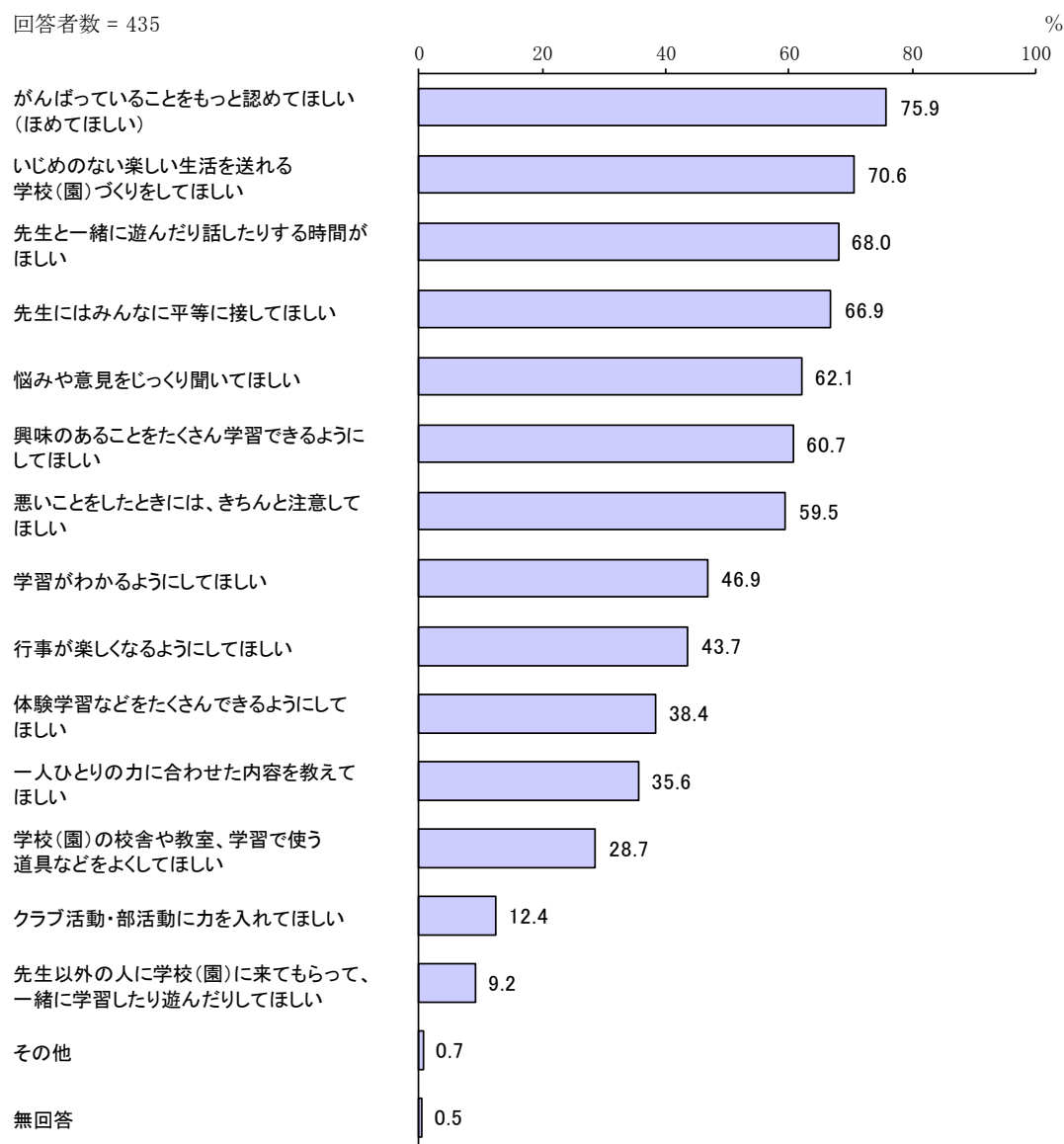
区分	有効回答数 (件)	4 年 以 下	5 ～ 9 年	10 ～ 19 年	20 ～ 29 年	30 年 以 上	無 回 答
保育所・幼稚園・認定こども園	192	33.9	27.1	18.8	12.5	7.3	0.5
小学校	173	22.5	28.9	29.5	8.7	9.8	0.6
中学校	70	17.1	21.4	32.9	8.6	18.6	1.4

(2) 教育や学習に関する取組みについて

問4 子どもたちが学校や先生に望むことは何だと思いますか。(複数回答)

「がんばっていることをもっと認めてほしい (ほめてほしい)」の割合が 75.9%と最も高く、次いで「いじめのない楽しい生活を送れる学校(園)づくりをしてほしい」の割合が 70.6%、「先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい」の割合が 68.0%となっています。

回答者数 = 435



【学校種別】

学校種別でみると、他に比べ、小学校で「先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい」の割合が高くなっています。また、中学校で「いじめのない楽しい生活を送れる学校（園）づくりをしてほしい」「悩みや意見をじっくり聞いてほしい」「クラブ活動・部活動に力を入れてほしい」の割合が高くなっています。

単位：％

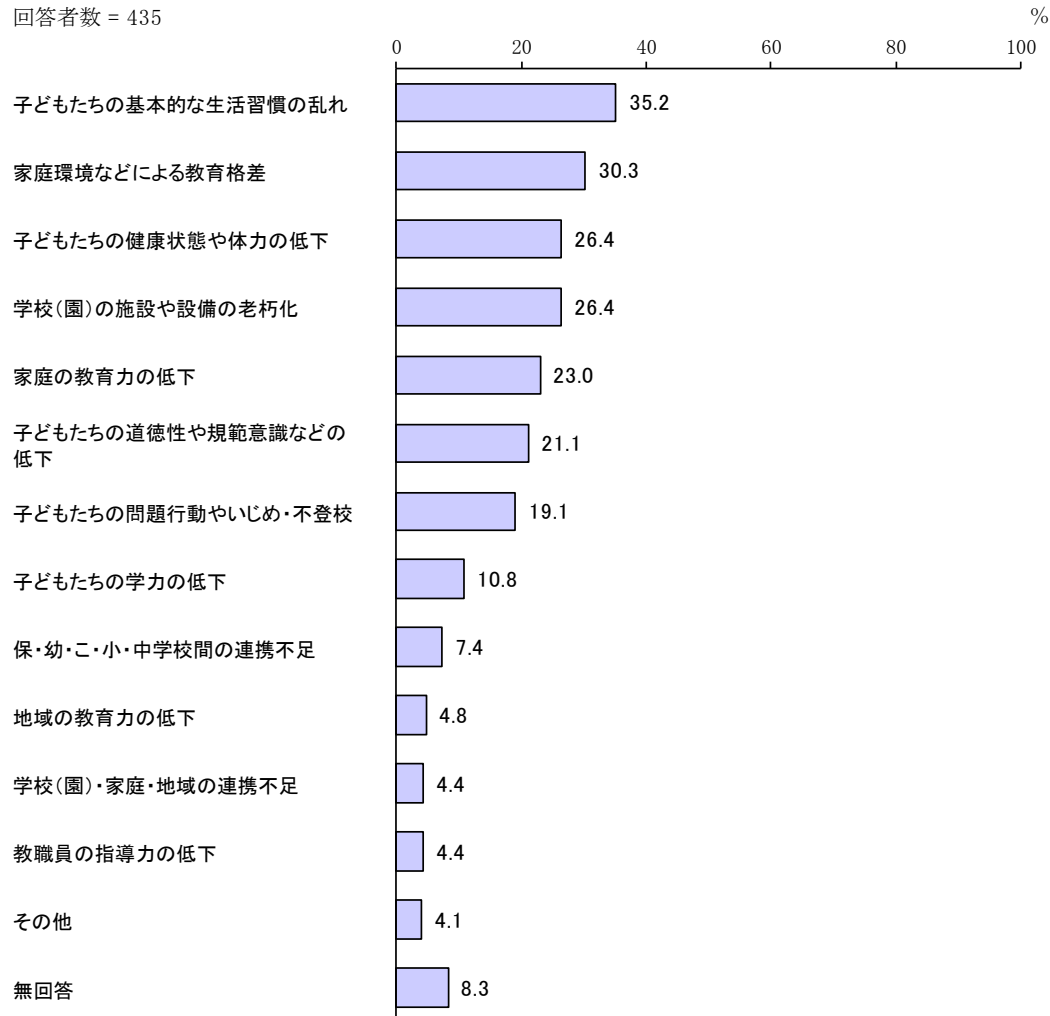
区分	有効回答数 (件)	先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい	体験学習などをたくさんできるようにしてほしい	興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい	いじめのない楽しい生活を送れる学校（園）づくりをしてほしい	悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい	がんばっていることをもっと認めてほしい ほめてほしい	先生にはみんなに平等に接してほしい	一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
保育所・幼稚園・認定こども園	192	67.2	36.5	64.6	47.9	59.9	64.1	65.1	35.4
小学校	173	77.5	42.2	60.7	86.1	55.5	85.0	63.6	37.6
中学校	70	47.1	34.3	50.0	94.3	68.6	85.7	80.0	31.4

区分	学習がわかるようにしてほしい	学校（園）の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい	悩みや意見をじっくり聞いてほしい	クラブ活動・部活動に力を入れてほしい	行事が楽しくなるようにしてほしい	先生以外の人に学校（園）に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい	その他	無回答
保育所・幼稚園・認定こども園	9.4	20.3	52.1		40.1	7.3	0.5	0.5
小学校	76.3	35.8	67.1	14.5	45.1	9.8	0.6	0.6
中学校	77.1	34.3	77.1	41.4	50.0	12.9	1.4	—

問5 大阪狭山市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。（複数回答）

「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が35.2%と最も高く、次いで「家庭環境などによる教育格差」の割合が30.3%、「子どもたちの健康状態や体力の低下」の割合が26.4%となっています。

回答者数 = 435



【学校種別】

学校種別でみると、他に比べ、保育所・幼稚園・認定こども園で「子どもたちの健康状態や体力の低下」「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」の割合が高くなっています。また、中学校で「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」「家庭環境などによる教育格差」の割合が高くなっています。

単位：％

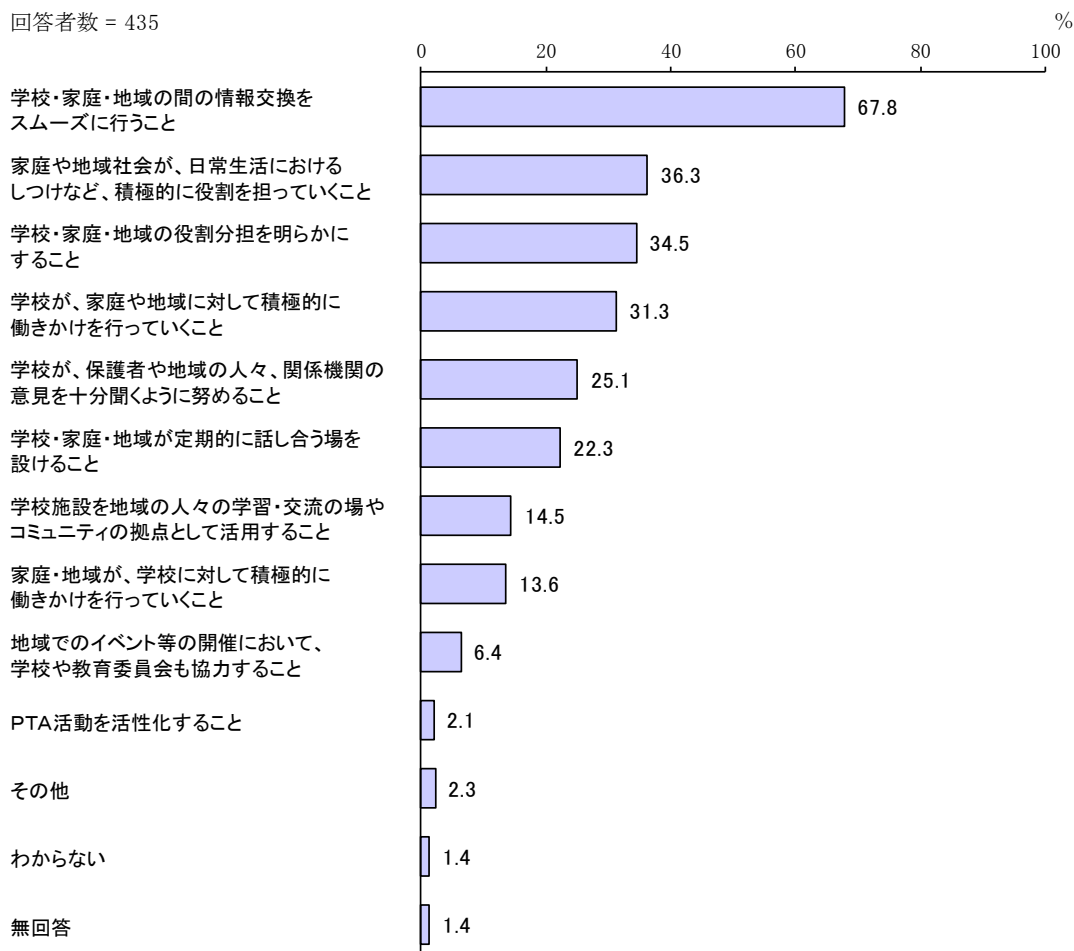
区分	有効回答数 (件)	子どもたちの学力の低下	子どもたちの道徳性や規範意識などの低下	子どもたちの健康状態や体力の低下	子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ	子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	家庭環境などによる教育格差	家庭の教育力の低下
保育所・幼稚園・認定こども園	192	5.7	20.3	30.7	46.4	9.9	22.4	19.8
小学校	173	16.8	23.7	24.9	27.2	20.2	31.2	26.0
中学校	70	10.0	17.1	18.6	24.3	41.4	50.0	24.3

区分	地域の教育力の低下	学校（園）・家庭・地域の連携不足	保・幼・こ・小・中学校間の連携不足	学校（園）の施設や設備の老朽化	教職員の指導力の低下	その他	無回答
保育所・幼稚園・認定こども園	4.7	6.3	10.9	17.7	4.2	0.5	8.3
小学校	5.2	4.0	4.0	35.8	2.9	6.9	9.2
中学校	4.3	—	5.7	27.1	8.6	7.1	5.7

問6 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（複数回答）

「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が67.8%と最も高く、次いで「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」の割合が36.3%、「学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること」の割合が34.5%となっています。

回答者数 = 435



【学校種別】

学校種別でみると、他に比べ、保育所・幼稚園・認定こども園で「学校・家庭・地域の間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が高くなっています。また、小学校で「学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること」「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」の割合が、中学校で「学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること」の割合が高くなっています。

単位：％

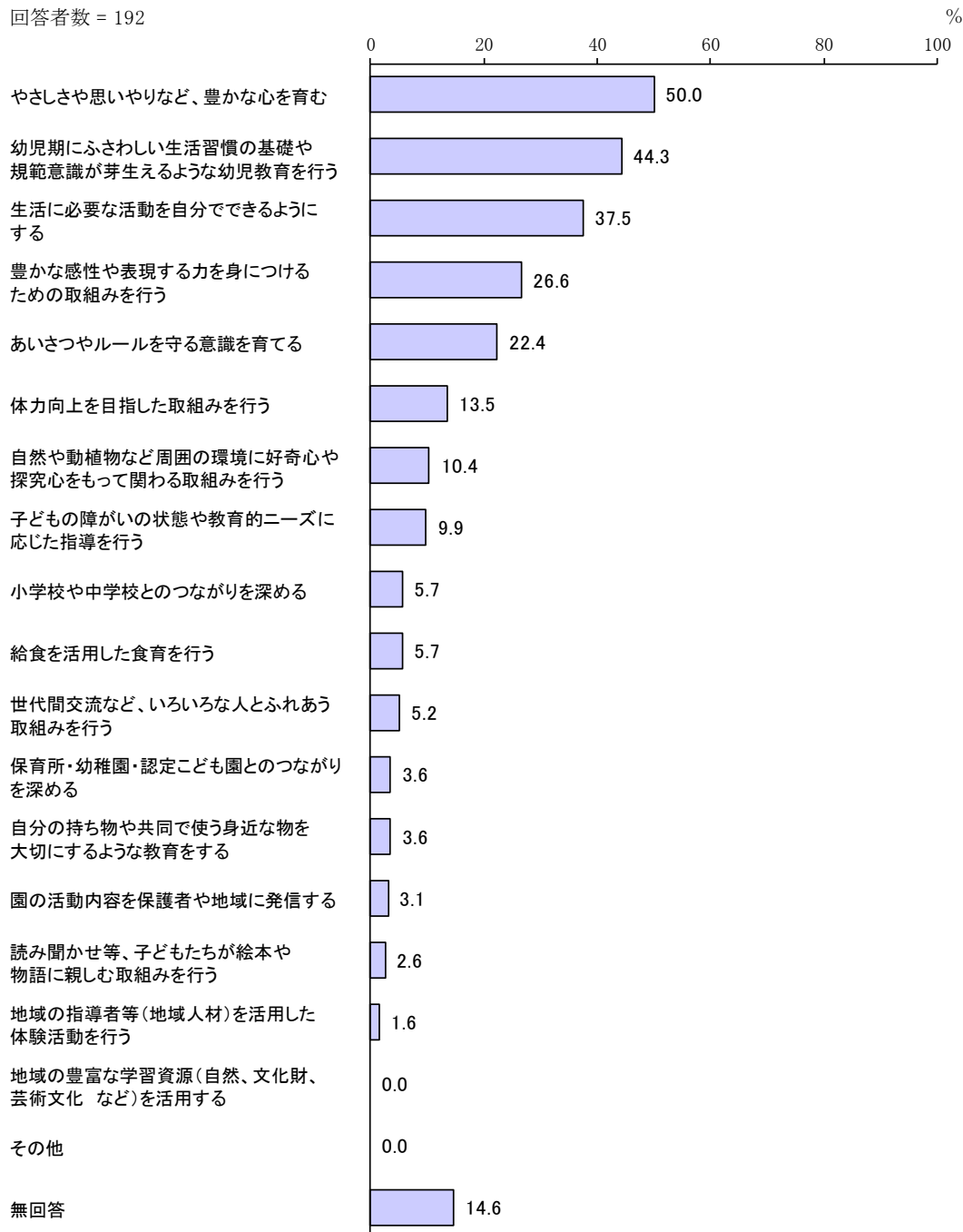
区分	有効回答数 (件)	学校・家庭・地域の役割分 担を明らかにすること	学校・家庭・地域の間の情 報交換をスムーズに行う こと	学校・家庭・地域が定期的 に話し合う場を設けるこ と	学校が、家庭や地域に対し て積極的に働きかけを行 っていくこと	学校が、保護者や地域の 人々、関係機関の意見を十 分聞くように努めること	家庭・地域が、学校に対し て積極的に働きかけを行 っていくこと
保育所・幼稚園・ 認定こども園	192	25.0	72.4	29.2	35.4	26.0	14.6
小学校	173	44.5	63.6	15.6	27.7	20.2	11.6
中学校	70	35.7	65.7	20.0	28.6	34.3	15.7

区分	学校施設を地域の人々の 学習・交流の場やコミュニ ティの拠点として活用す ること	家庭や地域社会が、日常生 活におけるしつけなど、積 極的に役割を担っていく こと	P T A 活動を活性的化する こと	地域でのイベント等の開 催において、学校や教育委 員会も協力すること	その他	わからない	無回答
保育所・幼稚園・ 認定こども園	19.8	24.0	2.1	7.3	0.5	1.6	2.1
小学校	9.8	48.0	1.2	6.4	4.6	1.2	0.6
中学校	11.4	41.4	4.3	4.3	1.4	1.4	1.4

問 7－1 大阪狭山市の就学前教育で、重要だと思うことは何ですか。（複数回答）
（保育所・幼稚園・認定こども園のみ）

「やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む」の割合が50.0%と最も高く、次いで「幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行う」の割合が44.3%、「生活に必要な活動を自分でできるようにする」の割合が37.5%となっています。

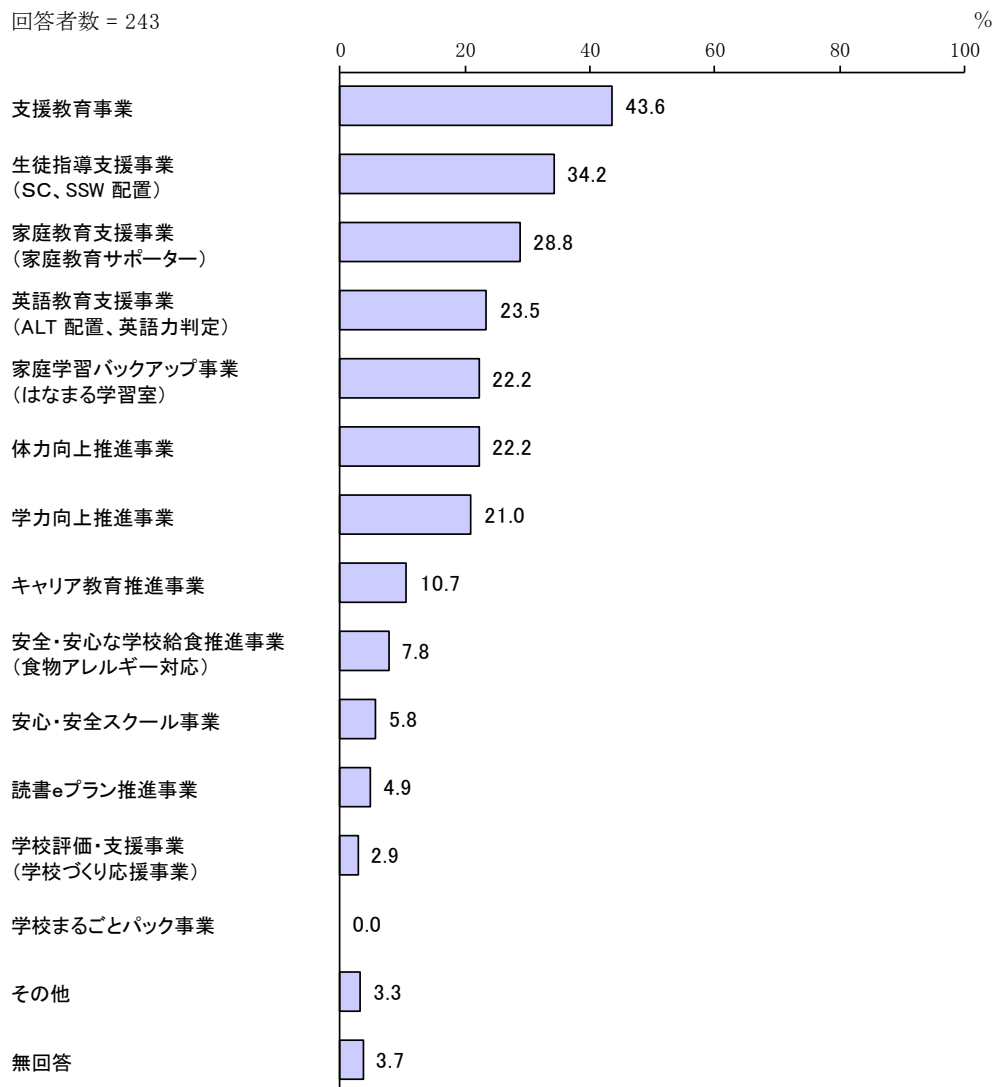
回答者数 = 192



問 7－2 今後、大阪狭山市の学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものは、どれですか。（複数回答）
（小学校・中学校のみ）

「支援教育事業」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「生徒指導支援事業（SC、SSW 配置）」の割合が 34.2%、「家庭教育支援事業（家庭教育サポーター）」の割合が 28.8%となっています。

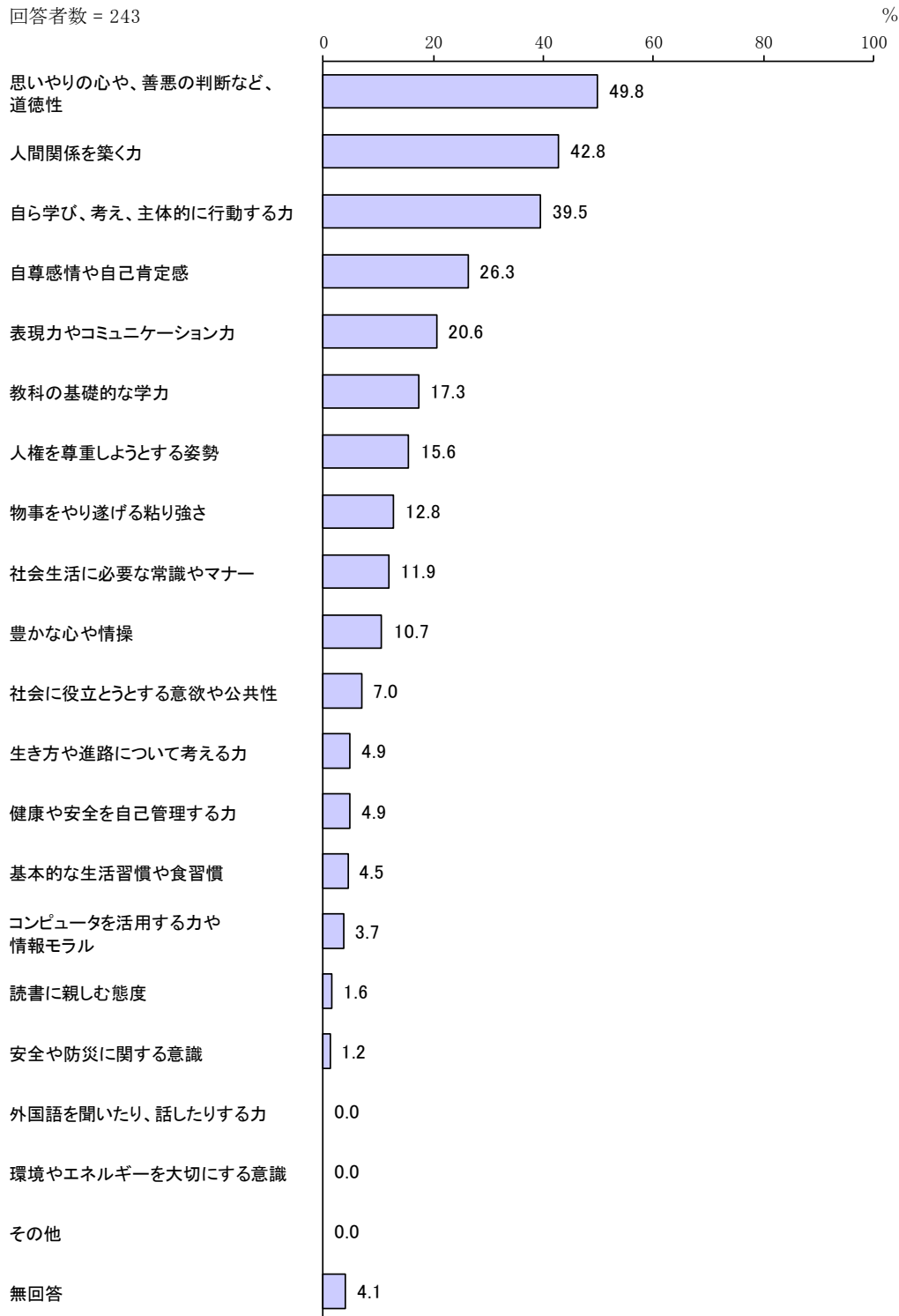
回答者数 = 243



問 8－1 大阪狭山市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは何ですか。（複数回答）
（小学校・中学校のみ）

「思いやりの心や、善悪の判断など、道徳性」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「人間関係を築く力」の割合が 42.8%、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」の割合が 39.5%となっています。

回答者数 = 243



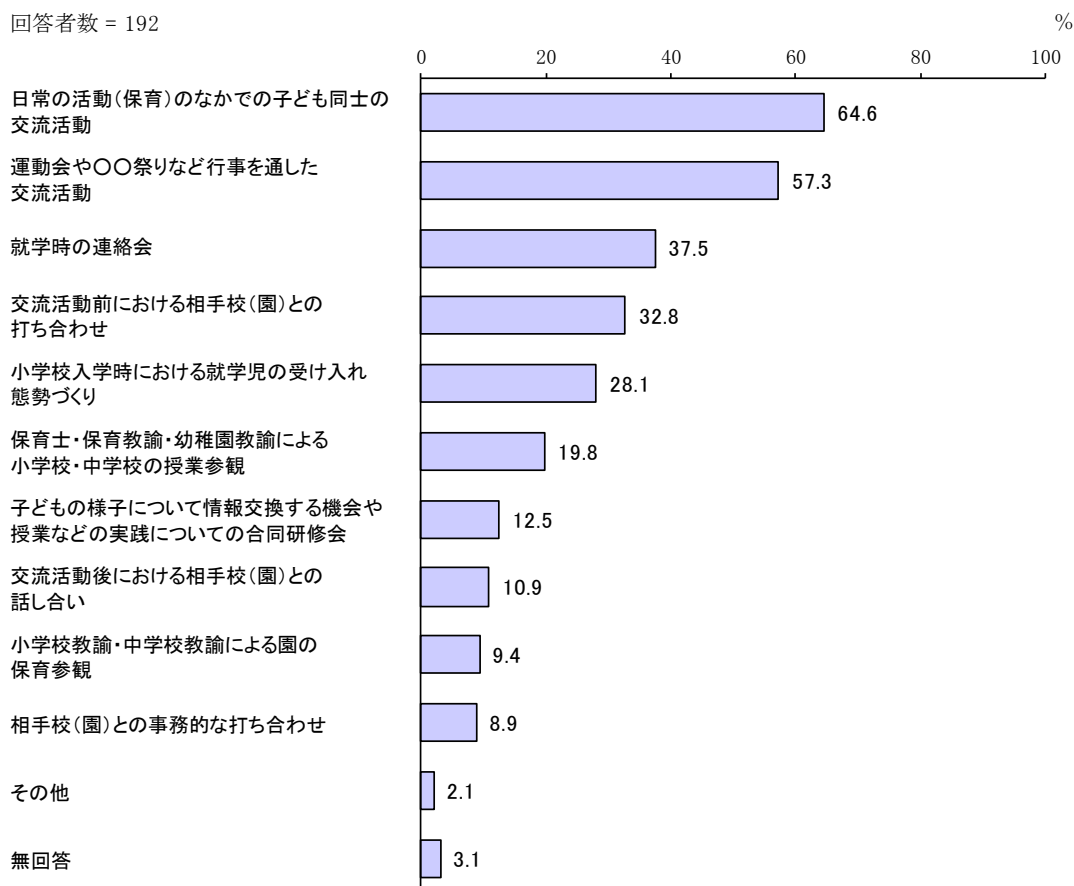
（３）保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携について

問８－２ 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携の取組みとしてどのようなことを行っていますか。（複数回答）

（保育所・幼稚園・認定こども園のみ）

「日常の活動（保育）のなかでの子ども同士の交流活動」の割合が 64.6%と最も高く、次いで「運動会や〇〇祭りなど行事を通じた交流活動」の割合が 57.3%、「就学時の連絡会」の割合が 37.5%となっています。

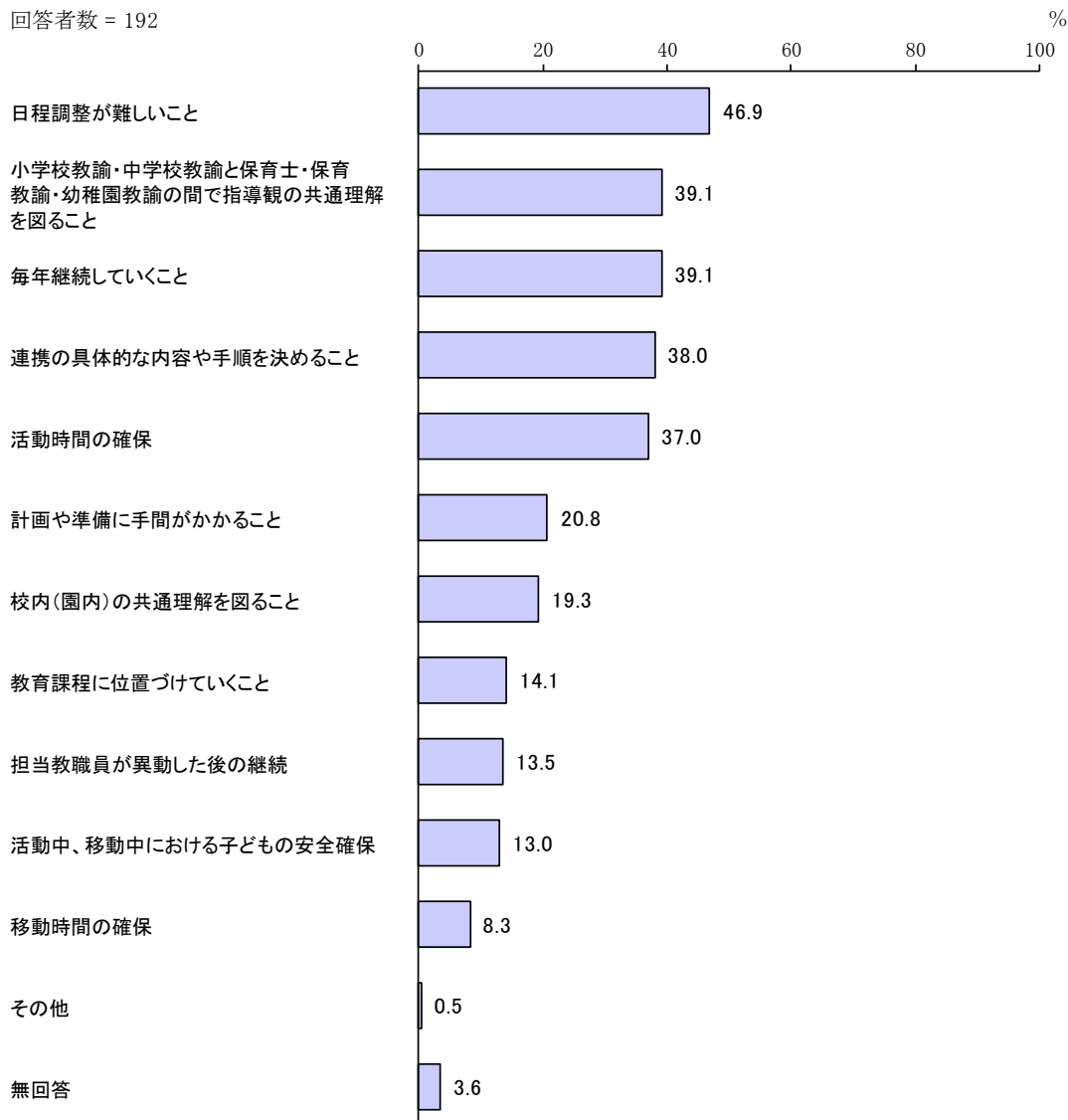
回答者数 = 192



問 9－1 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携を進める際の課題は
何ですか。（複数回答）（保育所・幼稚園・認定こども園のみ）

「日程調整が難しいこと」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「小学校教諭・中学校教諭と保育士・保育教諭・幼稚園教諭の間で指導観の共通理解を図ること」「毎年継続していくこと」の割合が 39.1%となっています。

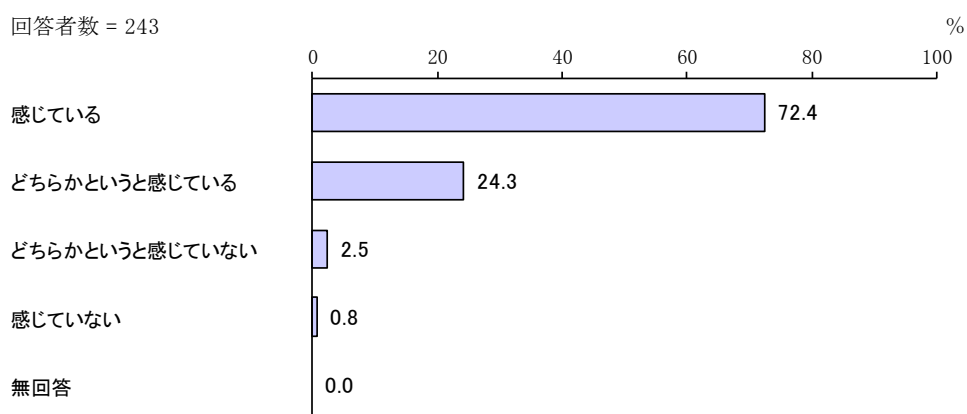
回答者数 = 192



（４）職場環境について

問９－２ あなたは、ご自身の職務について忙しいと感じていますか。（単数回答）
（小学校・中学校のみ）

「感じている」と「どちらかというと感じている」をあわせた“忙しいと感じている”の割合が96.7%、「どちらかというと感じていない」と「感じていない」をあわせた“忙しいと感じていない”の割合が3.3%となっています。

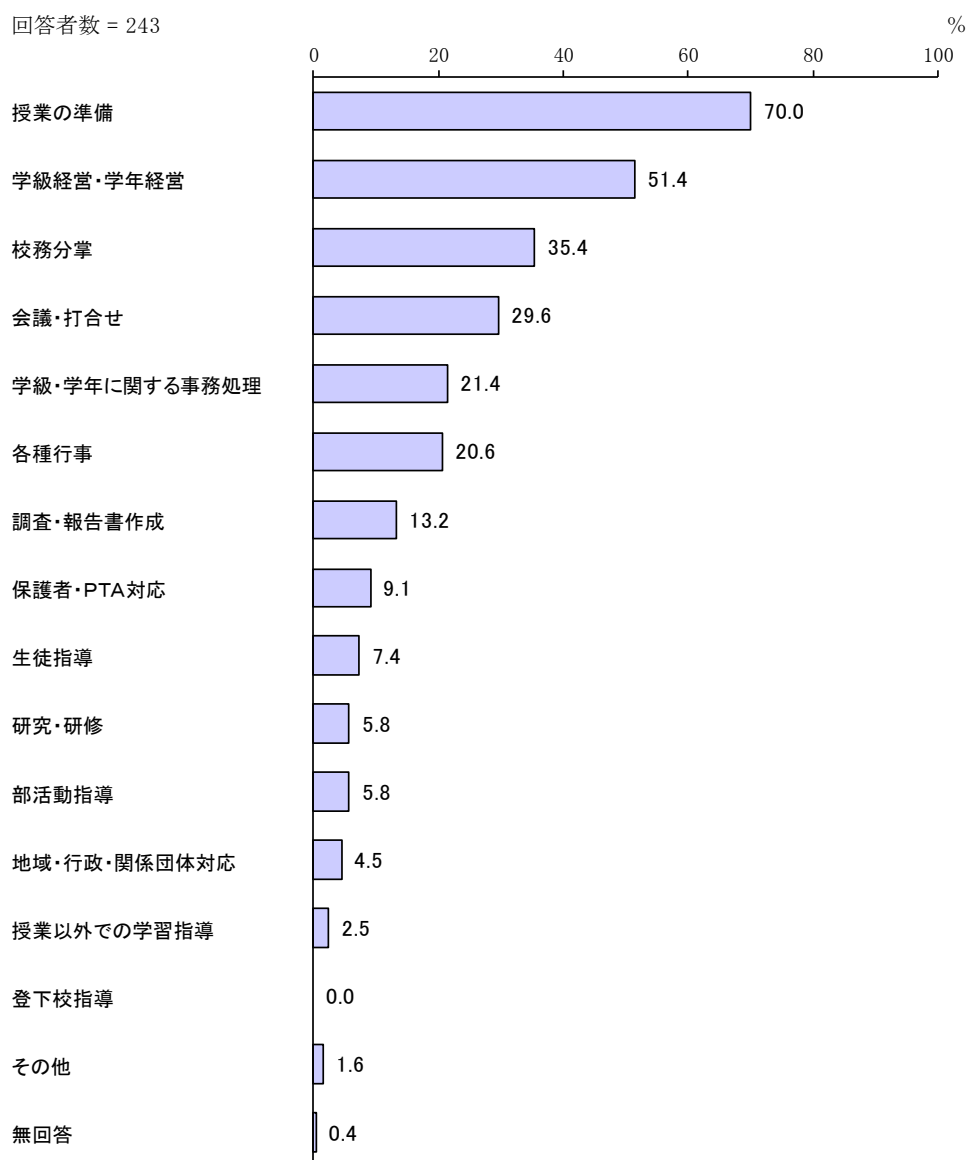


問 10 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。(複数回答)

(小学校・中学校のみ)

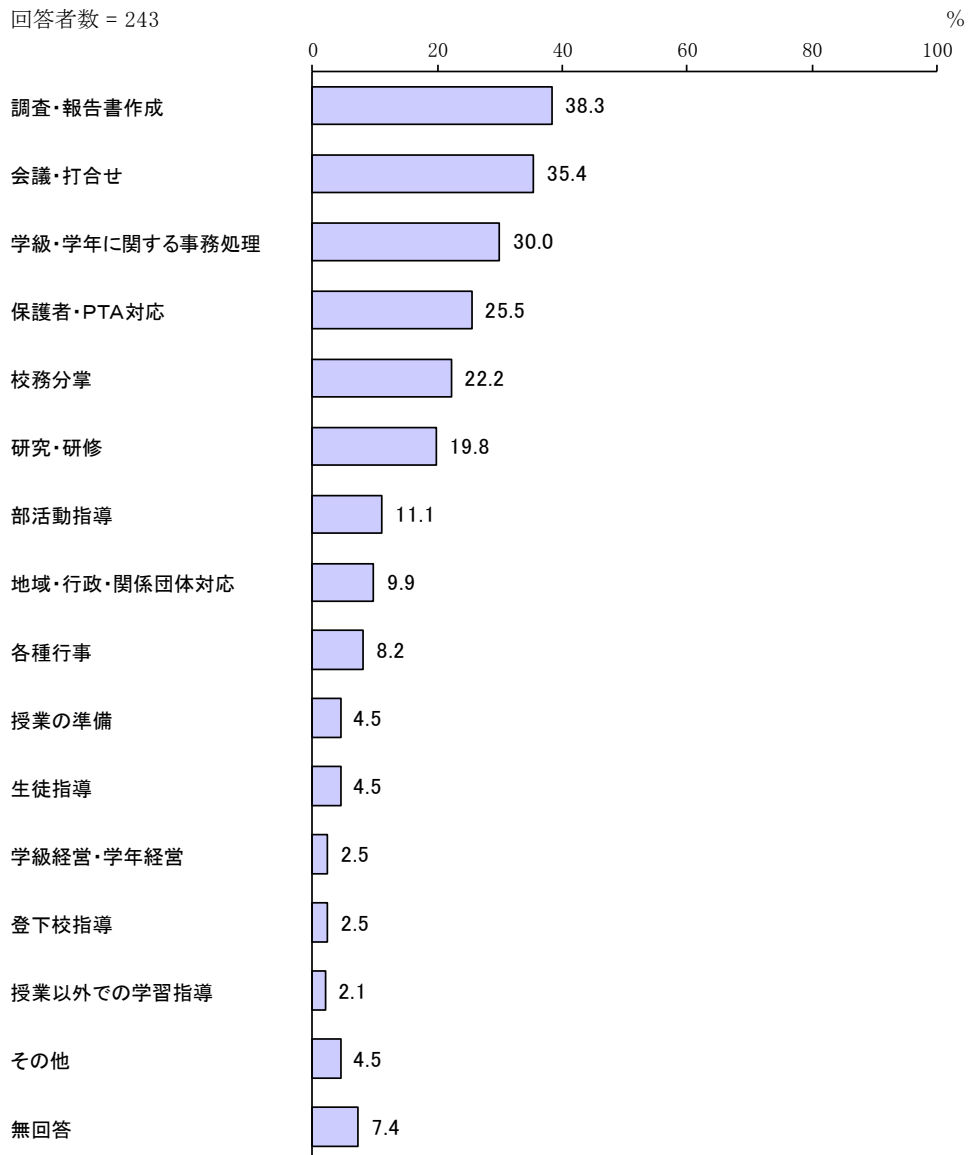
①時間をかけている業務

「授業の準備」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「学級経営・学年経営」の割合が 51.4%、「校務分掌」の割合が 35.4%となっています。



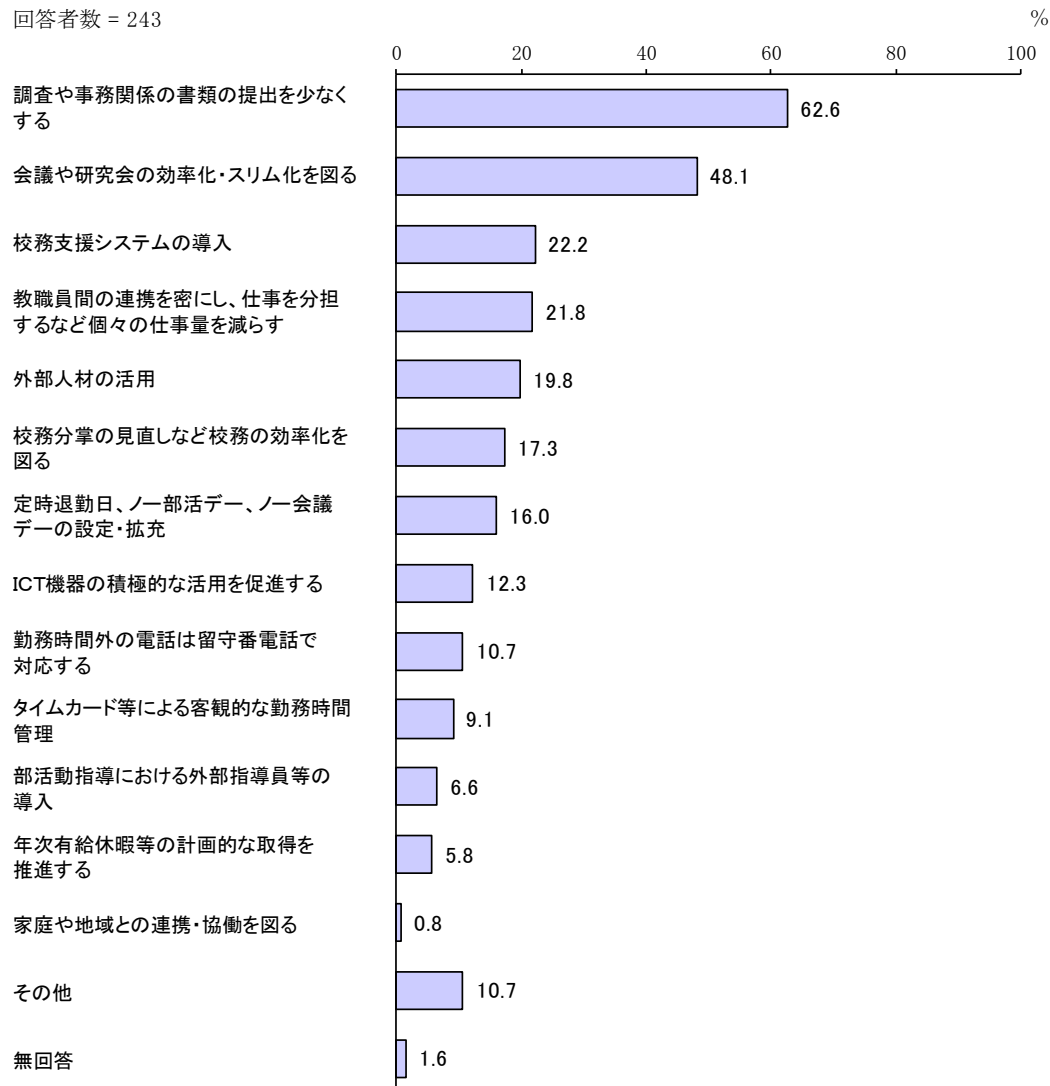
②負担感を感じている業務

「調査・報告書作成」の割合が38.3%と最も高く、次いで「会議・打合せ」の割合が35.4%、「学級・学年に関する事務処理」の割合が30.0%となっています。



問 11 多忙を解消するために必要なことは何だと思いますか。(複数回答)
(小学校・中学校のみ)

「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「会議や研究会の効率化・スリム化を図る」の割合が 48.1%、「校務支援システムの導入」の割合が 22.2%となっています。

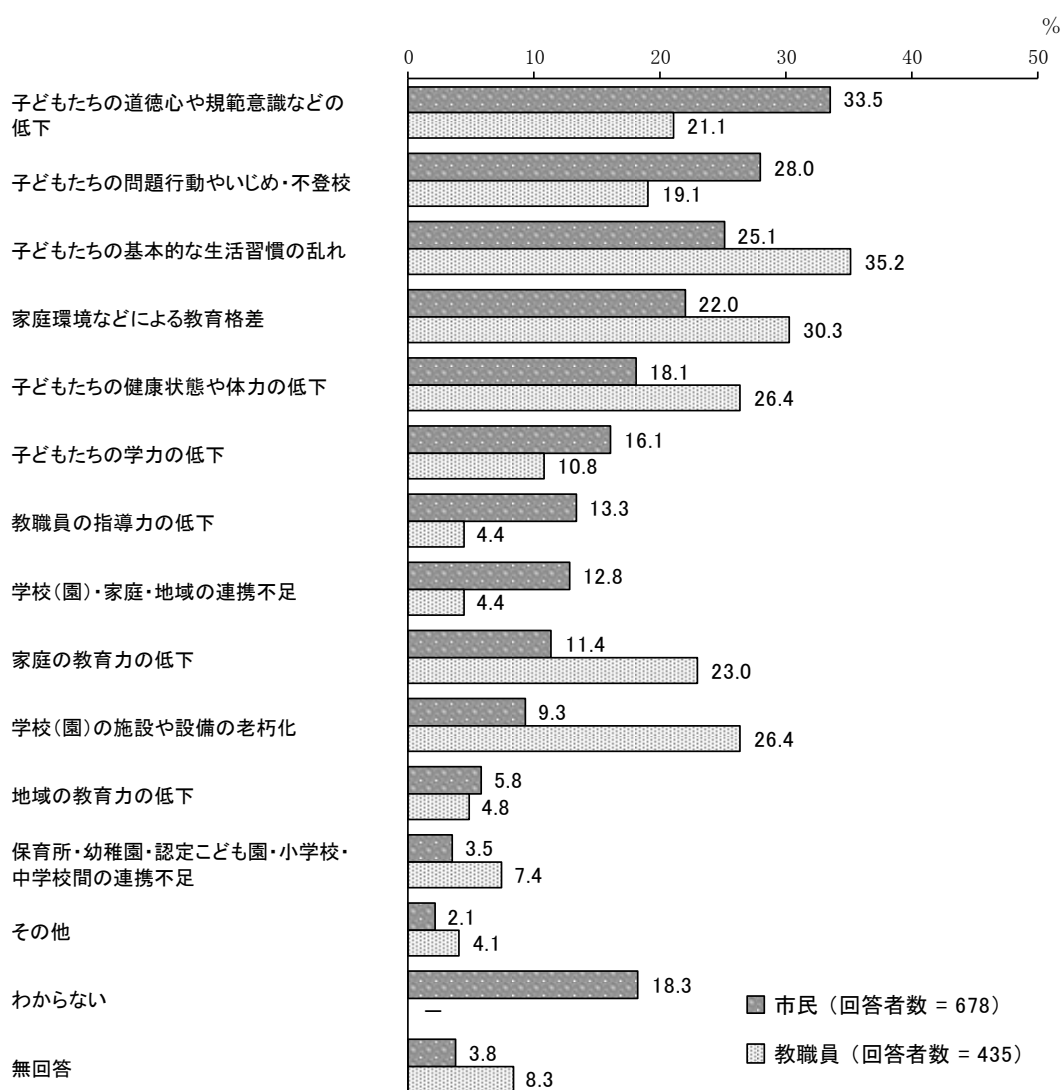


3 共通調査

問 11 あなたは、大阪狭山市の子どもたちの教育について、何が課題と思いますか。
(複数回答) (市 民)

問 5 大阪狭山市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。(複数回答) (教職員)

市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「子どもたちの道徳心や規範意識などの低下」「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」「子どもたちの学力の低下」「教職員の指導力の低下」「学校（園）・家庭・地域の連携不足」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ」「家庭環境などによる教育格差」「子どもたちの健康状態や体力の低下」「家庭の教育力の低下」「学校（園）の施設や設備の老朽化」の割合が高くなっています。



※教職員調査には「わからない」の選択肢はありません。

問 14 子どもたちが学校や先生に対して望むことは何だと思いますか。

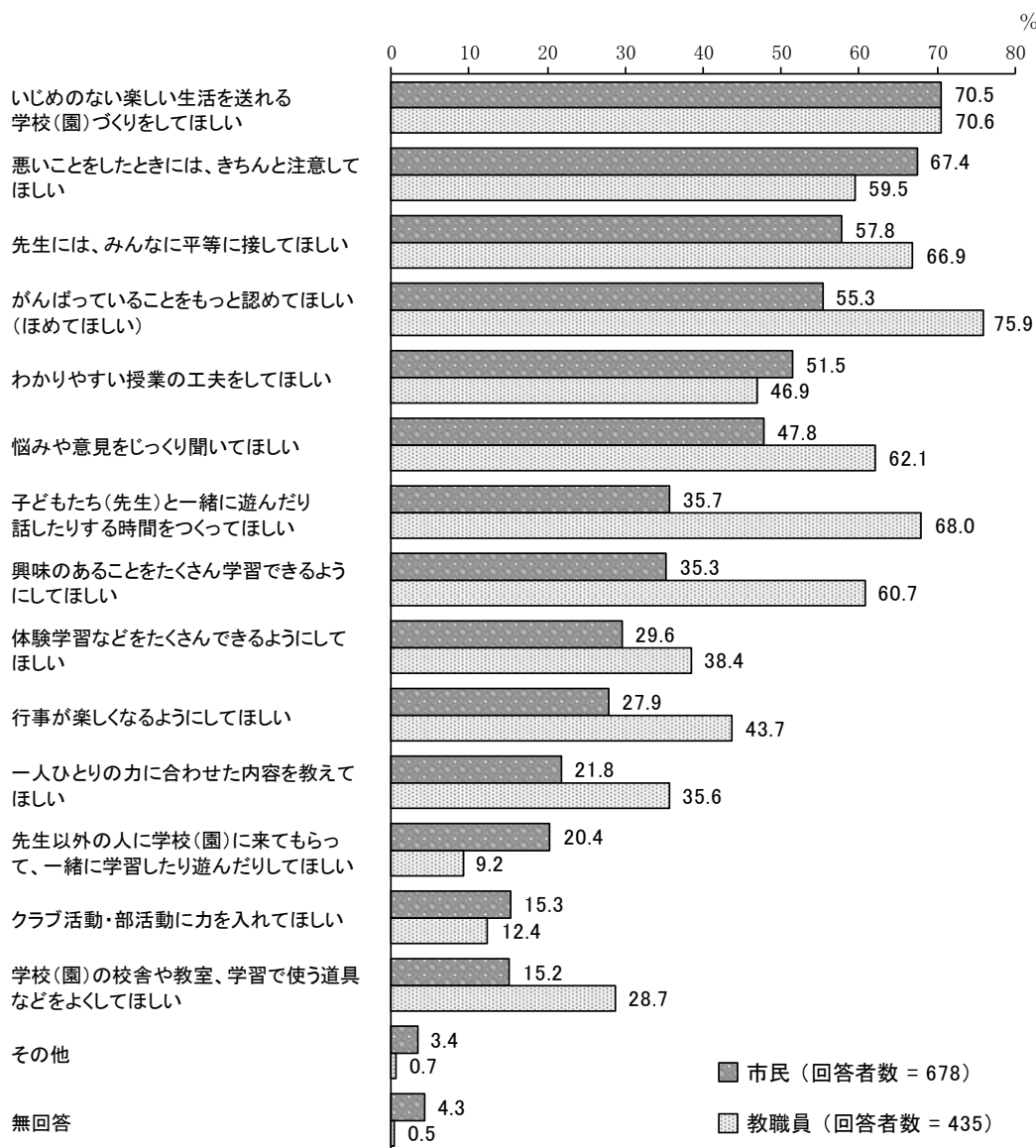
(複数回答)

(市 民)

問 4 子どもたちが学校や先生に望むことは何だと思いますか。(複数回答)

(教職員)

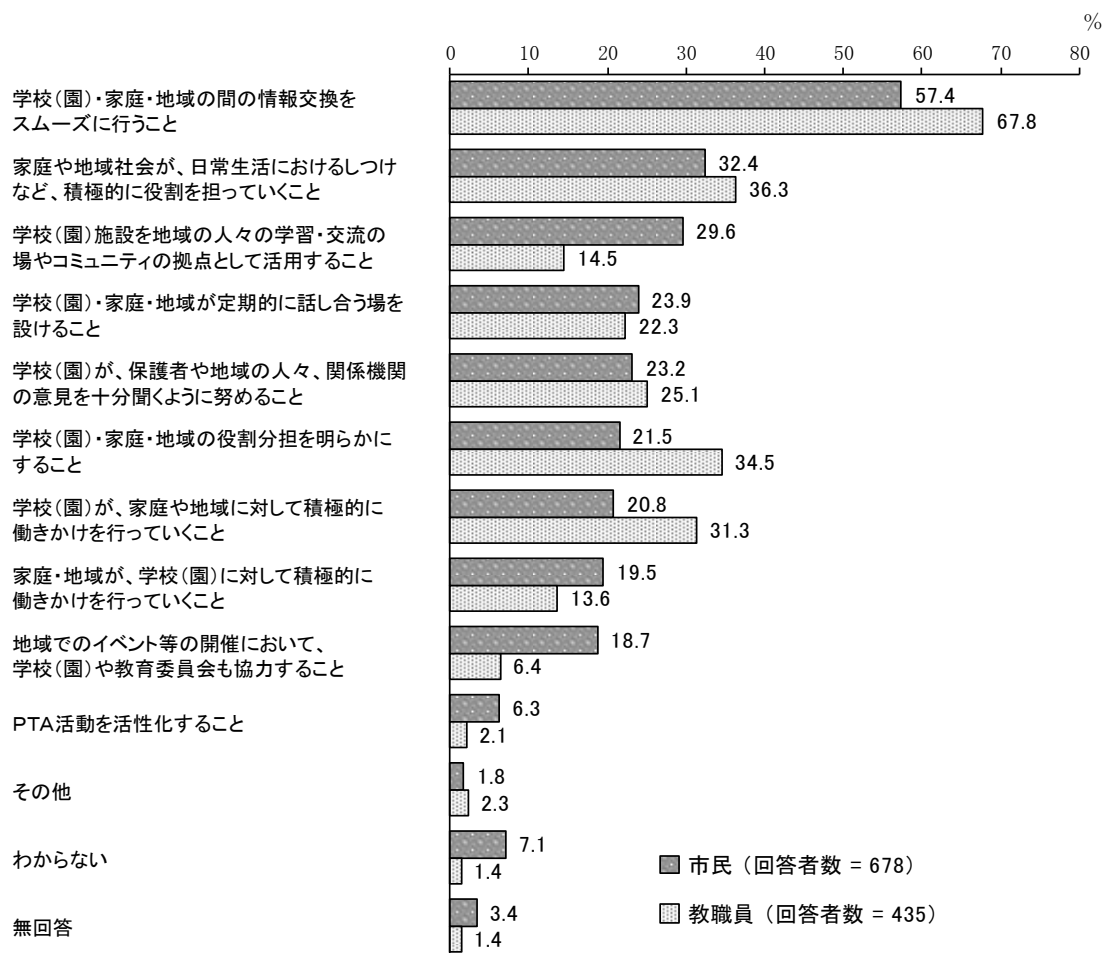
市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい」「先生以外の人に学校(園)に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「先生にはみんなに平等に接してほしい」「がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)」「悩みや意見をじっくり聞いてほしい」「子どもたちと一緒に遊んだり話したりする時間をつくってほしい」「興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい」「体験学習などをたくさんできるようにしてほしい」「行事が楽しくなるようにしてほしい」「一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい」「学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい」の割合が高くなっています。



問 20 あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（複数回答）（市 民）

問 6 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（複数回答）（教職員）

市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること」「家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと」「地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会も協力すること」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」「学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること」学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと」の割合が高くなっています。



Ⅳ 自由意見

1 市民

アンケート調査票の自由記述欄において、合計 115 件の意見を寄せていただきました。意見の内容を分野に応じて整理したところ、主な意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 教育内容	6
(2) 保育所や子育て	5
(3) 教育理念	10
(4) 教育と健康	4
(5) 教員に関して	7
(6) 地域と生活環境	15
(7) 家庭と教育	5
(8) 公共施設利用	14
(9) 支援や情報	17
(10) その他	32

【分類別の主な意見】

(1) 教育内容

- ・ 英語やプログラミングなどの専門的な授業をしてほしいです。
- ・ 市の教育が更に充実するとよいです。

(2) 保育所や子育て

- ・ 保育園の待機児童がいなくなってほしいです。
- ・ 子どもが安全に過ごすことができる環境を望みます。

(3) 教育理念

- ・ しっかりと相手の目を見て挨拶することができるように教育してほしいです。
- ・ 自然に触れる体験活動をしてほしいです。
- ・ いじめをなくしてほしいです。

(4) 教育と健康

- ・ 中学の部活動指導を見直してほしいです。
- ・ 小学生はスポーツをする機会が少ないと感じます。

（５）教員に関して

- ・ 保育所、学童保育での指導者の確保をしてほしいです。
- ・ 年々、教師のレベルが低くなっていると感じます。
- ・ 生徒による教師の評価システムがあればよいと感じます。

（６）地域と生活環境

- ・ 子どもたちの登校下校の安全確保をしてほしいです。
- ・ 小学６年生まで放課後も楽しく過ごせる場所がほしいです。
- ・ 地域ごとに子ども会をつくり、協力体制があるとよいです。
- ・ 校区変更をしてほしいです。

（７）家庭と教育

- ・ 家庭教育が人間関係の基本ですが、それを補完する学校教育が大切だと感じます。
- ・ 子どもたちが立派な大人になれるよう親の指導をしてほしいです。

（８）公共施設利用

- ・ 図書館の蔵書に専門書が少ないと感じます。
- ・ 子どもがボール遊びできる場が少なく感じます。
- ・ バスの便をもっと利用しやすくしてほしいです。

（９）支援や情報

- ・ 学校や地域に関する情報提供がほしいです。
- ・ 生涯学習の一環として子どもたちと高齢者がいきいき同じ場で活動できるような施策があればよいと思います。
- ・ 医療費を削減など、経済面の支援がほしいです。
- ・ 気軽に参加できるイベントをつくってほしいです。

（１０）その他

- ・ 子育て世代が減っているのを若い人が住み、子育てしやすい環境になってほしいです。
- ・ この調査が市民の教育・生涯学習にどのように反映されるか知りたいです。

2 小・中学校教員

アンケート調査票の自由記述欄において、合計 43 件の意見を寄せていただきました。意見の内容を分野に応じて整理したところ、主な意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 教育内容・体制	13
(2) 子育て環境	4
(3) 教員と教育の質	7
(4) 教員の労働環境	13
(5) その他	6

【分類別の主な意見】

(1) 教育内容・体制

- ・ 公簿やあゆみのデータ化で時間短縮をしてほしいです。
- ・ 傾聴力を子どもにつけることが成長に繋がると思います。
- ・ 部活の顧問の負担が大きいと感じます。

(2) 子育て環境

- ・ 子どもが安心して学校に来て学べる環境をつくってほしいです。
- ・ 支援学級や学びの支援員を増やしてほしいです。

(3) 教員と教育の質

- ・ スクールカウンセラーの常駐、教育相談室を設置してほしいです。
- ・ 人材の確保をお願いします。
- ・ 学校は経験の浅い教員の割合が非常に高くなっているため質を上げてほしいです。

(4) 教員の労働環境

- ・ 現場任せではなく、市教委の方針をより具体的にしていきたいです。
- ・ 勤務時間外、勤務日以外の勤務をさせないようにしてほしいです。
- ・ 勤務時間管理簿が負担となっています。

(5) その他

- ・ 他の市町村に比べて率先して教育を充実させ、少し成果があったと感じています。

3 保育園・幼稚園・認定こども園教員

アンケート調査票の自由記述欄において、合計 18 件の意見を寄せていただきました。意見の内容分野に応じて整理したところ、主な意見は以下のとおりとなります。なお、意見については延べ件数でまとめています。

分類回答	件数
(1) 教育内容・体制	3
(2) 子育て環境・交流	12
(3) 教員と教育の質	3

【分類別の主な意見】

(1) 教育内容・体制

- ・ 公立園の保育や教育の内容を地域の方に知ってもらう、理解してもらうことは大切だと思います。
- ・ 公立園を存続し、市立こども園を統合してほしいです。

(2) 子育て環境・交流

- ・ 地域との連携が必要だと感じます。
- ・ 保護者や子どもにできるだけ負担がかからないような環境をつくってほしいです。
- ・ 体育館や校庭など、自由に使用できるようになれば助かります。

(3) 教員と教育の質

- ・ 役所の方も、各園の様子を見に来てほしいです。
- ・ 保育士の方がいつも熱心に取り組まれていて感心しております。

V 調査票

大阪狭山市の教育や生涯学習に関する 市民アンケート

【アンケートご協力のお願い】

市民のみなさまには、日頃から教育行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
ございます。

大阪狭山市教育委員会では、「大阪狭山市教育振興基本計画（計画期間：平成27年度～平成31年度）」を策定し、現在、さまざまな施策に取り組んでいるところで
す。

今回のアンケート調査は、次期「大阪狭山市教育振興基本計画」を策定するにあ
たって、市民のみなさまの教育に関するお考えやご意見を伺うことを目的とし、満
16歳以上の市民の中から無作為に抽出した2,000人を対象に、無記名で実施する
ものです。ご回答いただいた内容は、統計的に集計・処理され、個人が特定される
ことはありません。

「教育振興基本計画」とは、教育の振興に向けた施策を総合的、計画的に進める
ために策定するもので、地方自治体も国の計画を参考に、地域の実情に応じた基本
計画を作ることが努力目標となっています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解のうえ、ご協力い
ただきますようお願い申し上げます。

平成31年4月 大阪狭山市教育委員会

ご記入にあたってのお願い

- 宛名のご本人が回答できない場合、満16歳以上のご家族の方がご回答ください。
- 回答は問1から順に、回答欄の該当番号に○印をしてください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、その内容を（ ）にご記入ください。
- 記入が済みましたら、**4月24日（水）までに**同封の返信用封筒でご返送ください。
- ご回答いただくうえでご不明な点、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ】大阪狭山市教育委員会事務局 教育部 教育総務グループ
(担当 橋本・林)

電 話 072-366-0011 (代表)

FAX 072-367-6011

Eメール kyouiku@city.osakasayama.osaka.jp

1. あなたご自身についてお聞きします。

問1 あなたが思われる性別をお答えください。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------|-------|-----------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 男性、女性と答えることに抵抗を感じる |
|-------|-------|-----------------------|

問2 あなたの現在の年齢をご記入ください。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 16歳～19歳 | 2. 20歳～24歳 | 3. 25歳～29歳 |
| 4. 30歳～34歳 | 5. 35歳～39歳 | 6. 40歳～49歳 |
| 7. 50歳～59歳 | 8. 60歳～64歳 | 9. 65歳～69歳 |
| 10. 70歳～74歳 | 11. 75歳以上 | |

問3 あなたが住んでいる小学校区はどこですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------------|-------------------|------------|
| 1. 東小学校区 | 2. 西小学校区 | 3. 南第一小学校区 |
| 4. 南第二小学校区 | 5. 南第三小学校区 | 6. 北小学校区 |
| 7. 第七小学校区 | 8. 小学校区がわからない（地区名 | ） |

問4 あなたの職業は次のうちどれですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 商業・自営業 | 3. 会社員 |
| 4. 公務員・教員 | 5. パート・アルバイト | 6. 専業主婦・主夫 |
| 7. 学生 | 8. その他（ | ） 9. 無職 |

問5 あなたの世帯構成はどのようになっていますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. ひとり暮らし世帯 | 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 親と子の2世代世帯 | 4. 親と子と孫の3世代世帯 |
| 5. その他（ | ） |

問6 あなたは、大阪狭山市に住んで何年になりますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------------|-----------|------------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年～10年 | 3. 11年～20年 |
| 4. 21年～30年 | 5. 31年以上 | |

問7 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

※自立・独立、別居されている場合も含みます。

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. ※就学前の子 | 2. 小学生の子 |
| 3. 中学生の子 | 4. 高校生の子 |
| 5. 大学生の子 | 6. その他の教育機関に通っている子 |
| 7. 大学生以外の成人の子 | 8. その他の未成年の子 |
| 9. 子はいない | |

※就学前：小学校への就学以前の期間のことをいいます。

2. 大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育についてお聞きします。

問8 あなたは、大阪狭山市の※就学前教育・保育、学校教育における現在の取組みについて、どのように思いますか。（それぞれにひとつずつ○）

項 目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	わからない・知
1. 就学前教育・保育、学校教育が充実している	1	2	3	4	5
2. 保育所における教育・保育が充実している	1	2	3	4	5
3. 幼稚園における教育・保育が充実している	1	2	3	4	5
4. 認定こども園における教育・保育が充実している	1	2	3	4	5
5. 小学校の教育内容や学校運営の取組みが充実している	1	2	3	4	5
6. 中学校の教育内容や学校運営の取組みが充実している	1	2	3	4	5
7. 小学校・中学校の施設・設備が充実している	1	2	3	4	5
8. 学校給食は、栄養バランスがとれ、食物アレルギーに配慮した安全・安心でおいしい給食が提供されている	1	2	3	4	5
9. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教育を通して「学ぶ力」が育まれている	1	2	3	4	5
10. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教育を通して「体力」が育まれている	1	2	3	4	5
11. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の教育を通して「豊かな心」が育まれている	1	2	3	4	5
12. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校は地域に開かれ、地域ぐるみで子どもの教育が行われている	1	2	3	4	5
13. 教育相談や子どもの心のケアが充実している	1	2	3	4	5
14. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校において子どもの健康管理ができています	1	2	3	4	5

※就学前教育・保育：保育所、幼稚園、認定こども園等において提供される小学校への就学以前の教育・保育をいいます。

問9 あなたは、大阪狭山市の子どもたちに、将来どのような人になってもらいたいと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. 規則を守り、他人に迷惑をかけない人
2. 自分の意思を主張できる人
3. 社交性・協調性がある人
4. 思いやりがある人
5. 粘り強くものごとに取り組める人
6. 自分らしく個性的な生き方をする人
7. 誠実で責任感の強い人
8. 自分がしたいことや夢を持ち続けて生きる人
9. リーダーシップがある人
10. 仕事で能力を発揮する人
11. 社会に奉仕でき、ふるさとを愛する人
12. 国際的に活躍できる人
13. 家族を大切にする人
14. その他（ ）

問10 あなたは、大阪狭山市の就学前教育・保育の中で、子どもたちにどのような能力や態度を身につけることが重要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. 明るくのびのびと行動し、進んで運動する力
2. 健康・安全な生活に必要な習慣や態度
3. 自分で考えて行動する力
4. 友だちとかかわる力
5. 人を思いやる心
6. ものごとを最後までやりとげる力
7. 生命や自然、環境を大切にする心
8. 身近な事象に関心を持って遊ぶ力
9. 自分の思いや考えを言葉で表現する力
10. 人の話を注意して聞き、内容を理解する力
11. 音楽に親しみ、歌や楽器で楽しむ力
12. 感じたことを自由に描く・作る・身体表現する力
13. 絵本や童話に親しみ、想像する力
14. その他（ ）

問11 あなたは、大阪狭山市の子どもたちの教育について、何が課題と思いますか。
(主なもの3つまで○)

1. 子どもたちの学力の低下
2. 子どもたちの道徳心や規範意識などの低下
3. 子どもたちの健康状態や体力の低下
4. 子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ
5. 子どもたちの問題行動やいじめ・不登校
6. 家庭環境などによる教育格差
7. 家庭の教育力の低下
8. 地域の教育力の低下
9. 学校・家庭・地域の連携不足
10. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校間の連携不足
11. 学校の施設や設備の老朽化
12. 教職員の指導力の低下
13. その他（ ）
14. わからない

問12 あなたは、大阪狭山市の学校教育の中で、どのような能力や態度を身につけることが重要だと思いますか。一番近い考えのところに○をつけてください。

(それぞれにひとつずつ○)

項 目	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない	わからない
1. 学習への意欲	1	2	3	4	5
2. 教科の基礎的な学力	1	2	3	4	5
3. 学んだことを活用する力	1	2	3	4	5
4. 論理的にものを考える力	1	2	3	4	5
5. 自分の考えを表現する力	1	2	3	4	5
6. 新しいものを生み出す創造的な力	1	2	3	4	5
7. 進んで読書に取り組む力	1	2	3	4	5
8. ※ICTを活用する力や情報管理技術	1	2	3	4	5
9. 実際の場面で使える英語などの語学力	1	2	3	4	5
10. 音楽・美術など芸術面の能力や情操	1	2	3	4	5
11. 善悪を判断する力	1	2	3	4	5
12. 人間関係を築く力	1	2	3	4	5
13. 生き方や進路について考える力	1	2	3	4	5
14. 社会で役立つ心や公共心	1	2	3	4	5
15. 伝統や文化を大切にし、郷土や国を愛する力	1	2	3	4	5
16. ものごとをやりとげるねばり強さ	1	2	3	4	5
17. 自立心や自主性、積極性	1	2	3	4	5
18. 他者に対する理解と思いやりや優しさ	1	2	3	4	5
19. 生命や自然、環境を大切にする心	1	2	3	4	5
20. 言葉づかい、礼節、マナー	1	2	3	4	5
21. 基本的な生活習慣	1	2	3	4	5
22. 体力や運動能力	1	2	3	4	5
23. 健康や安全を自己管理する力	1	2	3	4	5

※ICT：Information and Communication Technologyの略で、情報通信技術のことです。

問13 あなたは、大阪狭山市の学校教育の中で、どのような教育施策や教育事業について、力を入れて行う必要があると思いますか。一番近い考えのところに○をつけてください。
(それぞれにひとつずつ○)

項 目	必要である	どちらかといえば必要である	どちらかといえば必要でない	必要でない	わからない
1. 1クラス当たりの子どもの数を少なくする	1	2	3	4	5
2. 授業によってクラスを分割し、複数の教員で指導を行う	1	2	3	4	5
3. 外部支援員の協力による、わかりやすい授業を増やす	1	2	3	4	5
4. 教職員の資質向上を図る	1	2	3	4	5
5. 授業時間数やテストの回数を増やす	1	2	3	4	5
6. 子どもの学習意欲が高まる授業づくりを工夫する	1	2	3	4	5
7. 体験的な活動（実験、観察、見学、実習など）を増やす	1	2	3	4	5
8. 放課後や土曜日、夏休みなどに補習授業を行う	1	2	3	4	5
9. 学校図書館の充実と読書活動を推進する	1	2	3	4	5
10. ICTを活用した授業を推進する	1	2	3	4	5
11. 外国人を活用した英語教育を推進する	1	2	3	4	5
12. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携を図る	1	2	3	4	5
13. 豊かな心をはぐくむ道徳教育を充実させる	1	2	3	4	5
14. いじめや不登校に対する生徒指導を充実させる	1	2	3	4	5
15. 悩み事がある場合、専門家に気軽に相談できる体制をつくる	1	2	3	4	5
16. 進路指導を充実させ、※キャリア教育を推進する	1	2	3	4	5
17. 子どもと教師がじっくり向き合う時間を確保する	1	2	3	4	5
18. ボランティア活動や地域行事への参加の機会を増やす	1	2	3	4	5
19. 障がいのある子どもとない子どもがともに学び、ともに育つ教育を充実させる	1	2	3	4	5
20. 互いに認め合い、高め合える仲間づくりを行う	1	2	3	4	5

※キャリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通して、自分らしい生き方を実現できるように促す教育です。

項 目	必要である	どちらかといえば必要である	どちらかといえば必要でない	必要でない	わからない
21. 日常的な体力づくりの取組みを推進する	1	2	3	4	5
22. 体育行事を充実させる	1	2	3	4	5
23. 防災教育や防犯教育を充実させ、安心安全な学校づくりを推進する	1	2	3	4	5
24. 子ども一人ひとりが抱える様々な生活上または学習上の困難さに対して、きめ細かく支援をする	1	2	3	4	5
25. 性的違和や性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応を実施する	1	2	3	4	5
26. 医療的ケア児を含む障がいのある子どもへの取組みを推進する	1	2	3	4	5

問14 子どもたちが学校や先生に対して望むことは何だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもたちと一緒に遊んだり話したりする時間をつくってほしい
2. 体験学習などをたくさんできるようにしてほしい
3. 興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい
4. いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい
5. 悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい
6. がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)
7. 先生には、みんなに平等に接してほしい
8. 一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
9. わかりやすい授業の工夫をしてほしい
10. 学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい
11. 悩みや意見をじっくり聞いてほしい
12. クラブ活動・部活動に力を入れてほしい
13. 行事が楽しくなるようにしてほしい
14. 先生以外の人に学校に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい
15. その他()

問15 あなたは、子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。（それぞれにひとつずつ○）

項 目	減少・希薄 ・低下	変化なし	増加・濃厚 ・向上
1. 家庭における生活力（お手伝いや身の回りのことをすること）	1	2	3
2. 地域社会での人間関係	1	2	3
3. 子どもと高齢者がふれ合う機会	1	2	3
4. 学校における児童・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導	1	2	3
5. 学校におけるＩＣＴを活用した授業	1	2	3
6. コミュニケーション手段	1	2	3
7. 外国語を使う機会	1	2	3
8. 家庭環境の多様化（核家族、単身赴任、親の深夜労働等）	1	2	3
9. 「食」を取り巻く環境の多様化（孤食、食事の回数等）	1	2	3
10. 家庭と地域の結びつき	1	2	3
11. いじめ、暴力	1	2	3
12. 不登校	1	2	3
13. その他（ ）	1	2	3

問16 いじめが社会問題になっています。あなたは、いじめについて、どのようなことが特に大切だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. 学校で、いじめをしてはいけないことをしっかり教える
2. 学校全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する
3. 学校で、子どもたちが自分たちで防止できるような委員会をつくったり、話し合う場をつくったりする
4. 学校で、いじめの体験談などを聞く機会をつくり、身近な問題と捉えさせる指導をする
5. 専門家に気軽に相談できる体制をつくる
6. 学校以外の相談窓口を子どもや保護者に知らせる
7. 保護者が自分の子どもに対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える
8. 「いじめられている子ども」や「いじめている子ども」の保護者が、学校と連携する
9. 保護者が、子どもとの日常会話を大切にし、いじめがないか把握する
10. インターネットやSNSを通じて行われるいじめを防止したり、対処するために、保護者が積極的に協力する
11. 周囲の子どもが、いじめをしている子どもを注意したり、助けたりする
12. いじめに気づいた子どもは、大人に相談する
13. いじめをした子どもを厳しく罰する
14. どのような方法でもいじめを減らしたり、解決したりすることは難しい
15. その他（ ）

問17 あなたは、子どもたち一人ひとりの学びを保障するためには、どのような取組みが必要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実
2. 乳幼児期からの一貫した支援体制の整備
3. 子ども一人ひとりの実態に応じた相談体制の強化
4. 特別支援学級などでの専門的な教育の充実
5. 授業中の個別の配慮、放課後や授業中などの特別な個別指導
6. 教職員の専門性の向上
7. 医療的ケア児を含む障がいのある子どもに配慮した施設・設備等の充実
8. 障がいに対する理解を深めるための学習の充実
9. 人的（人員）配置の充実
10. その他（ ）
11. わからない

3. 家庭教育・地域教育についてお聞きます。

問18 あなたは、「家庭の教育力」をより高めていくために、どのような取組みが必要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. 教育委員会主催で、「家庭の教育力」をより高める契機となるような講演会などを開催する
2. 保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ
3. 保護者同士が教育について話し合える機会をつくる
4. 保護者が、しつけや教育について相談できる場所をつくる
5. 子どもが、保護者以外の大人（祖父母、近所の人）とふれあう機会を増やす
6. 子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす
7. 保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす
8. 学校や塾など外部の教育機関に対するしつけや教育の依存をやめる
9. 家族内の個人主義を改める
10. 経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる
11. その他（ ）
12. わからない

問19 あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力することにより、どのような効果があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 学校の課題の解決に役に立つ | 2. 学校が活性化する |
| 3. 地域がより活発になる | 4. 地域で子どもを育てる機運が高まる |
| 5. 児童・生徒の活躍の場が広がる | 6. 教師の業務改善・多忙解消につながる |
| 7. その他（ ） | |

問20 あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること
2. 学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと
3. 学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること
4. 学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと
5. 学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること
6. 家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと
7. 学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること
8. 家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと
9. PTA活動を活性化すること
10. 地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会も協力すること
11. その他（ ）
12. わからない

問21 あなたは、今後、地域の学校に対してどのような活動でご協力いただけますか。（あてはまるものすべてに○）

- ＜小学校・中学校の取組みへの参加・協力について＞
1. 子どもたちの調べ学習などへの資料の提供
 2. 地域学習のための情報提供（歴史、人材、活動などの情報）
 3. 子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート
 4. 学校の授業や部活動
 5. 学校の行事やイベント
 6. 学校図書館やパソコンルームなどの施設開放運営
- ＜地域の活動への参加・協力について＞
7. 学校で行われる地域のスポーツ・文化活動
 8. 土日を活用した親子イベントや行事などの企画・実施
 9. 子どもの非行防止や健全育成のための活動
 10. 子どもの地域での過ごし方や活動についての広報誌づくりなど
 11. 市民同士の交流や、まちづくりに関する活動
 12. その他（ ）

問22 あなたは、地域に関心がありますか。（ひとつだけ○）

1. とても関心がある
2. どちらかといえば関心がある
3. どちらかといえば関心がない
4. 関心がない

問23 ふだん、あなたは、地域の子どもとどのように接していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 出会ったときは、あいさつをしている
2. 出会ったときは、声をかけたり、話をしている
3. 悪いことをしているところを見たときは、注意をしている
4. 良いことをしているところを見たときは、ほめている
5. 子どもが困ったときや悩んでいるときに相談にのっている
6. こども会などの地域活動を一緒にしている
7. 子どもにスポーツ活動・文化活動などの指導をしている
8. 地域の祭りやイベントで子どもとふれあっている
9. その他 ()
10. 地域の子どもとかかわりはない

4. 大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについてお聞きします。

問24 あなたは、この1年くらいの間に、自分から進んで※生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしたことがありますか。(どちらかに○)

1. ある
2. ない

※生涯学習：人々が生涯にわたって、いつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座などの社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習や趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

問24で「1. ある」と回答した方だけにお聞きします。

問24－(1) あなたは、どのような生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など)
2. 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、社会問題など)
3. 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など)
4. 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)
5. 育児・教育(幼児教育、教育問題など)
6. 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)
7. パソコン、インターネット、SNSに関すること
8. ボランティア活動やそのために必要な知識・技能(ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など)
9. 自然体験や生活体験などの体験活動
10. 学校(高等・専修・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習
11. その他 ()

問24ー（2） あなたが、生涯学習・文化・スポーツなどの活動をはじめたきっかけは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 趣味を豊かにするため | 2. 教養・能力を高めるため |
| 3. 仕事や就職・転職に必要なため | 4. ボランティア活動に必要なため |
| 5. 高度な専門知識を身につけるため | 6. 自由時間を有効に活用するため |
| 7. 他者との交流・知人を得るため | 8. 老後の人生を有意義にするため |
| 9. 社会の進歩に遅れないため | 10. 健康や体力づくりのため |
| 11. 特に理由はない | 12. その他（ ） |

問24で「2. ない」と回答した方だけにお聞きします。

問24ー（3） あなたが、生涯学習・文化・スポーツなどの活動を行っていない理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1. 仕事が忙しくて時間がない | 2. 家事や育児・介護が忙しくて時間がない |
| 3. 費用がかかる | 4. 必要な情報が入手できない |
| 5.一緒に学習や活動をする仲間がいない | 6. 身近なところに施設や場所がない |
| 7. 講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない | 8. 家族や職場など周囲の理解が得られない |
| 9. きっかけがつかめない | 10. そういうことは好きではなく、めんどろ |
| 11. 特に理由はない | 12. その他（ ） |

すべての方にお聞きします。

問25 あなたは、今後、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしてみたいと思いますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. してみたい | 2. どちらかといえば、してみたい |
| 3. どちらかといえば、したくない | 4. したくない |

問25で「1. 」または「2. 」と回答した方だけにお聞きします。

問25ー（1） あなたは、どのような生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしてみたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など） |
| 2. 教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など） |
| 3. 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など） |
| 4. 家庭生活に役立つ技能（料理、洋裁、和裁、編み物など） |
| 5. 育児・教育（幼児教育、教育問題など） |
| 6. 職業上必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など） |
| 7. パソコン、インターネット、SNSに関すること |
| 8. ボランティア活動やそのために必要な知識・技能（ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など） |
| 9. 自然体験や生活体験などの体験活動 |
| 10. 学校（高等・専修・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習 |
| 11. その他（ ） |

問27 あなたは、大阪狭山市の文化・芸術活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. コンサートや演劇など、市民が文化・芸術にふれられる機会の充実
2. 文化・芸術に関する情報の提供
3. 文化・芸術活動に関する指導者の育成
4. 文化・芸術関係の教室の開催
5. サークルなどの文化・芸術活動団体への支援の充実
6. 市民劇団、市民オーケストラなどの立ち上げ
7. 市の歴史の調査・研究と情報の提供
8. 文化財の保護と活用
9. 狭山池など歴史資産の活用
10. その他（ ）
11. わからない

問28 あなたは、1週間にどれぐらいスポーツ（ウォーキングから競技スポーツすべてを含みます）を実施されていますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------|-----------|-------|
| 1. 1日 | 2. 2日 | 3. 3日 |
| 4. 4日 | 5. 5日 | 6. 6日 |
| 7. 毎日 | 8. 実施してない | |

問29 あなたは、大阪狭山市のスポーツ活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. スポーツを通じたまちづくり
2. スポーツ関連情報の提供
3. スポーツに関する指導者の育成
4. スポーツイベントや大会の開催
5. 市民のスポーツに関する技術向上に関する支援の充実
6. スポーツ活動団体への支援の充実
7. スポーツ施設や設備の充実
8. 障がい者や高齢者を対象としたスポーツ活動の推進
9. その他（ ）
10. わからない

問30 近年、「人生100年時代」と言われている中で、リカレント教育（社会人になっても生涯にわたって学んでいくこと）や社会人の学び直しが注目されていますが、あなたは今後、教育機関等（大学・公民館等）で学習したいと思いますか。（ひとつだけ○）

1. すでに学習している
2. 今後学習してみたい
3. 環境が整備されれば学習してみたい
4. 学習したいと思わない

問30で「1. 」から「3. 」と回答した方だけにお聞きます。

問30- (1) そう思う理由をお答えください。(ひとつだけ○)

1. 今後の人生を有意義にするため
2. 現在の職業や就職、転職のために必要性を感じているため
3. 他の人と親睦を深めたり、友人をつくったりするため
4. 地域活動の取組みに生かしたいため
5. 健康の保持増進のため
6. その他（ ）

5. 大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについてお聞きます。

問31 あなたは、大阪狭山市に愛着を感じておられますか。（ひとつだけ○）

1. 感じる
2. どちらかといえば、感じる
3. どちらかといえば、感じない
4. 感じない
5. わからない

問32 大阪狭山市の特長や誇りとして、あなたが大事にしていきたいと思うことはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 大阪狭山市の歴史
2. 大阪狭山市出身の偉人の功績
3. 日本最古である狭山池
4. 地域の祭りなどの伝統文化
5. 豊かな自然環境
6. 大野ぶどうの大阪狭山ブランド
7. 安全・安心な暮らしやすい生活環境
8. 市民による文化・芸術活動が活発なまち
9. 市民協働のまちづくり
10. 子育てにやさしいまちづくり
11. その他（ ）
12. わからない

6. 教育に関する施策全般についてお聞きします。

問33 あなたは、大阪狭山市の子どもが健やかに育まれるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（主なもの3つまで○）

1. 家庭の教育力を高めるための大人への教育
2. 地域の教育力を高めるための活動
3. 子育て家庭への支援
4. 子どもについての悩みや相談ごとへの対応
5. 就学前教育・保育を充実させるための施策
6. 子どもが様々な体験ができる機会づくり
7. 子どものスポーツ活動
8. 子どもの安全を確保するための活動
9. 学校教育を充実させるための施策
10. 放課後などに子どもが遊べる場所づくり
11. 青少年の健全な育成に関する事業
12. 市の歴史や文化を学ぶ機会の増加
13. 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携強化による、一体的な指導
14. 教育委員会や学校の取組みに関する積極的な情報発信
15. その他（ ）
16. わからない

問34 あなたは、今後、生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化 | 2. 講座や教室数の増加 |
| 3. 指導者の確保・育成 | 4. 休日や夜間などの講座の充実 |
| 5. 託児つき講座の充実 | 6. 気軽に学習に取り組める雰囲気づくり |
| 7. 学習・活動成果が生かせる場づくり | 8. 学習・活動に関する相談体制の充実 |
| 9. 学習・活動情報の一元的管理・提供 | 10. 地域で活動する団体への支援 |
| 11. NPOへの活動支援 | 12. 学校施設の開放 |
| 13. 大学など教育機関や企業との連携 | 14. その他 |
| 15. わからない | （ ） |

問35 その他、ご意見などがございましたら、ご自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

4月24日（水）までに同封の返信用封筒でご返送ください

大阪狭山市教育委員会 保育園・幼稚園・認定こども園 教職員用アンケート

日頃から大阪狭山市の教育にご尽力いただきありがとうございます。

この度、大阪狭山市教育委員会では、次期「大阪狭山市教育振興基本計画（計画期間：2020年度～2024年度）」の策定にあたり、教育に関する皆様のご意見等をお聞かせいただきたく、教職員の皆様を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケートの結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計学的に処理しますので、個人が特定されることや、アンケート集計の他に使用することは一切ございません。

〇4月24日（水）までにご記入ください。

平成31年4月
大阪狭山市教育委員会

あなた自身のことについておたずねします。

問1 在籍はどちらですか。（〇は1つ）

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1 保育所 | 2 幼稚園 | 3 認定こども園 |
|-------|-------|----------|

問2 職種を教えてください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-------------------------|
| 1 管理職 | 2 保育士・保育教諭・幼稚園教諭（管理職以外） |
|-------|-------------------------|

問3 経験年数を教えてください。（〇は1つ）

- | | | |
|----------|---------|----------|
| 1 4年以下 | 2 5～9年 | 3 10～19年 |
| 4 20～29年 | 5 30年以上 | |

教育や学習に関する取組みについておたずねします。

問4 子どもたち（保護者）が園や先生に望むことは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい
- 2 体験学習などをたくさんできるようにしてほしい
- 3 興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい
- 4 いじめのない楽しい生活を送れる学校（園）づくりをしてほしい
- 5 悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい
- 6 がんばっていることをもっと認めてほしい（ほめてほしい）
- 7 先生にはみんなに平等に接してほしい
- 8 一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
- 9 学習がわかるようにしてほしい
- 10 学校（園）の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい
- 11 悩みや意見をじっくり聞いてほしい
- 12 行事が楽しくなるようにしてほしい
- 13 先生以外の人に学校（園）に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい
- 14 その他（ ）

問5 大阪狭山市の子どもたちや就学前教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。（〇は3つまで）

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 子どもたちの学力の低下 | 8 地域の教育力の低下 |
| 2 子どもたちの道徳性や規範意識などの低下 | 9 学校（園）・家庭・地域の連携不足 |
| 3 子どもたちの健康状態や体力の低下 | 10 保・幼・こ・小・中学校間の連携不足 |
| 4 子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ | 11 学校（園）の施設や設備の老朽化 |
| 5 子どもたちの問題行動やいじめ・不登校 | 12 教職員の指導力の低下 |
| 6 家庭環境などによる教育格差 | 13 その他（ ） |
| 7 家庭の教育力の低下 | |

問6 学校（園）・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 学校（園）・家庭・地域の役割分担を明らかにすること
- 2 学校（園）・家庭・地域の間の情報交換をスムーズに行うこと
- 3 学校（園）・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること
- 4 学校（園）が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと
- 5 学校（園）が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること
- 6 家庭・地域が、学校（園）に対して積極的に働きかけを行っていくこと
- 7 学校（園）施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること
- 8 家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと
- 9 PTA活動を活性化すること
- 10 地域でのイベント等の開催において、学校（園）や教育委員会も協力すること
- 11 その他（ ）
- 12 わからない

問7 大阪狭山市の就学前教育で、重要だと思うことは何ですか。（〇は3つまで）

- 1 幼児期にふさわしい生活習慣の基礎や規範意識が芽生えるような幼児教育を行う
- 2 生活に必要な活動を自分でできるようにする
- 3 豊かな感性や表現する力を身につけるための取組みを行う
- 4 保育所・幼稚園・認定こども園とのつながりを深める
- 5 小学校や中学校とのつながりを深める
- 6 あいさつやルールを守る意識を育てる
- 7 やさしさや思いやりなど、豊かな心を育む
- 8 自分の持ち物や共同で使う身近な物を大切にするような教育をする
- 9 世代間交流など、いろいろな人とふれあう取組みを行う
- 10 体力向上を目指した取組みを行う
- 11 給食を活用した食育を行う
- 12 子どもの障がいの状態や教育的ニーズに応じた指導を行う
- 13 読み聞かせ等、子どもたちが絵本や物語に親しむ取組みを行う
- 14 自然や動植物など周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わる取組みを行う
- 15 園の活動内容を保護者や地域に発信する
- 16 地域の指導者等（地域人材）を活用した体験活動を行う
- 17 地域の豊富な学習資源（自然、文化財、芸術文化 など）を活用する
- 18 その他（ ）

問8 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携の取組みとしてどのようなことを行っていますか。（〇はいくつでも）

- 1 日常の活動（保育）のなかでの子ども同士の交流活動
- 2 運動会や〇〇祭りなど行事を通じた交流活動
- 3 交流活動前における相手校（園）との打ち合わせ
- 4 交流活動後における相手校（園）との話し合い
- 5 相手園（校）との事務的な打ち合わせ
- 6 小学校教諭・中学校教諭による園の保育参観
- 7 保育士・保育教諭・幼稚園教諭による小学校・中学校の授業参観
- 8 小学校入学時における就学児の受け入れ態勢づくり
- 9 就学時の連絡会
- 10 子どもの様子について情報交換する機会や授業などの実践についての合同研修会
- 11 その他（ ）

問9 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の連携を進める際の課題は何ですか。
(〇はいくつでも)

- 1 連携の具体的な内容や手順を決めること
- 2 教育課程に位置づけていくこと
- 3 校内（園内）の共通理解を図ること
- 4 小学校教諭・中学校教諭と保育士・保育教諭・幼稚園教諭の間で指導観の共通理解を図ること
- 5 毎年継続していくこと
- 6 計画や準備に手間がかかること
- 7 日程調整が難しいこと
- 8 活動中、移動中における子どもの安全確保
- 9 活動時間の確保
- 10 移動時間の確保
- 11 担当教職員が異動した後の継続
- 12 その他（ ）

大阪狭山市の教育に関して、望まれることや具体的な提案・感想がございましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

大阪狭山市教育委員会 学校教職員用アンケート

日頃から大阪狭山市の教育にご尽力いただきありがとうございます。

この度、大阪狭山市教育委員会では、次期「大阪狭山市教育振興基本計画（計画期間：2020年度～2024 年度）」の策定にあたり、教育に関する皆様のご意見等をお聞かせいただきたく、教職員の皆様を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケートの結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計学的に処理しますので、個人が特定されることや、アンケート集計の他に使用することは一切ございません。

○4月24日（水）までにご記入ください。

平成31年4月
大阪狭山市教育委員会

あなた自身のことについておたずねします。

問1 在籍はどちらですか。(〇は1つ)

- 1 小学校 2 中学校

問2 職種を教えてください。(○は1つ)

- 1 管理職 2 教員（管理職以外）

問3 経験年数を教えてください。(〇は1つ)

- 1 4年以下 2 5~9年 3 10~19年
4 20~29年 5 30年以上

教育や学習に関する取組みについておたずねします。

問4 子どもたちが学校や先生に望むことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 先生と一緒に遊んだり話したりする時間がほしい
- 2 体験学習などをたくさんできるようにしてほしい
- 3 興味のあることをたくさん学習できるようにしてほしい
- 4 いじめのない楽しい生活を送れる学校づくりをしてほしい
- 5 悪いことをしたときには、きちんと注意してほしい
- 6 がんばっていることをもっと認めてほしい(ほめてほしい)
- 7 先生にはみんなに平等に接してほしい
- 8 一人ひとりの力に合わせた内容を教えてほしい
- 9 学習がわかるようにしてほしい
- 10 学校の校舎や教室、学習で使う道具などをよくしてほしい
- 11 悩みや意見をじっくり聞いてほしい
- 12 クラブ活動・部活動に力を入れてほしい
- 13 行事が楽しくなるようにしてほしい
- 14 先生以外の人に学校に来てもらって、一緒に学習したり遊んだりしてほしい
- 15 その他()

問5 大阪狭山市の子どもたちや学校教育の現場で課題だと感じていることは何ですか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 子どもたちの学力の低下 | 8 地域の教育力の低下 |
| 2 子どもたちの道徳性や規範意識などの低下 | 9 学校・家庭・地域の連携不足 |
| 3 子どもたちの健康状態や体力の低下 | 10 保・幼・こ・小・中学校間の連携不足 |
| 4 子どもたちの基本的な生活習慣の乱れ | 11 学校の施設や設備の老朽化 |
| 5 子どもたちの問題行動やいじめ・不登校 | 12 教職員の指導力の低下 |
| 6 家庭環境などによる教育格差 | 13 その他() |
| 7 家庭の教育力の低下 | |

問6 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること
- 2 学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと
- 3 学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること
- 4 学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと
- 5 学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること
- 6 家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと
- 7 学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること
- 8 家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと
- 9 PTA活動を活性化すること
- 10 地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会も協力すること
- 11 その他()
- 12 わからない

問7 今後、大阪狭山市の学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものは、どれですか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 家庭学習バックアップ事業（はなまる学習室） | 9 安心・安全スクール事業 |
| 2 読書eプラン推進事業 | 10 学力向上推進事業 |
| 3 支援教育事業 | 11 学校評価・支援事業（学校づくり応援事業） |
| 4 家庭教育支援事業（家庭教育サポーター） | 12 学校まるごとバック事業 |
| 5 安全・安心な学校給食推進事業（食物アレルギー対応） | 13 生徒指導支援事業（SC、SSW 配置） |
| 6 体力向上推進事業 | 14 その他（ ） |
| 7 英語教育支援事業（ALT 配置、英語力判定） | |
| 8 キャリア教育推進事業 | |

問8 大阪狭山市の学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

- 1 思いやりの心や、善悪の判断など、道徳性
- 2 人間関係を築く力
- 3 自ら学び、考え、主体的に行動する力
- 4 社会生活に必要な常識やマナー
- 5 教科の基礎的な学力
- 6 物事をやり遂げる粘り強さ
- 7 生き方や進路について考える力
- 8 健康や安全を自己管理する力
- 9 表現力やコミュニケーション力
- 10 基本的な生活習慣や食習慣
- 11 外国語を聞いたり、話したりする力
- 12 豊かな心や情操
- 13 社会に役立とうとする意欲や公共性
- 14 コンピュータを活用する力や情報モラル
- 15 環境やエネルギーを大切にすること意識
- 16 安全や防災に関する意識
- 17 自尊感情や自己肯定感
- 18 読書に親しむ態度
- 19 人権を尊重しようとする姿勢
- 20 その他（ ）

職場環境についておたずねします。

問9 あなたは、ご自身の職務について忙しいと感じていますか。(〇は1つ)

- 1 感じている
- 2 どちらかというと感じている
- 3 どちらかというと感じていない
- 4 感じていない

問 10 仕事をするうえで、あなたが、①時間をかけている業務、②負担感を感じている業務は、どのような業務ですか。（それぞれ主なもの3つまで番号を記入）

①時間をかけている業務				②負担感を感じている業務			
-------------	--	--	--	--------------	--	--	--

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 授業の準備 | 9 保護者・PTA対応 |
| 2 各種行事 | 10 地域・行政・関係団体対応 |
| 3 学級経営・学年経営 | 11 授業以外での学習指導 |
| 4 校務分掌 | 12 生徒指導 |
| 5 会議・打合せ | 13 部活動指導 |
| 6 学級・学年に関する事務処理 | 14 登下校指導 |
| 7 調査・報告書作成 | 15 その他（ ） |
| 8 研究・研修 | |

問 11 多忙を解消するために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

- 1 教職員間の連携を密にし、仕事を分担するなど個々の仕事量を減らす
- 2 調査や事務関係の書類の提出を少なくする
- 3 会議や研究会の効率化・スリム化を図る
- 4 勤務時間外の電話は留守番電話で対応する
- 5 定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーの設定・拡充
- 6 校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る
- 7 部活動指導における外部指導員等の導入
- 8 年次有給休暇等の計画的な取得を推進する
- 9 ICT機器の積極的な活用を促進する
- 10 家庭や地域との連携・協働を図る
- 11 外部人材の活用
- 12 タイムカード等による客観的な勤務時間管理
- 13 校務支援システムの導入
- 14 その他（

大阪狭山市の教育に関して、望まれることや具体的な提案・感想がございましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。